

国際理解 第7号

1990



カポエイラ (アフリカ黒人奴隷により
伝承されたブラジル特有の闘技)

岡山県国際理解教育研究会

目

次

ご 挨拶

ご 挨拶

婦国教師に望むこと

国際理解をめざして

冊子「国際理解」に寄せる

婦国教師に望むこと

世界の日本人学校から（現派遣者のレポート）

1. シンガポール日本人学校の歴史と現状

2. 小さな大国、シンガポールのめざすもの

3. ソウル日本人学校

4. 北京日本人学校

5. 常夏の国—フィリピンから

6. マレーシアより

7. 台北日本人学校から

8. 続・台湾からこんにちは

9. シカゴ補習校雑感

10. 暴動から半年

11. 日本人としての人間教育

12. 西ドイツ第二の大都市ハンブルグ

13. フランクフルト日本人国際学校

14. ルーマニアの人々

15. サウジアラビアとは？

16. 現地校参観を中心に

熊代剛士	谷口澄夫	小寺晃児	平井睦巳	高坂睦年	田中治彦	赤田良雄	林田明紀	黒田義廣	三宅英二	村下英志	森英三	斉藤三郎	栗坂史朗	栗坂史朗	片山主計	太田直宏	三村秀樹	竹本健司	平川公之助	西崎正明	橋本拓治	菅野一雄	安藤一雄	
1	3	5	7	9	11	16	24	29	33	36	39	43	47	51	54	57	60	63	68	71	74	77	81	85

世界の国々に学ぶ(船国教師のレポート)

1. 外国雑感 垣見憲治 80
2. 白樺のなかの三年間 土屋丹 84
3. アマゾンに暮らして 横山福水 94
4. 国際学級のある日本人学校 赤木寛 98
5. 一九九七年・香港返還 阿比留博 104
6. イランへの旅立ち 根葉健児 113

子供のための世界の国々に

1. ドイツ人気質 三宅正勝 118
 2. 続・先生の西洋見聞録 三宅詠子 127
 3. 子供のためのドイツ歳時記 高木直美 133
 4. アルゼンチン日系移民の人々 佐川慶三 146
 5. Favorite Stories From Asia (Part III) 井関繁孝 152
- 国際色豊かな教職員(現地への適応)
 中国の歴史をどう見るか(日本と中国の歴史教科書を比較して)
 *Bathala and the rainbow*を題材としての授業 黒田忠男 162
- 第六回国際理解講座シンポジウム 根葉健児 175
- 第一回国際理解講座in倉敷を終えて 寺脇政富 179
- 第一回国際理解のつどい 根葉健児 181
- 全国国際理解教育研究大会(第十六回)報告 根葉健児 183
- 船国子女教育研究発表会 根葉健児 185
- 事務局だより 根葉健児 187
- 海外派遣者名簿(船国者) 根葉健児 188
- 現派遣者名簿 根葉健児 188
- 役員名簿 根葉健児 188
- 本则会則 根葉健児 188



会長 熊代 剛 士

私たちの冊子「国際理解」も第七号になりました。

海外子女教育に携わった私たちは、教育という大切な仕事と共に、外地に、旅人としてでなく住民として三年間生活してまいりました。

そのことは、二つの側面を持っていると思うのです。一つは、日本人学校という日本の学校とはやや趣きを異にする学校に勤め、日本人でありながら日本国内の子が失ってしまった雑草のようなたくましさを持った子どもを教えたことです。教えたというより、生活を共にしたといった方が妥当なような気さえします。

自分のことは自分でやり、自分で考え、どんなことにも眼を輝かせてたち向かっていく。そんな子どもとの三年間でした。

これは、二十一世紀の教育が求める「個性重視」の教育のまっただ中に居て、それを体験したと言えるのではないのでしょうか。そのことを日本の教育の中に、子どもたちの中に生かしていくという使命を私たちは背負っているのではないのでしょうか。

今ひとつの面は、海外に住んだということです。見聞録でなく、それぞれの国の国民性やその国その国の人々の思いを伝えなければならぬ位置にあると思うのです。

近年、海外に関心を持つ人々が急激に増加しているとき、私たちの体験した海外在住のレポートは、心を伝える一味ちがったガイドブックにもなるのではないかと期待するのです。

こんな思いで、私たちは私たちの冊子「国際理解」を育てて参りました。

岡山県から海外日本人学校へ派遣された私たちの仲間は年々ふえ、現在（一九八九年）派遣中の者二十三名を含めて八十五名になっています。

現在派遣中の先生方からは、各国の最新情報が、そしてシリーズ「子供のための世界の国々」など「国際理解」も年々充実してまいりました。

幸い、本年度も我々の研究に対して財団法人・福武教育振興財団から助成金を戴くことができました。そして、御協賛いただいた各社、さらに、ご多忙の中を玉稿をお寄せいただいた関係各位に厚くお礼申し上げます。

ご挨拶



福武教育振興財団理事長 谷 口 澄 夫

日本人学校は、大使館・マスコミ・商社等の海外に勤務する方々の子女で、義務教育年齢にある者の教育を国内と同様に保障するために設けられたものである。国際化の進展とともに日本人学校の数が年々増加の一途をたどっており、岡山県から派遣される先生が毎年十数人を教えるほどになっていると聞いている。

日本人学校は海外にあるため困難な環境の中に置かれている。しかしまた、ユニークな教育を展開することが可能であるともいわれている。もちろん、我が国の義務教育を海外の日本人子女に保障することが主目的であるから、文部省の学習指導要領に基づく内容の学習を展開するよう努めることがまず第一である。しかし、このような学校では、その国の自然や文化を理解し、その国の子供たちと交流を深めることができる。在外教育施設で体験的に国際感覚を研いた子供たちは、将来の我が国にとって貴重な人材として期待できる。学校の置かれた国情やその地域の自然や文化を織り込んだ学習、現地の子供たちとの交流を深める活動など、それぞれの学校で特色ある教育が展開できるよう工夫していただきたい。

海外滞在中は、日本人学校の教員として児童生徒の指導に励むことが本務であるが、子供たちに率先垂範して、現地理解と交流を深めていただきたい。そのためには、テーマをもって日頃からメモランダムや写真をとっておくとか、現地の言葉に習熟するよう努めるとか、常に相手の国の歴史や国情をよく理解したうえで接することが大切ではなからうか。

三か年の海外勤務を終えて帰国された先生方がすでに七十名を越え、皆さんで本研究会を組織され、今では国際理解教育の面で県下の中核的な研究団体となっていることは、広く教育関係者に承知されているところである。日本人学校派遣の余光を発揮していただいて、現在の勤務校で国際色豊かな授業をされたり、クラブ活動や学校行事で国際交流を深められたり、社会教育で講演されたり、外国人をホームステイに招いたりして、派遣が終了した後もますます国際理解教育に励んでおられる先生方のご努力に敬意を表すとともに、今後、ますます本研究会が発展充実することを祈念する次第である。

帰国教師に望むこと



岡山県総合文化センター

館長 小寺 晃

平成元年には約一千万人もが海外旅行に出かけたようである。こうした数のうえからは、確かにわが国も国際化されていると考えて間違いないだろう。また、少なくとも経済大国、技術大国であると諸外国からはみられている。

しかし、昨年末からの東欧諸国を中心とした新たな政治的動向などにみられるように、歴史的な「変化の時代」を迎えていることも事実であり、海外旅行者の数や経済・技術力のみならず、わが国が今後どのように世界の平和と繁栄のために貢献していくかが、最大の課題として問われてきている。

そのためには、国際感覚豊かな人材の育成が不可欠であり、その多くは必然的に学校教育に負うところ大である。

ところで、近年「国際化」という言葉があふれ、国際化の問題が繰り返し論じられているが、その定義や目的は厳密には検討されていないように思う。随時教育審議会の答

申の中に「国際社会に通用する日本人として、主体性を確立しつつも自らを相対化する態度と能力を有することが要請される」とある。これについて、日本が中心でないことを自覚し、地球儀的世界観を持つことなどの指摘もある。また、本当の国際化というのは、自分の国とほかの国との区別をあまりしないことなどの説明もある。

いずれにしても、わが国の真の国際化実現のためには、世界的視野を持つ人材の育成を担う学校の先生方に大きく期待するところである。

現在岡山県から海外日本人学校に派遣されている先生方は二十名を超え、世界の各国で日本人子弟の教育に携っている。滞在期間は一応三年間であるが、この間外国での生活で得られた国際感覚は、現在の日本の学校現場では極めて貴重なものであり、そうした先生方の体験が学校教育の中で十分生かされることが必要である。

同時に、国際化を緊急課題とするわが国にとって、何万人にも達する海外生活を経験した子供たちを忘れてはならない。この子供たちの持つ外国語の能力や外国での経験を十分生かさせることは、大きな国家的利益である。

せっかく学んだ世界についての貴重な記憶や学習経験を日本の教育にはそぐわないものとして子供たちの頭から消しゴムでこするように消し去り、外国に行く前と同じ状態

にするような帰国子女対策は避けなくてはならない。このためにも、帰国子女の教育には、従来の集団帰属的な発想や規制一点張りの管理主義ではなく、幅広い視野を身につけた先生方の指導を中心とした、開かれた学校への変革が是非必要である。

こうした観点に立てば、海外日本人学校での経験を踏まえられた先生方の国際的視野での指導性が、今後ますます要請されてくるのである。幸いにも、本県においてもすでに多くの帰国教師を数えることができる。世界が一つの地球国家になろうとしている現在、世界の相互依存の深さを学び、世界の多様な異文化に直接触れることのできた帰国教師の方々を中心に、国際社会に通用する人材の育成について一層のご努力をたまり、わが国の真の意味での国際化の実現に貢献されることをご期待申し上げる次第である。

国際理解をめざして



県立岡山城東高校長 平井 睦 巳

本校の教育目標の一つに「日本ならびに世界の文化と伝統への理解を深め、国際感覚と国際協調の精神を養う」を掲げています。豊かな国際感覚と広い国際的視野を持つことは、国際理解教育の大きなねらいであると思います。とかく「国際理解」とは——、「国際理解教育」とは——、と言葉のみが先行し、その実体はどうかとなるという問題があるように思われます。何をどうすることが国際理解教育なのか。その答えもまたいろいろあるうかと思えます。

国際理解を進める上で大切なことの一つに、「国際的相違」の認識、理解があります。考え方の違いに始まって、いろんな暮し方、生き方があることを知り、違うことをしているけれど、人間としては同じなんだと気づくことが出発点だといってよいでしょう。

国際理解には、英語が話せること、外国へ何度も行くこと、外国についての活字的知識を持つこと、などが必要だという感覚が強いのですが、それはそれとして、日本人として国際社会に慣れること、なかんづく若者が世界に対する知的好奇心を大いに燃やし、実地に外国へ出かけて行き、自らの体験を積み重ねていくことは、国際理解への大きな手立てとなることは申すまでもありません。

その際若者に自分の国や郷土の正しい理解と郷土愛など、より深く日本を理解しておくことを忘れてはなりません。外国事情から日本事情へ、さらに外国事情へと絶えずフィードバックする指導や評価の重視が大切であると思います。

本校ではこうした観点から開校（昭和六十二年度）以来、ホームステイ（夏休み中一カ月間、一年生対象に米国へ百名前後。本年は豪州へも二十名。豪州から二つの高校各二十名が本校へ）、交換留学（豪州の高校と姉妹校として各一名）、留学生受け入れ（米国、スイスから各一名）、海外帰国子女の受け入れ（現在まで日本人学校から二名、その他一名）、等積極的に国際交流に心がけています。また国際理解部の部活動においてもユニークな内容の活動を行っています。

最後に、私たちが「国際理解」をいう場合、とかく欧米中心に目が向けられ、周辺アジアをはじめ発展途上国への関心が忘れられがちになっています。まずアジアの日本として近隣諸国との協調と協力が大切であることを忘れず、英語一辺倒の語学教育によって国際理解教育が進展するという偏狭さを克服しなければと考えています。

冊子「国際理解」に寄せる



岡山日米文化協会

会長 高坂 睦年

この半世紀の地球上の様々な変化の中で、最も大きなことは、人類が地球を狭いものにしたことであろう。そして地球のあらゆる部分に住んでいる人々、すべての生きものを、運命共同体の小舟に乗せた。

狭くなった地球の上では、お互いが譲り合い、補い合っており、無駄を省きながら生きて行かねばならない。今日の日本はその中でかなり広い生活スペースを占有するに至った。それだけ地球社会の上で分担する役割も責任も、昔とは比べものにならない程大きなものとなったのである。

家庭にいてベリコモヤド・ミンゴの歌も聞かれるし、名画モナリザも、ゴッホのひまわりも、映像を通して見ることが出来る。同時に又、アフリカや亜細亜の難民の姿も、中近東の、或いは中央アメリカ地方の火器を持った民族間の争いも目に入ってくる。

中世ヨーロッパの国道沿いに立つウェイハウスの様に、

東西南北いろいろな人々の往来があり、いろいろな物資が集まり、病気までも交換されて、世界の文化・情報の大市場となった。

欧州の国々が共同体という新しい国家構想を考え出したのは、単に経済的な理由によるものでなく、人間の往来が国境を塗りつぶし、人間の血の交りが進んで行く結果、その様になっていくのが自然であると思われる。

日本がアジア諸国間のウェイハウスの地位を何時まで持ち続けていけるかは分らないが、国際社会の中で、経済も文化も、そして人々の交りも、外部との間に障壁を構えていることは不可能となる。そして、外人」という言葉は自然に無くなってしまおうだろう。

国際理解第六号を読むうち、一頁繰れば国が変わり、又一頁戻れば前に居た国に帰ることが出来る。国々を渡ることがいとも簡単で、自分が現在そこを往来している様な錯覚にさえおちいる様だ。然し、将来は錯覚でなくて、実際その様なことが可能になるのではなからうか。この冊子に出て来る地域の風物はどれも明るく、温かく記されており、そこに住んでいる人々と直ぐにいい友達になれそうな気がする。

「内的国際化」が必要とよく言われている。われわれ日本人の心の中にある「外人」との差別を取り除き、同じ人

類としての相互愛に醒めることが、国際理解の基本的条件である。昨今、南西海上より漂着する人々をポートピーブル、難民という。この言葉には、われわれの方が優れた者という無意識的意識が働いてはいないだろうか。今世紀の始め頃、多くの同胞が悲愴な覚悟でハワイやブラジルに渡った時の姿を思い浮べて、立場を漂着する人々に置き換えてみるのが大切だと思う。

派遣教師の現地ルポが、文字を通じ、視聴覚に訴えて、多くの人々にくまなく伝えられていくことが、現地日本人学童への補習教育や、帰国後子女対策の一つとしての教育目的を越えたところで、巾広い国際理解へのよい道しるべともなると思う。

帰国教師に望むこと

岡山大学 田 中 治 彦

日本の国際化は私たちの想像を超える速さで進んでおり、国際問題には常に注意を払っている私のような者でも時としてどきもを抜かれるようなことが起こる。この五月から次々と漂着している中国系の難民の問題、その中国系難民を恐れてベトナム難民が収容施設から逃げ惑うという事件がそれである。

これらの事件は今後日本が抱える大きな課題を暗示している。近い将来、即ちここ数年の内にアジア各国から日本を目標して多くの難民や外国人労働者が殺到するであろう。既に東京の池袋から新宿にかけては中国人、フィリピン人、パキスタン人などの住む地域が形成されており、歌舞伎町の飲み屋街で外国人を雇っていない店はないだろうと言われている程である。岡山でも数年前からバーやスナックを中心にいわゆる「ジャバゆきさん」が働くようになってい

時間の問題であろう。

日本の国際化はモノからカネへ、そしていよいよヒトへと移りつつある。私たちの生活はモノのレベルではとくに国際化していた。夏をクーラーの中で快適にすごせるのも、冬をこたつの中で暖まれるのも中東の石油のおかげである。トイレット・ペーパーをふんだんに使用できるのはマレーシアの森林のおかげであるし、四季を問わずエビを食することができるのもそれを養殖しているアジア各国のおかげである。

カネの国際化も身近に感じられるようになった。定時ニユースの最後に必ず円とドルの交換レートが表示されるのは、ビジネスマンから海外旅行者まで円のレートによって利害を生ずる日本人がかなりいる証拠である。

そしてヒトの国際化がやってきた。日本人が海外に行くだけでなく、さまざまな人びとが日本にやってくるようになった。アジアからの留学生、インドシナ難民、外国人労働者……その数は急速に増えようとしている。アメリカやヨーロッパで起こったことを見れば、日本が外国人の労働者を締め出すことができないことは明らかである。好むと好まざるとにかかわらず、私たちの回りの地域社会にアジア各国の人びとを受け入れなければならなくなる。彼らの子どもたちは我々の子どもと同じ学校に行くようになる。

クラスに何人かは外国からの子どもたちが勉強するようになる。日本人である帰国子女でさえ苦労しているのであるから、言葉が不自由で習慣も違うアジアの子どもたちを迎えた時の困難さは想像に余りある。

そうした時、もっとも頼りになるのは外国生活の経験が豊かな教師たちである。違った文化をもった人びとと日常的につきあつていくことがいかに大変なことであるかを知つていて、異文化に対してはつとめて寛容であるべきことを同僚に説得できるのは帰国教師たちであるはずだ。

東京の町を逃げ惑う難民の姿を見て子どもたちはどう感じたろうか。難民が万引をしたというようなニュースを聞いた子どもたちは彼らにどんな感情をもつたろうか。ほっておけば偏見が生まれるだけで、「共に生きていく」仲間という感覚は望むべくもない。中国やベトナムの人びとはなぜ国を捨て日本に来たのか、アジアの国々はなぜ貧しいのか、彼らはもともとどのような生活をしていたのか、ということを誰かが子どもたちに話してやらねばならない。それができるのが、またしなければならないのが帰国教師たちであることは言うまでもないであろう。

世界の日本人学校から

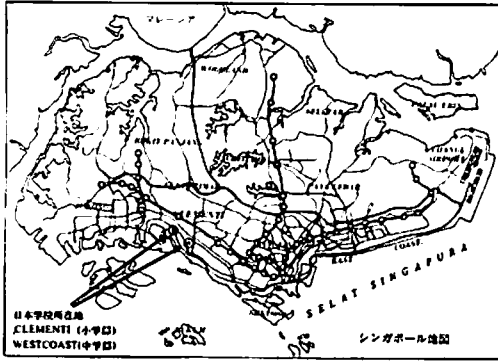
現派遣者のレポート

- | | |
|--|---------------|
| 1. シンガポール日本人学校の歴史と現状
(シンガポール日本人学校) | 赤田 卓美
林 良紀 |
| 2. 小さな大国、シンガポールのめざすもの
(シンガポール日本人学校) | 黒田 明雄 |
| 3. ソウル日本人学校
(大韓民国ソウル日本人学校) | 三宅 義廣 |
| 4. 北京日本人学校
(北京日本人学校) | 村下 英二 |
| 5. 常夏の国—フィリピンから
(フィリピン・マニラ日本人学校) | 森 英志 |
| 6. マレーシアより
(クアラルンプール日本人学校) | 斉藤 輝三 |
| 7. 台北日本人学校から
(台北日本人学校) | 栗坂 史朗 |
| 8. 続・台湾からこんにちは
(台中日本人学校) | 片山 主計 |
| 9. シカゴ補習校雑感
(シカゴ補習校) | 太田 直宏 |
| 10. 暴動から半年
(カラカス日本人学校) | 三村 秀樹 |
| 11. 日本人としての人間教育
(グアテマラ日本人学校) | 竹本 健司 |
| 12. 西ドイツ第二の大都市ハンブルグ
(ハンブルグ日本人学校) | 平川公之助 |
| 13. フランクフルト日本人国際学校
(フランクフルト日本人国際学校) | 西崎 正明 |
| 14. ルーマニアの人々
(ブカレスト日本人学校) | 橋本 拓治 |
| 15. サウジアラビアとは？
(サウジアラビア王国・リアド日本人学校) | 菅野 和良 |
| 16. 現地校参観を中心に
(エジプト・カイロ日本人学校) | 安藤 一雄 |

シンガポール日本人学校の 歴史と現状

シンガポール日本人学校
 倉敷市立万寿小学校 赤田卓美
 岡山市立芳泉小学校 林良紀

あざやかな緑、青空にかぶ高層ビル、熱帯の植物にか

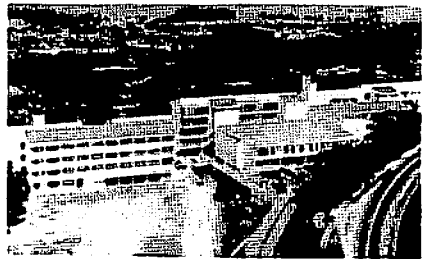


こまれた美しい道路。東洋の公園都市とよばれるシンガポール。そのシンガポールの南部ウエストコーストロード沿いに日本人学校は、位置している。中心部から、ややなれたしずかな環境の中にあり、学校の前は、シンガポール

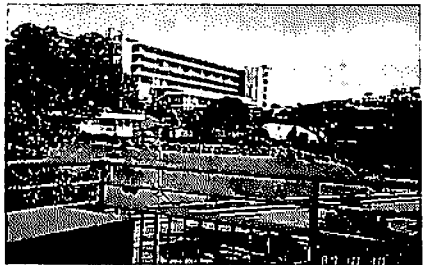
写真②



学校全景

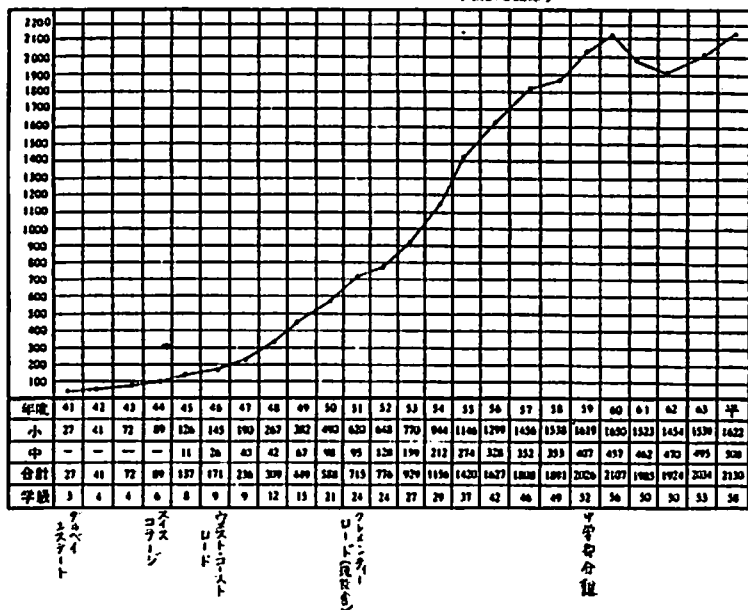


写真①



国立大学、学校のうらはは、クレメンティの森。さしずめ、緑の木々に囲まれているといってよいだろう。
 写真① 学校の東がわー学校のすぐ前のクレメンティロード。丘の上の建て物はシンガポール大学。
 写真② 学校の西がわークレメンティの森がひろがっている。森のむこうに、ウ

④ 児童生徒の推移（平成元年度は昭41同校以来最高の在籍数と学級数を記録）

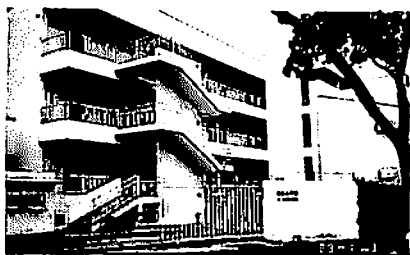


んでいたが、その中の有志の援助を得て、公的な機関のうしろ立てもなく開校にこぎつけた。場所は、ミドルロードにある日本人経営の東洋ホテルを借りたもので、いわば寺小屋のようなものであった。教科内容は、小笠原流の礼儀作法から、国語、算数、修身に至るまで日本と全く変わらなかった。

二、独立校舎できる
 生徒数の増加に伴い、転々と校舎を変えたが、一九一六年に、日本人会の手で経営が移り、一九二〇年、新校舎が建設された。

三、戦時下の日本人学校
 日中戦争を経て、一九四一年頃、日本人の帰国が相つぎ十二月八日の開戦時には、教師三名と数人の児童が残るのみとなった。一九四二年、日本軍の手に落ち、昭南特別市と改称されたシンガポールでは、日本人学校は昭南特別市第一国民学校として元の校舎で、授業が再開された。一九四五年敗戦。抑留所の中に、ジュロン国民学校がつくられ、いつ日本に帰られるかわからない子供達のために教育が続けられた。しかし、一九四六年三月、収容されていた日本人が引き揚げたため一九一二年より三十五年間続いた日本人学校は廃校となった。

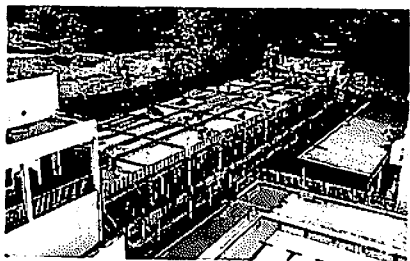
写真⑤



写真③



写真⑥



写真④



エストコーストのHOBフラットの団地が見える。団地のむこうにジュロン工業地帯が広がっている。

写真③ 学校の南がわー丘の上にイスラム教のモスクがたっている。夕方5時になると、教室に、コーランをよむ声が聞こえてくる。

写真④ 学校の北がわークレメンティのHDBフラットがたっている。

写真⑤ 学校の正門―屏の中の小さな小屋はセキュリティガードの詰所。「日本人学校」の文字は、控え目に出す方がよいとのことを目立たないようにしてある。

ここ数年來、児童生徒数は、増加しつづけており、現在の児童数は、小中合わせて約二千百名である。小学部では来年度不足する教室の増築工事が始まっている。施設面でも、児童数の面でも、海外の日本人学校の中で最大規模となったシンガポール日本人学校の歴史と現状を簡単に紹介してみたい。

(一) 学校の歴史

一、日本人学校誕生

一九一二年十一月三日に、シンガポールに、日本人学校が誕生した。発足当時は、教員一名、児童二十八名であった。明治末期、すでに数百人の日本人がシンガポールに住

四、日本人学校再開

一九六六年、大正元年の時とはほぼ同じ規模で日本人学校再開。その当時は、日本に対し「血債追討」が叫ばれ、対日感情は、極端に悪かったが、多くの進出企業や父母の建設的な協力に負うところが大きかった。児童は、増加の一度をたどり、三度校舎を移転した。

五、中学部分離、移転

一九七六年、現在の校舎が完成した。そして、小学部に併設されていた中学部も生徒増加に伴い一九八四年分離した。

以上、極めて簡単に、日本人学校の歴史を書いてみた。しかし、教員は、三年ごとに変わり、また、児童にしても平均滞在年数三年が大半を占めている。教員、児童、父母の意識の中では、現在のシンガポール日本人学校と戦前の学校とは、断絶しているように思われる。

(二) 学校の現状

国際校としての特徴として次の四点について述べてみたい。

○英会話教育の重視

本校には、二十数名の英会話の現地採用教員がいる。シンガポリアンの先生だけでなくマレーシア、イギリス、

アメリカ、オーストラリア、ニュージーランド、ドイツなど、さまざまな国の出身者が採用されている。シンガポールが、東洋と西洋を結ぶ国際都市であるということを考え、試みるとうなづけると思う。児童は、習熟度別に五、六クラスに分けられ、低学年週二時間、高学年週三時間の授業が実施されている。講師は、ESL (English for

Second Language) 教授法について研修を重ねるとともに、簡単な日本語を話す人も数名いて、楽しく授業が、すすめられている。また日本から来たばかりの児童、及び初級クラスの児童に対しては、週一回放課後補習がおこなわれている。

職員室が、英会話の講師たちと同じであるため、職員の間を、英語、中国語、マレー語、日本語がとびかっている。私は、赴任当初ただただあっけにとられ、ずいぶん気疲れしたものだ。講師、職員、スタッフとも大変仲良く仕事をしており、なごやかな雰囲気である。

○現地校との交換行事

―直接交流と間接交流―

本校は、大規模校であるために、直接交流学年は、二年と五年に設定されている。それぞれ年二回の直接交流会の機会をもつ。特に昨年度からは、ローカル校を、単なる「お客さん」的に扱うのではなく、一緒に遊んだり歌ったりす

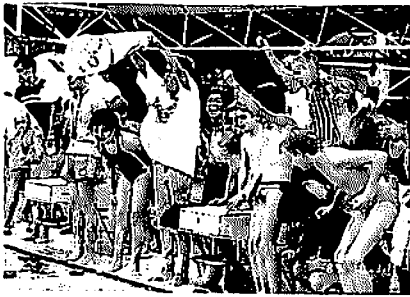


る活動を取り入れ、ひとりひとりが積極的に交流会に参加できるように仕向けている。二年生は、ヘンリー・パーク小学校とゲームや歌を中心とした交流会を持っている。また五年生は、テマセク校を、七夕まつりに招待し、日本の文化（おり紙、古いあそび、習字など）を紹介している。子供たちの間では、交流会のあとも、個人レベルで文通や行き来が続いている。サッカー、バスケット、バレーボールなどの体育系クラブでは、年数回のローカル校との親善試合を通して交流を図っている。

また、昭和六十二年度から、日本人学校が主催してシンガポールにある外国人

学校（フレンチスクール、ジャーマンスクール、インターナショナル）を対象とした国際水泳大会をおこなっている。（シンガポールのローカル校では、ほとんど水泳授業をやっていないため）選抜選手のみ参加する訳だが、会場は、まるでミニオリンピック。父兄の応援で大変盛り上がり、子供たちにとってよい体験になっている。

直接交流のない学年では、社会科、理科、学級指導、音楽、図工などの教科の中に、現地素材を取り入れることで、国際理解を図っている。本校では、職員の約半数が、ビデオカメラを持っており、しかも、放送設備が充実しているため、ビデオを編集し、授業にとり入れている。私も一シ



(2) 平成元年度の研究テーマについて

本年度の研究テーマを

新指導要領の趣旨を踏まえ、シンガポールの特性を生かした教育活動を求めて

と設定した。

①テーマ設定の理由

昨年度の研究の反省で、引き続きこのテーマでの研究の継続と発展の必要性が確認された。

さらには、教育過程基準の改善について苦申がなされ、その中で改善のねらいとして次の四点が示された。

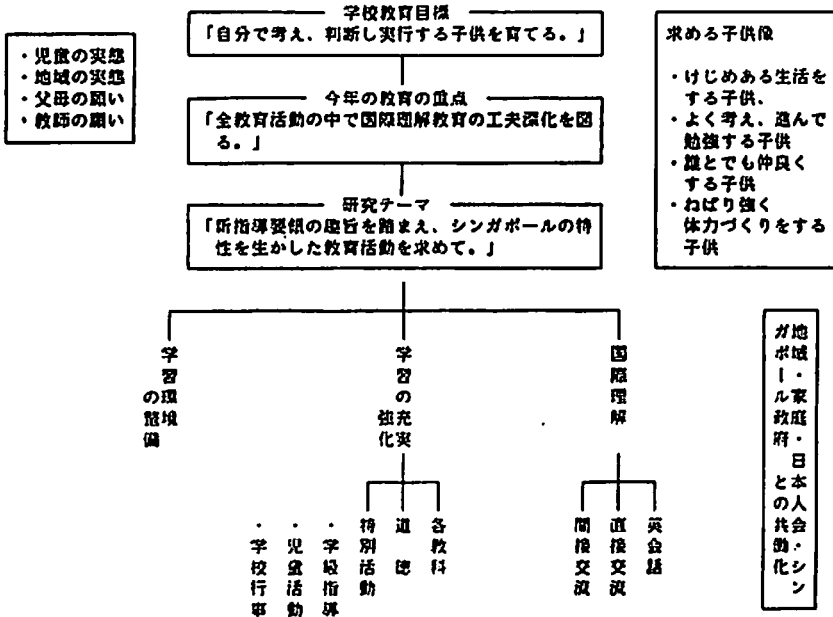
1. 豊かな心を持ち、たくましく生きる人間の育成を図ること。
 2. 自ら学ぶ意欲と社会の変化に主体的に対応できる能力の育成を重視すること。
 3. 国民として必要とされる基礎的・基本的な内容を重視し、個性を生かす教育の充実を図ること。
 4. 国際理解を深め、我が国の文化と伝統を尊重する態度の育成を重視すること。
- 又、学校長より、本年度の学校教育重点目標として

全教育活動の中で国際理解教育の工夫・深化を図る

が示された。

- ・ 以上のことや海外日本人学校の使命及び過去の研究の成果をベースに新指導要領の趣旨も取り入れた研究テーマが設定されたのである。
- ・ 今年度は特にしっかりとした共通理解に基づく理論・仮説をスタートに地道な教材研究と授業実践による研究の積み上げを図っていこうと考えている。

②研究の全体構想



ンガポールの歴史」「シンガポールに古くから伝わるあそび」「アंकロンの紹介」などをつくってみた。

○現地理解のための資料作成

日本の教科書をつかっている、気候、風土、価値観など大きく異なるので、社会科や理科では、現地事情を取り入れた副読本を作成している。また、今年は、重点目標を受けて、研究テーマ「新指導要領の趣旨を踏まえシンガポールの特性を生かした教育活動を求めて」と設定されている。直接交流することだけが、国際理解に通じるのではなく、日々の授業の中に、現地の素材を効果的に取り入れることで、子供たちの目の向け方を変えていこうとしている訳である。

○子供たちの様子

現在、本校では、四十六台のスクールバスが運行されている。(学校のバスではなく、バス共同組合に所属するバスである。)登下校時ともなると、これらのバスがずらりと並び、そのバス番号が、テレビで各教室に流され、子供たちは、自分で、自分のバスへのりこむわけである。本校は、年間を通じて、日本からの見学者が絶えないのだが、このずらり並んだバスを見て、みなさん一様に驚き、そして、「よく迷い子になりませんねえ」とおっしゃる。けれど、子供たちは、もう慣れたもので、一年生の転入生でも二

三日あれば、自分のバスを覚えてしまうようだ。

ほとんどの子供たちは、朝六時すぎに起き朝ごはんをつめこみ、六時三十分から四十分ごろには、ピックアップ場所所に集合。そして七時前後に出発。(場所によっては、もっと早い時刻に出発。)学校到着は、八時前後だから、平均して三十〜四十分、クレーなしのスクールバスにゆられてくるわけである。私も、何度か乗ってみたが、やっぱり暑い。そして窓をあけて走るため、エンジン音のうるさいこと。(新しいバスは、ほとんどない。)

朝、走っているスクールバスの窓から見える子供たちは、ほとんどいねむりをしている。低学年の子供にとっては、かなりしんどいと思われる。

学校での一日の生活の流れは、日本とはほぼ同じである。ただ、下校バスの時刻がきまっているため、かなり忙しい。その忙しさの合い間をぬって子供たちは、外で、本当によく遊ぶ。キラキラ照りつける太陽の下、まるで頭から水がかぶったのではないかと思うほど汗をいっぱいかいて。いったん家に帰ると、マンションの敷地内、あるいは建て物の中で遊ぶ子供が多いため、やはり学校で友達と遊ぶ時間は、本当に楽しそうである。

シンガポールに赴任して二年半、子供たちの汗まみれの笑顔に、何度となく励まされ、無事に任期を終えようとし

ている。(大規模校であるが故の問題点も抱えてはいるが)日本に帰ってから、この三年間の経験を今後の教育活動に生かしていきたい。外から日本をながめることができたという経験を、どう日本の子供たちのために役立てることができるか—今後の私たちの課題である。

小さな大国、 シンガポールのめざすもの

シンガポール日本人学校
 倉敷市立西阿知小学校 黒田明雄

シンガポールは淡路島とはほぼ同面積の東南アジア最小の国である。治安がよく生活に不自由はほとんどない。

面積	625.6平方キロメートル(東西42km, 南北23km)
人口	2,647.1千人(1988.6.30現在)
民族構成	中国系 76.0% マレー系 15.1% インド系 6.5% その他 2.4%
言語	マレー語, 中国語, 英語, タミール語(公用語)
宗教	イスラム教, 仏教, キリスト教, ヒンズー教, シンキム教, ユダヤ教, 拝火教等, 憲法により信仰の自由が保証

表1. シンガポールの外観

そのシンガポールが一体どんな国なのかを大きく三つの観点から述べてみたい。

一、国民的統合

シンガポールは約百七十年前より、マレー人、インド人が移住し



世界一高いホテル、ウェスティングスタンフォードからオーチャード・ロードを眺める

てきてきた、
 複合民族国家
 である。マレーシアから独立して約二十五年の非常に若い国である。国全体が、さながら東京を緑いっぱいにした感じの近代都市国家、ガーデンシテ

イである。
 平和で美しい国であるが、人種問題に非常に気をつけている。多民族のこの国をまとめていくためには避けて通ることのできない問題なのである。

卓越した指導力をもつ、リー・クワンユー首相は、多様性の中の統一を掲げて国民的統合をはかり、各民族がそれぞれの特徴を保持しながら一つの国民「シンガポリアン」(シンガポール人)を形成するようにつとめている。この国の人々に「あなたは何人ですか」と問えば、「チャイニ

ーズ(中国人)です』「マレー(マレー人)です』「インディアン(インド人)です』の答えはなく、「シンガポリアンです』の答えが返ってくる。これこそリー首相が求めていたものに他ならない。

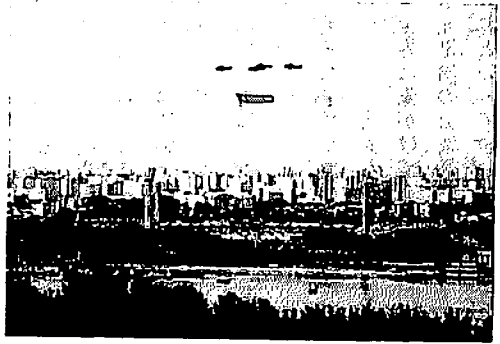
言語を例にとってみると、シンガポリアンは、それぞれの民族の言葉を話す。中国系は中国語、(方言があるため中国語の標準語であるマンダリンに加えて、自分の出身地の方言、^{広東語}、^{福建語}などを話す)マレー系はマレー語、インド系はタミール語である。しかし、それぞれの民族がその民族の言葉で話しては民族間を越える会話はできない。そこで共通語としての英語が非常に重要になってくるのである。英語とはいってもシンガポール訛りの英語で(かつてはイギリスの植民地であったため、ブリティッシュ・イングリッシュではあるが、日本人が話せば日本語英語になるのと同様に、なんとなくシンガポール独特の発音やイントネーションが混じる)我々はこれをイングリッシュならぬシングリッシュと呼んでいる。その英語を操りながらむこうを向いてマンダリンを話したり、時としてチャポンンになったりと、日本人から見ればいとも簡単に言葉を切り換える。各民族の言語+英語の、最低二種類の言語いやそれ以上話すことのできるがこの国ではあたり前なのである。とにかく英語が民族間の交流と統合をはかる

上で文字通りキーワードになっている。

次に宗教を見てみると、宗教の自由が認められており、中国系は仏教、マレー系はイスラム教(回教)、インド系はヒンズー教と大別できるが、近年、民族を超えてクリスチャンが多くなっていると聞く。

更に祝祭日を例にとってみると、いかにそれぞれの民族を尊重し、かつ、シンガポリアンとしての国民的統合をはかっているかがよく理解できる。正月は四回ある。いわゆる New Year's Day, 中国系の人々の Chinese New Year, マレー系の Hari Raya Pusa (ハリヤプサ)、インド系の Deepa Vaili (ディーババリ)である。その他にも各民俗の伝統的行事にあわせて祝祭日がある。

中でも毎年八月九日の独立記念日(National Day)には国民意識を盛り上げるために共通の祝日として盛大な催しが行われる。このナショナルデーが近づくとき、家々の窓辺に赤と白の国旗がズラリと並べられる。その光景は非常に印象的である。Sing Singaporeとしてナショナルデーのテーマソングがあちこちで流れ、一つの国民である意識を高めるのに役立つ。This is my country, this is my flag, this is my future, this is my life, this is my family, these are my friends. We are Singapore,



ナショナルデー：国旗を空軍ヘリが
運搬している光景

Singapore

と胸を張って歌う人々を見てみると、胸にジーンとくるものを感じる。近頃の日本人に欠けている愛国心を思う時、何かしら、うらやましく感じた日本人は一人ではなかつたに違いない。

また、ここでの滞在日数が増すにつれ、資本主義国家と社会主義国家の歴史とその現在をよく分析し、世界各国のよりよい点をうまく取り入れていくことがわかってきた。その例をあげればきりが無い。

自由貿易港のため物が安く手に入ること。観光客を積極的に受け入れ、外貨を獲得していること。日本をはじめとして外国資本を導入し工業に力を入れていること。日常生活に目を向けると、バスや地下鉄運賃など公共機関利用費が安いこと、国民のほとんどが自分の家（HDBと呼ばれる高層住宅）

二、政治と社会
内政不干渉主義を貫いており、この国の政策に対して批判めいたことを言おうものなら二十四時間以内の強制国外退却が待っている。赴任当初、アメリカ大使館員が政治に関して口を出し強制退却を命じられた。わずか二十五年で素晴らしい国に発展してきた理由に、「自分の国は自分で創る。だから口を出さないでほしい」という思想が根底に流れていることを感じた事件であった。



HDB団地：国民の約90%がこのような
高層団地に住んでいる

を持つていること。家のために苦労している日本人からみれば、さほど苦労しないで持ち家が手に入ることには驚きである。中央厚生基金制度によって国民の持家率は百分に近づいている。

また、テレビにはタバコの宣伝はなく、輸入テープも暴力シーン、わいせつシーンはカットされて放送される。ちなみにシンガポリアンの喫煙率は一九八七年で一三、六%と非常に低い。さらに、ゴミのポイ捨ては五百ドルの罰金、公共トイレの水を流し忘れると五百ドル、禁煙エリア（公共機関内はもちろん、映画館などの娯楽施設、室内スポーツ施設、デパートその他室内冷房の効いたレストラン、ホテル）と、吸える所がない位ある。での喫煙にも五百ドル、のように罰金王国である。これらがクリーン&グリーンカントリーとしてさらに多くの観光客をひきつけることにもつながっている。道徳心、国民のマナー向上に罰金制を用いてまでも徹底させようとするそのいきごみには敬礼したくなる。ちなみに私は酒もタバコもやらない無骨者なので、駐車違反の罰金（これがまた厳しく、よく見張っている）以外ご縁がなくホツとしている。また警察組織は日本をお手本にして作られた。衛生面でも充実している。安心して水道の水が飲める。暑いからハエやカが多いのでは、という当初の心配は嘘のようで、今まで我家では一匹もおめにかかったことがない。B型肝炎予防接種の新生児への適用も世界に先がけて実施され、健康地域の一つである。これも先進国の公衆衛生対策にならない率先して実施した成果の表れといっている。

独立以来、PAP (People's Action Party 人民行動党) と呼ばれる与党が実権を握って国民をリードし、今日のシンガポールを築き上げてきた。状況に応じて法律の制定や改正は自由に行われ、実施されてもうまくいかないとわかればまた直ちに法律が変えられる。その対応の速さには目を見張るものがある。

三、教 育

シンガポールは実験国家として注目を集めている。資源のない国の将来をみこした国づくりのために、今、人的資源の育成が尊重されている。

小学校三年生から試験を受けコースが分けられ、その後も試験で能力を試され振り分けられる。大器晩成型はこの国では通用しないのである。私塾も盛んで、日中、外で遊んでいるのはヨーロッパ人か日本人の子くらいのものである。小さいのにメガネをかけている子が多いのにも気がつく。そしてその三〇五%の者だけがシンガポール唯一の大学、シンガポール大学に進むことができる。

おのずと学歴主義で、学歴が仕事やサラリーに大きな影響を与えている。前述のように言語教育にも力が入られ、英語が話せるということが世界に通用するシンガポリアンの大きな強みとなっている。とにかく徹底した早期の人

材づくりが行われている。

教育による「期待される人間像」として、リー首相は次のように語っている。

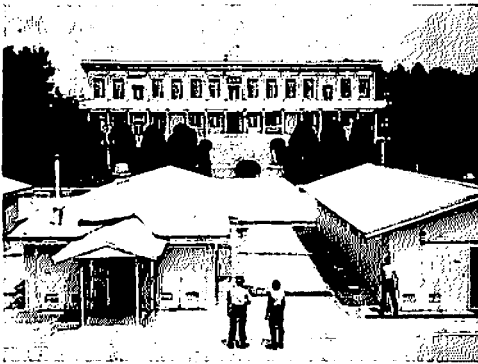
「国家への忠誠心と愛国心、必要な時には良き兵士として国家の防衛に当り、妻子と市民を守る用意のあること。孝行で長上を敬い、法を守り、情深く責任感のあること。異なる人種と宗教への寛容。清潔で身だしなみ良く、時間を守り礼儀正しいこと。」

この言葉の中にシンガポールのめざすものが表われている。

海外に赴任して自分が日本人であるという認識を新たにしました。そして、ここシンガポールを拠点として日本を外から眺めることのできたことに感謝し、東南アジアの状況、社会変動と教育について自分の目でしっかり見つけて帰りたい。それが帰国後の日本での教育に大いに役立つものであることを願ってやまない。

ソウル日本人学校

大韓民国ソウル日本人学校
岡山市立高島中学校 三宅 義廣



現在も緊張が続いている38度線上の板門店

〈二分された韓民族〉

ソウル日本人学校は大韓民国の祝祭日を取り入れて、教育課程を編成しています。秋夕は日本のお盆にあたり九月

中旬（旧暦の八月十五日）で、今年は三連休でした。この期間になると、ソウルの大半の人々は先祖を祀るために故郷に帰ります。まさに民族の大移動が始まります。会社も商店もすべて閉めてしまいま

〈日本人学校の四季〉

す。ところが私のアパートの朴さんご夫妻は商売の花屋を今日も開いています。不思議に思っただけで尋ねてみますと、「私達は北朝鮮から逃れてきましたので、故郷に帰ることが出来ません。家も墓も父母もどうなっているか分かりません」と悲しそうに答えてくれました。思いがけないところで、分裂されている民族の悲しみを知らされました。

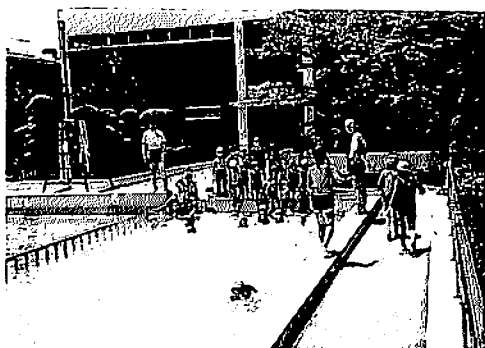
ソウルは、だいたい日本の関東以北に似た気候です。三月後半からの春は一斉に花が咲きます。校庭には、ケナリ



ソウル日本人学校の初夏
（校庭での幼稚部の昼食）

（黄色のれんぎょう）やチンダレイ（赤色のつじ）そして木蓮（白）とほんとうにカラフルです。そして五月に入ると、いつの間にか、花は散り新緑の初夏です。幼稚部の教室前の上空には、ポイラー

技士の李さん、全さんによって、校舎の五階と玄関前のニコニコ山の木にロープが張られ鯉のぼりが泳がされます。



小学部低学年の水泳指導

いい地上の「かささぎ」と「からす」が天の川に連なっている橋となり、「彦星」と「織女星」を会合させるという伝説があります。夏休みに入ると子供達の多くは日本に帰ります。今年は終業式の翌日、運動場で小学部四、五年生がソウル教育大附属国民学校の児童四十名とキャンプ交流をしました。ことばの壁はあっても楽しい一泊二日を通じて日韓の子供達の親密度は深まっていきました。やがて夏はか

六月に入ると急に暑くなり、下旬にはプール開きをします。七月の七夕の竹笹を入手するのに毎年一苦労です。ソウルは雨が少ないためか、竹が育ちませんので遠くプサン方面からとり寄せます。韓国では、七夕を「チルソック」と



現地校との運動場でのキャンプ交流



ソウル日本人学校の秋の大運動会

け足で去っていき、八月の後半は秋の気配がしてきます。日本人学校の第二学期の始業式は、毎年八月二十日前後です。秋の運動会は今年は九月二十四日の日曜日でした。在韓日本大使館大使、日本人会会長、学校運営委員長、現地の学校の先生方など多くの来賓や保護者の前で、練習の成果が発揮され、どの演技にも盛大な拍手が送られました



ソウル日本人学校の校舎

た。とくに日本人学校の向いにある大峙^{オウジ}国民学校二年生男女三百名による「韓国舞踊」と本校の三、四年生による「阿波踊り」の演技は見事であり、両校の交流が一層深まりました。ソウルの空に日本民謡が響くことなどは、創立当初には考えられなかったことのようにです。十月に入ると、朝晩の冷えこみが激しくなり、日本人学校の先生のアパートには、スチームが入ります。民家の多くは、昔ながらのオンドルによる暖房が主です。十一月に入ると学校のボイラにも、火が入り、各教室が暖められます。スチームの木

わくの上には、

子供達の弁当が並べられ、暖められます。戸外の体育は、運動場に水を張ってつくられたアイススケート場でスケートが中心になります。ちなみに昨年の最低気温はマイナス十八度を記

録しました。

へソウル日本人学校のおゆみへ

ソウル日本人学校は、今から十八年前（一九七二年）に日本大使館と韓国政府が、正式の文書を取りかわして、私立各種学校として開校しました。当初の総児童数は三十三名でした。もちろん日本政府からは、日本の義務教育と同じ資格が認定されました。開校当時は貸ビルの一角が教室で、運動場は高速バスの駐車場の一部を借りましたが、市場の騒音などで学習環境としては、決して良いとは言えませんでした。

九年前、漢江の南の現在地に校地を求め、待望の学校が建てられました。創立十八年目を迎えた現在、幼稚部四学級八十七名、小学部十学級二百八十名、中学部四学級百十一名、計四百七十八名の、主に商社、大使館、銀行、マスコミ、合併会社などの保護者の子弟が通う学校に成長しました。校地の総面積一六一〇二平方メートルあり、幼稚部、小学部が学ぶ五階建鉄筋コンクリート校舎と、昨年落成した中学部が学ぶ三階建の校舎、体育館、二十五メートル、五五〇〇平方メートルの運動場があり、周囲も比較的閑静で、めぐまれた教育環境に整えられてきております。

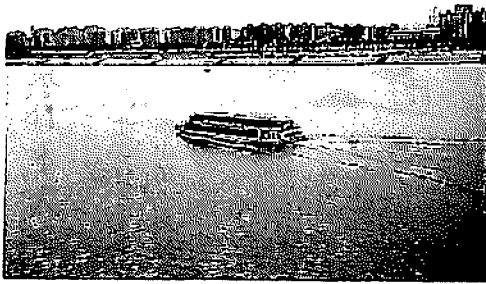
へ教育内容へ

ほとんど日本国内に準じていますが、小学部一年生から

ハンゲル、四年生から英会話を一週一時間ずつ学習する点に特色があります。教育目標は「たくましく、心豊かな世界の子ども」です。また、韓国の小学校や中学校との交流にも力を入れています。スポーツ、学習発表会、キャンプ等を通じて交流し、相互の理解を深めています。
へ海外校としての悩み

① スクールバスでの登下校のため、部活動や学習補充の時間が制限される。

② 特に中学部三年の進路指導は、日本国内の高校への進



旧市内と新興地の江南を分ける
韓国最大の河川漢江

学がほとんどで、しかも出身県が全国にわたり、情報の入手が困難である。
③ 父親を日本人とする国際結婚の破たんから編入してくる児童、生徒が多くなってきており、将来の進路保障に頭を悩まして

いる。

④ 日本でしか入手できない教材の場合、購入するまでの手続きが困難なうえ、日教がかかる。等々の悩みも山積んでいます。

へおわりに

今年の九月三十日、校門にやっと「ソウル日本人学校」の校名板を掲げました。創立以来十八年目？と不思議に思われるでしょうが、歴史上わが国が韓国に対して行った行爲には非難される点が多く、反日感情がたいへん強く、今日まで校名を標示することがはばかられたわけです。しかし、若い世代を中心に日本との関係もどんどん親密度を増してきており、「近くて遠い国」と言われた日韓関係も、徐々に好転し「近くて近い国」へのきざしを見せております。政府派遣の十七名の教員と現地採用の二十七名の教職員が一丸となって、在韓日本人子弟の教育に力を入れると共に、その教育活動を通じて、より一層日韓関係がよくなるよう努力しています。

北京日本人学校

北京日本人学校

岡山市立岡輝中学校 村下英二



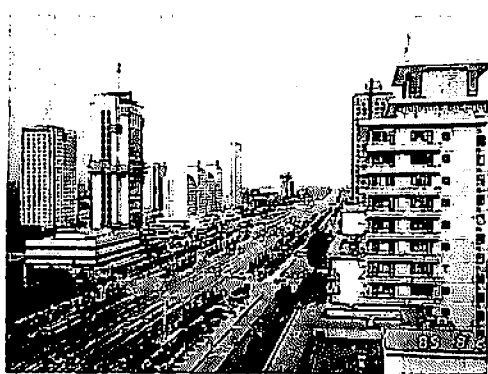
北京市は現在、一九九〇年のアジア大会に向けての競技場やホテルの建設ラッシュで街全体が大きな建設現場のようであり、ここ二、三年のうちに変容した街でもある。その中でも一際高い京廣飯店・王府飯店等

は新しい観光の名所に加わり、故宮・天安門・天壇など古くて世界に誇る建造物があり、新旧が入り乱れてはいるが相反することなく調和し、渾然と溶け込み独特な雰囲気を持つている。そういう街中に児童・生徒たちが居住し、また、北京日本人学校も建設され今年で二年目を迎えている。

児童・生徒たちは年々増加の傾向にあり、今年の五月末には三百四十余名まで数えましたが、「天安門事件」後、二百二十名程になり急増する可能性が少なくなっている。また、在留邦人も四千名強から三千名弱に減少はしましたが、住宅事情・日本料理店・スーパーマーケット等もでき、

ホテル住まいの人々や単身者には歓迎されている。

北京日本人学校の一日の始まりは、スクールバス通学である。各公寓を学校バス八台そして大型バス三台に分乗して登校する。集合場所に出発時間の五分前に集まり、中学



最近の長安街（齊家園公寓より天安門）

部のバス班長の指導の下に毎日元氣よく通っている。

一時限の授業時間は四十五分間で週時数は日本と変わらないが、ただ中学部において主要科目の時間がやや多くなっている。

中国ならではのカリキュラムとして、週二回中国語の授

業があり、中国人の先生が熱心に指導に当たってくれている。各個人により差があるので拼音・初級・中級の三つの段階に分けて指導し、初めての児童・生徒たちにもすぐに学べるようにしている。加えて小学部四年生から外国人教師による英会話の授業が行われている。海外の生活の中で不可



荒れはてた茂陵^{もりやう}（中学部社会科見学）

を含んだ特殊な学校と言える。

現地理解教育

中国に住みながら意外と一般の現地の人々との交流が少ない生活環境の中で暮しているため、現地を知る機会が少ない。そこで学校としては、できるかぎり多くの社会科見学を取り入れ、子供たちの目や耳で見たり聞いたりする体験的学習を通して理解させる必要がある。自由市場・人民公社・地下鉄・天文台・博物館・美術館等を見学したり、現地校を参観し交流したり、ただ学校との交流となると政

欠な語学であり、国際学校との交流会も増え、児童・生徒にとって大切な教科でもある。

学校運営は、大使館・商工会・父母会・学校のそれぞれの代表者で構成する北京日本人学校運営理事会で決定される。従って公・私立的要素

治体制等も異なり難しい状況がある。そのような中で、昨年から続いている日本語学習に力を入れている月壇中学校との交流が少しずつ深まり定期化するようになってい

国際交流

体制が違うため現地交流ができず、また、同じ悩みを持っている国際学校・ドイツ人学校・フランス人学校が年にも四回スポーツ大会を通して国際理解を深めている。その中でも国際学校は、北京日本人学校の隣という好環境にお互い恵まれ、週一回交流をしている。月ごとに交代してその



現地校との交流（バーベキュー遠足）

学校の体育館・グランドを利用して、女子はバスケットボール、男子はサッカーを通して親交している。また生徒たちの英会話の実践の場でもあり、今後いっそう交流を深め、国際理解の推進に努めたいものである。

「天安門事件」



万里の長城（一日徒歩遠足8km完走）

人ひとりが将来友好の橋渡しの存在になってほしいと思う。

以来、学校を取りまく諸問題が生じている。体制の違う国、遠い国からお互いに共存する国という意識をもち仲良くなれるようにしたいと思う。そして、北京日本人学校が日中両国の友好の一翼を担ってほしいと願っている。また、一

常夏の国 フィリピンから

フィリピン・マニラ日本人学校
岡山市立旭操小学校 森 英 志

(一) フィリピンという国

一年半前、不安いっばいで空港に降り立った時おそれた、身体にのしかかってくるようなムツとする熱気、けたましい騒音、おびただしい車、動めく色黒の男たち、なんとごちゃごちゃと騒然とした所だろう。これが、常夏の国フィリピンの第一印象でした。

フィリピンは、東京から飛行機で僅か四時間。大小七〇七の島があり、熱帯に属し、「東洋の真珠」とたとえられ、海を中心とした自然と、トロピカル・フルーツがこの国のセールスポイントと言えます。約四百年間にわたるスペイン、米国による植民地化、太平洋戦争時の日本による占領の後、一九四六年に独立しました。このため、西欧文化の影響を強く受けており、アジアで唯一のキリスト教国であり、英語を公用語とする（現在はピリピーノ語も公共語として普及させている）国です。この国の言葉に「ハロハロ」というのがありますが、「ごちゃませ」とか「いろ

いろ」とかいう意味で、東西文化の接点としてのフィリピンの様相をよく表しており、同じアジアの島国でありながら、日本とはずいぶん趣きを異にしているといえます。

フィリピンの首都は、メトロ・マニラで、人口約六百万人、四市十三区からなります。多くの日本人が住むマカティ地区が、経済の中心地で、高層ビルが林立するオフィス街は、まるで国際都市の様相を呈しています。しかし、全体的には、排気ガスで空気が汚れ、ごみ収集も進まず、激増する自動車による交通渋滞と騒音に悩まされ、清潔で計



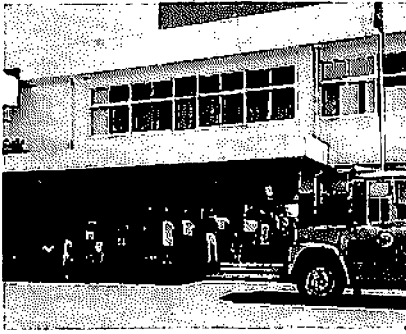
マニラ市内下町の路上の店

画性のある都市とはいえないようです。国民の所得格差が大きく、一方で、プールつきの大邸宅が並ぶヴィレッジと呼ばれる高級住宅地があるかと思えば、その周辺には、メトロマニラの人口の四分の一が住むといわれるスラムも数

多くあり、バロンバロンといわれる掘立て小屋のような粗末な家がひしめきあっている様子も容易に見られます。大卒を卒業したとしても就職難であり、機会があれば、外国に職を求めていくフィリピン人が多いわけです。

(二) マニラ日本人学校

マニラ日本人学校は、メトロ・マニラの郊外、ニノイ・アキノ国際空港の近くにあります。今年で創立二十一年目ですが、十一年前に、市街から現在地に新築移転しました。児童数は、一九八九年十月現在三百八十名、もっとも、ここ数年減少傾向でしたが、この一年間で百名近く増加し、



マニラ日本人学校玄関
スクールバスでの下校風景

日本企業の進出ぶりをうかがわせます。広い敷地には二階建て三棟、体育館、二十五メートルプール、一周二百メートルのトラックを持つ運動場があり、エアコン完備で、施設は大へん整っています。

す。運動場には、やぎが飼われていて、やぎの糞を避けながらの体育も格別です。

現在、教職員はローカルスタッフを含め三十二名。現地校にならって土・日曜の週休二日制です。平日の五日間は、午前八時から午後四時までの七時間授業。現地素材の教材化や、現地校との交流にも積極的に取り組み、現地理解教育をすすめています。

毎週木曜日のお昼休みは、子供達が楽しみにしている時間です。それは「語り聞かせ」があるからです。海外にいて、とかく正しい日本語に疎遠になりがちな子供達に、日本文化の理解の一助にと、ボランティアのお母さん方が学年に応じたお話をして下さるのです。三々五々集まった子供達が思い思いにお話の世界にひたるひとときです。時には、フィリピンの民話も語られ、現地理解の場ともなっています。

現在、私達の学校でかかえている大きな問題は、日本語の理解が不十分な児童の受け入れについてです。即ち、マニラには、短期間の派遣者だけでなく、ここに生活の基盤を持ち活躍している日本人も多く、国際結婚の増加から、日本人を父に、フィリピン人を母に持つ子供達が、数多く入学するようになり、本年度の一年生では、その比率が四十％をこえました。この子供達は、日本人学校入学までは

現地校に通い、家庭においても、母親との会話が、現地
の言葉（タガログ語）か英語であるため、日本語に接する機
会がほとんどなく、日本語に関する能力が不十分なまま
入学してくるわけです。校内の研修でも取り上げ、試行錯
誤の中で、この子供達のために日本語特別クラスを設けて
特別指導をするとか、カリキュラム編成とか、家庭との協
力態勢とかについて研究をすすめています。国際化が進む
中で、これからの日本人学校がかかえる課題の一つともい
えるもので、本校の実践は文部省からも注目されていると
ころですが、子供達の将来の生き方とも関わるものであり、
短時間での解決は難しく、これからの重要な研究課題とい
えます。

紙面の都合で概略しかお知らせできませんでした。機会
がありましたら詳しく報告させていただきます。

マレーシアより

クアラルンプール日本人学校

岡山市立高島小学校 斉藤 輝 三

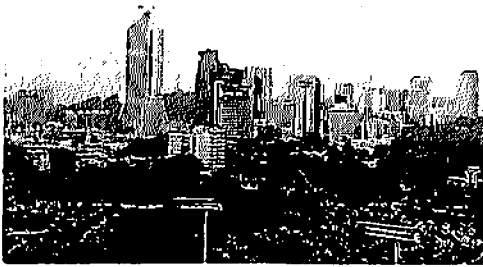
地勢

マレーシアは、マレー半島の南半分を占める西マレーシアと、ボルネオ島の北西部を占める東マレーシアから成り、

どちらも北緯一度〜七度にあります。国土は日本の九割に当たり、その面積の七十％は森林です。

気候

マレーシアの気候は、インド洋、南シナ海に面しているため、アジア季節風の影響を受けて高温多湿、気



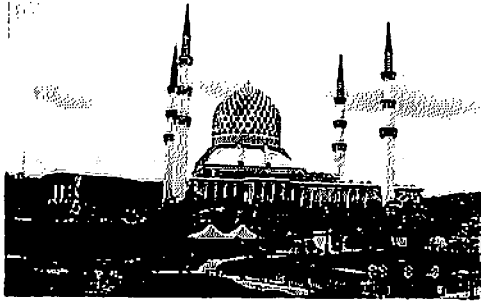
ジャパンクラブよりクアラルンプール市街を望む

温は二十四度〜三十三度位です。四季の変化は認められません。

年間を通じて、昼は酷暑であっても、夜間から早朝にかけては涼しくなるので、しのぎやすいです。

多様な民族構成

マレーシアの総人口は一七三六万人であり、民族構成は



シャールアラムのモスク（回教寺院）

マレー系五十五％、中国系三十三％、インド系十％となつています。マレー系が過半数を占めているとはいえないものの、中国人やインド人などの、いわゆる移民としてこの国に住みつた民族が、かなりな数にのぼっています。彼らは、

それぞれの文化や宗教、生活様式を維持しており、自分たちの社会をこの国の中で形成しています。複合民族国家であるマレーシアは、民族間の文化の違いを認めあいながら、

相手の立場を尊重し同じ国民として、上手に融合してこうとしていきます。イスラム教を国教としながらも、それぞれの信仰の自由を認めていることにもよくあらわれています。

政体

マレーシアは、半島マレーシア十一州、東マレーシア二州、計十三州で構成される連邦国家です。立憲君主制をとおり、元首はマレーシア王国ですが、国全体を統治する王朝は存在しないため、国王は九州のサルタンの中から、五年に一度、サルタン会議の互選によって決定されます。

言語

マレー語、英語、中国語、タミール語など、多数の言語が使用されていますが、マレー語が国語と定められており、公用語もマレー語です。ただ、いちばん通じる言葉は英語のようです。

歴史

ヨーロッパ勢力のアジア進出によって、マラッカ王朝は一五二一年ポルトガルの支配下におかれ、その後、オランダ、イギリスが支配する植民地時代が続きます。第二次世界大戦で、日本軍に侵略、占領され、戦後再びイギリスの軍政下におかれました。一九五七年独立。一九六五年シンガポールが分離独立、現在の十三州となりました。



ナショナルモニュメント
(独立記念碑)

マレーシアと日本との関係

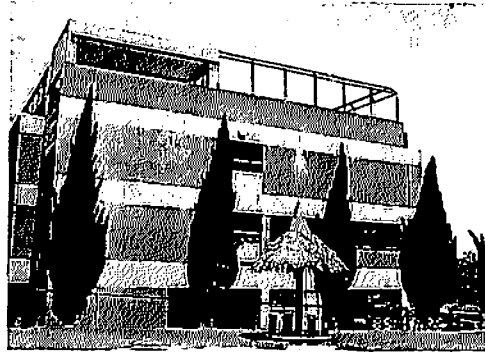
マハティール現政権は日本や韓国を見習えというルックイースト政策を唱えています。そのねらいは、たんに最先端の技術を学ぶということだけでなく、仕事に対する勤勉な態度、労働論理を学ばせたいということのようです。日本への留学生は千人を越え、中国、台湾、韓国について第四位だということです。

在留邦人関係では、日系企業数約四五〇社、在留邦人約三六〇〇人となっています。街を走る車も七〇％くらいは日本車で、家庭電気製品も、ほとんどが日本製です。対日感情もよく、治安も安定し、実に生活のしやすい所です。しかし、第二次世界大戦中の日本軍の占領は、マレーシ

アに深い傷跡を残しています。

クアラルンプール日本人学校

正式名称は在マレーシア日本国大使館附属クアラルンプール日本人学校です。マレーシア連邦教育法に従い、セラ



クアラルンプール日本人学校

ンゴール州政府の許可を受けて一九六六年十一月に開校されました。マレーシアに在住する日本人の子女に対し、日本国内の教育課程に準拠した教育が実施されています。二学期現在幼、小、中、あわせて約六二〇名が在学しています。

す。自由な校風の中で、子ども達は伸び伸びと生活しています。校則等は特別にはなく、制服もありません。通学はスクールバスで八時三〇分登校、四時三〇分下校です。部活動はありません。週一回、クラブ活動があるだけです。学

校五日制で、土日が休みなので、一日七校時まで授業のある日があります。

子ども達はとても元気です。休み時間や放課後には、日差しが強く暑い中をあせびっしょりになりながら走りまわっています。

現地理解教育

ここ二年間、「現地理解教育」という研究主題のもとに各学年ブロックでテーマを決め、研究、実践を行っています。

国際交流

国際交流会を通じて、マレーシアの子ども達の様子を知り、また、マレーシアの子どもが親切に気を配ってくれたことに感心し、自分達を見つめ直すきっかけにも成り得たと思います。もっと現地の子ども達とふれあう機会をふや



し、またその内容も充実させたならば、さらに深く理解しあえるのではないかと考え、現地校の招待、現地校の訪問を行っています。

おわりに

三年の派遣期間も、残り半年となってしまいました。多くの方々にお世話になりながら、すばらしい子ども達との楽しく充実した毎日の連続です。まだまだこの子どもたちのためにやらなければならないことがたくさんあるみたいで、あせりを感じています。

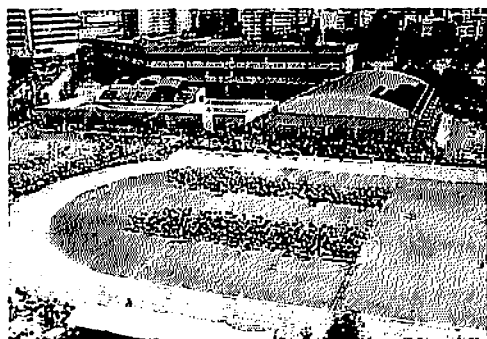
残る期間全力を傾けて教育実践に励んでまいりたいと思います。

台北日本人学校から

台北日本人学校

倉敷市立玉島北中学校 栗坂史朗

ここ三年間の転入生が毎年二百〜二百七十を数える台北日本人学校。全校児童生徒数も現在世界の日本人学校（補習校を除く）の中で第四位、千二百名前後にのぼっています。毎朝十一台のスクールバスが市街の定まったコースを走り、各バス停で子供達を乗せてきます。学校は街から車で三、四十分程、天母という所にあります。今年の九月には向いにアメリカンスクールが移転し、天母に住む欧米人の数がぐっと増した感じですが、日本人学校からもアメリカンスクールへ行く子供が近年増えてきています。ところで本校のカリキュラムは日本のものとほとんど同じです。小・中学部が一緒なのでクラブ活動や部活動は小学五年から合同で行われ、中学部の一単位時間が四十五分といった違いを除けばまるで日本のどこかの学校へ来たのではないかと思う程です。教材関係も日本に発注し、二、三か月後には待ちに待った品物が届きます。しかし現地で調達できる物も多く、安い所を捜しては買いに出来ます。ただ困るのは社会



秋季大運動会風景
校舎、プール、体育館をバックに

科や理科の学習です。四季の変化があまり見られず一年中ブーゲンビリアやハイビスカスが咲き、美しい紅葉もほとんど見ることができません。また野菜や果物も日本と異なる物が多い台湾で季節を感じるのは気温の変化や人々の服装、プティックのディスプレイくらいです。その他、海外ゆえに事情の違うことも多く、社会科と理科に関しては特別に副教材を編纂しています。そして国内と違うものはやはり現地校との国際交流です。現地校の子供達に直接触れ合うことのできる貴重な機会です。それに中国語の時間、また、両親に現地の方を持つ子供も少なくありません。多い学級では四十名にもなることがあります。そして教室の中でも中国語でのやり取りが聞かれます。そんな子供達の中にはピアスやブレスレット、ペンダントをつけている子



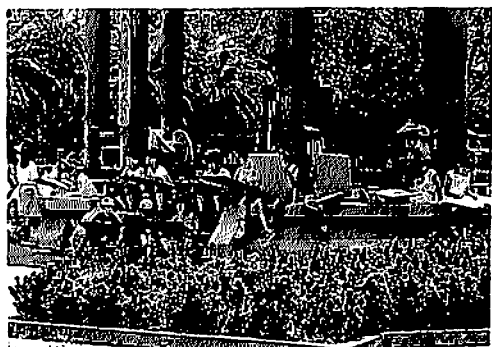
台北市街地の一部
南京東路



春の遠足（野柳にて）

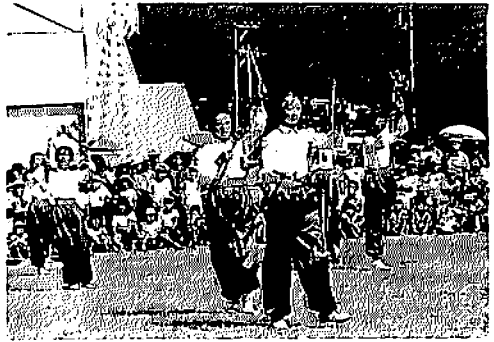
もいて、おしゃれ
だなどと思いきや、
実は中国では女の
子にピアスをした
り、男女に限らず
中国翡翠を身に付
けたり数珠のよう
なブレスレットを
したりして魔除と
する風習があるの
です。その他伝統
や習慣の違いを認
識していなければ
ならないこともた
くさんあります。
ところで、この
ような事例があり
ました。毎年三回
行われる転入生の
受け付けをしてい
た時、突然ある保
護者から相談を持

っしゃっているんでしょうか。」と尋ねると受験が心配だ
という理由。女の子一人日本に置いておくわけにもいかず
と、お母さんも困り果てています。最近では中三の転入もわ
ずかではあるが増えています。そして皆明るくのびのびと
学習しています。日本の前は米国に住んでいたという。
「転校ばかりするのも嫌だと言うものですから。」しかし
私は思い切って一つの質問を投げかけたのです。「お嬢さ
んは台湾だから嫌だとおっしゃっていませんか。」その問い
かけに対しお母さんも本音を出し始めました。本当の理由



写 生 会

ちかけられました。
「実は主人の台北
赴任が決まってか
らもうすぐ中三に
なる娘が台北に来
たくないと言って
困っているんです。
下の弟達は一緒に
来ましたが娘だけ
は父親の説得にも
応じないんです。」
と。「なぜこちら
に来たくないとお



秋季大運動会
招待校（現地小学校）の中国ごま

ることかもしれません。教育時報に載っていた韓国の留学生の文が印象的でしたが、要するにアジア系留学生に対して白人の留学生は市民からの待遇が違っている、日本人の差別意識が浮き彫りにされているというものです。とにかく台北に來させることだと思った私は、転校生に慣れていておちかかでない学校の実態や現状を話し、見学するだけではないから來台させるように頼んだのです。また、台湾の発展している様子、台湾の人々のあたたかさ等もしっかり話してあげるようにお願いしたのです。こう

が分かると、よしこれは何としてでもこの娘さんを台北に來させようと私は増々話に熱が入っていききました。母親の話では友達から台湾について悪いことばかり聞かされて來る氣を失っているということでしたが、こんな偏見はよくある

して転入当時、あたたかい好奇心に囲まれ硬く緊張していた彼女も陽に出した氷のように変わっていったのです。今ではすっかり打ち解け運動会でも頑張っている姿が見受けられました。今、彼女の心の中の台湾はどんなになっているのでしょうか。



秋季大運動会
応援団

ながらにして入手できる時代です。しかしこれはあくまで知ることであり、理解していることとは根本的に違っています。やはり大切なのは理解することであり、その素地となるものこそ人間性であると考えます。

国際理解ということを考える時、最も大切なものは何かとよく思います。つまるところいろいろなことを偏見を持たず正しく理解できるための優しくおちかかという自由な心を持つのでしょうか。今や世界の情報が居



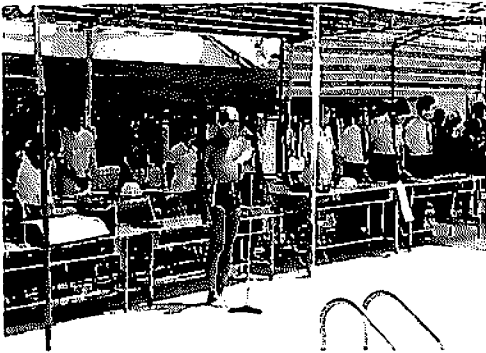
秋季大運動会

(続) 台湾からこんにちは

台中日本人学校

岡山市立深砥小学校 片山 主計

再び書く機会を与えていただきましたので、前号でお約束した、学校で取り組んでいる活動について述べさせていただきます。



三校水泳大会

どの学校もそれぞれに地域性を生かした行事を組み込んでいますが、あれをやった、これをやったというリポートが多く、中に隠された問題点にはあまり触れられていません。それだけに苦労があると思えますので、



三校作品展

情報交換できたら
と思います。

日本人学校

どうしの交流

台湾には台北・

高雄・台中と、三

つの日本人学校が

ありますが、その

三校はいくつかの

共通した行事を行

っています。教員

間でいえば、校長

会・教頭会・教務

主任会、進路主任会・体育主任会・美術主任会を、回り持ちで行っていること、児童生徒では三校の水泳大会と三校作品展を毎年一回行うことです。

水泳大会は毎年、台湾の中央にある台中校を会場として

行われ、他の二校はバスで片道二時間半をかけて集まって

来るわけですが、途中、バスのトラブル等で、計画通り行

うことは非常に困難です。今年などは台風の大雨でプール

は泥水、朝六時半に出発した高雄校は、待っても待っても

到着せず、高速道路の崩壊で途中から引き返したとのこと。

去年台北校は十台頼んだバスが七台しか来なかったり、パンクしたり。また三校の生徒数の差がありすぎるため、選手制にしても、全員参加にしても問題があり、毎年あてもない、こうでもないと思案している有様です。教員間の会合にしても、それぞれの事情があり、連絡調整に苦勞しているのが現状です。

作品展は図画と習字ですが、各校から作品を持ち寄って審査し、それを各校へ回覧して展示するという方法をとっています。これについても、作品運搬に関して、また学校での取り組みについて問題はあります。

現地校との交流

台中日本人学校は百四十名ほどの小規模校ですから、現地の交流校選びに苦勞しています。台湾は日本と同じく、人口の都市集中化が激しく、ある小学校などは一万二千名をかかえているとか。六、七千名は普通です。本校の生徒数とのつり合いを考えた時、交換会を持つことに大きな困難があり、いかにすれば相手校に迷惑がからず、しかも意義のある交換会になるかという点で大きな問題になっています。昨年ある中学校の運動会に参加させて戴いた時、入場行進で七千人の中に三十人の日本人が猫背でトポトポと……、軍事訓練のあるこちらの学校と比べて、ミジメー、という感じでした。踊りをやらせても音楽をやらせても現地

校はそれ相当に選ばれた者を特訓するので、どこに出しても恥ずかしくないものを持って来ます。特に音楽・舞踊・美術は小学校から特別コースがあり、専門家の養成をしているのですからたち打ちできません。



光明国中との交換会、パーベキュー

だからこちらは着物を着たりハチマキをしたりでごまかしている次第です。現在は新しい試みとして、合同キャンプや畑作り、現地の家庭訪問など考えていますが、何分色々な障害があつて思うように

なりません。障害の一つに親の考え方があります。これは啓蒙することによって一時的には解決しますが、日本人の体質として、現地校を、現地の人達を蔑視する気持ちがあることは否めません。物がなくなれば（ボールを運動場にころがして、片付けていなくても）「台湾の子が取った」
犬が糞箱を荒らしていても、「泥棒が入った」等、常に被

害者意識を持ち、友好的になれない子供達。一人ずつはい子なのに、集団になると、日本人丸出しの子供たち、親たち。机の上で国際化を叫んでいるのはまだ楽、国際社会の中で国際的になれない日本人を教育することのむずかしさをしみじみと感じるこの頃です。

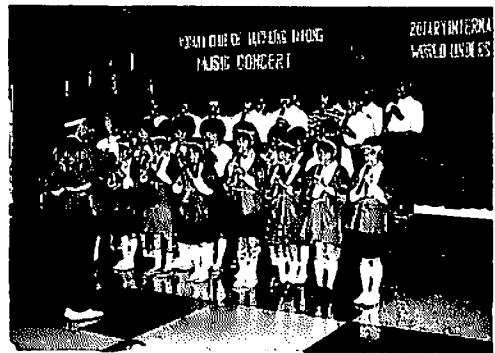
現地社会との交流

今年台中市は建国百周年記念で湧いています。すべての行事が百周年記念と銘うってあるのです。旧正月あけの二月十八日がその開幕式典でした。その時大きな、民俗芸能



建国百周年市中パレード

の催し物とパレードがありました。それに日本人学校の子供も参加しました。浴衣・ハッピに鉢巻、日の丸の扇子を持って、ふるさと音頭を踊りながら歩いたのですが、道々「日本人だ」「可愛いよ」と声をかけられ満足しており



国際音楽の夕べ

員間に問題が出て、参加までに難航しましたが、結果としてはすべて「やってよかった」ということでした。

学校行事

一般的な学校行事以外に、書初め大会・かるた取り、たこ上げ、豆まき、ひな祭り、鯉のぼり、七夕、お月見、もちつき、日本の歌を歌う会など、児童生徒会がとり組んでいます。また現地理解教育の一環として、中国語発表会があり、中国語の劇や歌、会話、弁論等みんなで発表し、現地校の先生方に採点していただくなど、学校主体の行事は

ました。また現地のロータリークラブからの招待で、「国際音楽の夕べ」なるものに参加させていただき、アメリカカンスクールや現地校などと交換しました。この二つの催しにして、夜だということとで、安全対策た、勤務時間だと、職

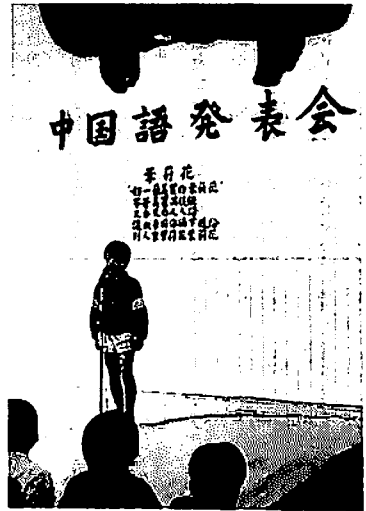


書き初め大会



もちつき大会

スムーズに行っておりません。
 終わりに
 任期も終わろうとする現在、表面的にはうまく行っているような本校にも、色々問題があるということがわかってきました。そしてそれは、子どもたち、親たち、そして教師たちの価値感の違いに起因するものであり、国際性を云々する前に、自分は何であるか、どうあるべきかを理解してほしいと願う昨今です。



中国語発表会

シカゴ補習校雑感

シカゴ補習校

苫田郡富村立富小学校 太田直宏

一九八七年の四月にアメリカのシカゴ補習校に赴任することになった時、事前に行われた筑波での研修で補習校についての全体像についてはおおむね頭の中で理解できたが、実際、当地に赴任してその仕事の多様性に驚かされた。赴任前のシカゴについてのイメージとして、冬の厳しさと暗黒時代の例のアルカポネというマフィアがすぐ浮かんできた。当地に赴任して、アルカポネには遅良く？出会わなかったけれども、冬の寒さには閉口した。

アメリカ中西部第一の都会であるシカゴ市は、日本の九州ほどの面積を持つミシガン湖の南西岸に、発達した都市である。アメリカ中西部の商工業、交通の中心地であり、ニューヨーク、ロサンゼルスに続く全米第三位の都会でもある。日系企業の進出も年を追って増加し、現在約五百社を数え、日本語学校も全日制・補習の二校があり、前者に約三百名、後者に約千名（一九八九年十月現在）の児童・生徒が在籍している。

補習校における勤務を一口で言えば、週一度の土曜日の授業がスムーズに行われるよう他の残りの日とその準備のために当てればいいわけである。こう書くと事はすいぶん簡単だけれども、その準備の内容が多岐にわたるのである。まず、児童・生徒の転出入・毎月何十名の転出入があり、年間全体の約三分の一の児童・生徒が入れ替わる。次に教師の確保がある。四十名を越す補習校現地採用教員のこれまた三分の一強が一年間で辞めていく。それを補うために邦字新聞などに広告を掲載して現地採用教員を募集するのだが、現在のアメリカの労働ビザは規制が多く、応募してきた人の半分近くがこのビザの問題でダメになってしまうのである。そして、校舎の確保の問題、当補習校では本校、分校の二校で運営を行っている。一校は現地の廃校になった小学校をリースしており（全日制と共用）もう一校は土曜日のみ現地の高校を借りている。施設・教員・子供達にかかわる基本的な勤務内容の他に、これらに付随する仕事も当然だが伴ってくる。

シカゴ補習校の抱える問題の一つとして、アメリカンスクール（補習校に在籍している児童・生徒が通っている現地校）と補習校との相互理解・情報交換の欠如がある。この問題はかなり以前から浮きばりにされておき、補習校として何ができるかということになり、その解決策として現



グループ討議

地校訪問
 補習校主
 備のオー
 プンハウ
 スが考え
 実行され
 た。
 現地校
 で学ぶ日
 本人の子
 供達の中
 に、英語
 やカルチ
 ャーショ
 ックから
 くる学校
 不適症を
 おこす者
 がいる。
 また、現
 地校の先
 生から、



受け付けで（現地校の先生）

日本や日本人についてもっとよく理解するための情報が欲しいという要望がある。これらの問題の解決のためのオー
 プンハウスが昨年十一月に補習校において開かれ、授業参
 観・日本紹介の展示・催し・日本食のランチ・現地校教師
 と補習校教師のグループ討議といった内容で進み、グルー
 プ討議ではかなり突っ込んだ質疑もあり充実したオーブン
 ハウスであった。現地校訪問では、アメリカンスクールで
 学ぶ子供達の実際を見学し、現地校の校長先生、担任と子
 供達の問題を話し合うようにしている。四月から、時間の
 許す限り校長と二
 人で現地校訪問を
 行っているが、な
 にせ三百校に近い
 数の現地校に補習
 校の子供達を通っ
 ているためとても
 全部を訪問するこ
 とは出来ずその一
 割が実際訪問でき
 る限界である。
 これらオーブン
 ハウスや現地校訪



日本紹介

間を実施して現地校の日本人に対する理解はかなりよくなってきたことを感ずる。電話等で我々に子供達の気軽

に相談してくれたたり、次の土曜日に補習校に授業参観をしたいという問い合わせもかなりの数である。

現地校訪問をして感じる事はどの学校も例外なく日本人もふくめての外国人のための受け入れに対して多くの人とエネルギーを当ててくれていることである。たとえ一人の英語のわからない外国人が入学してもその子供のためにESL（英語を母国語としない子供のための英語のクラス）の特別授業を用意してくれる。クラスの子供達が外

国人に対して特別な意識を持たない。転入生にとってクラスの好きな目はかなり苦痛になると思うがそれが無い。これが、日本の学校だったらと考えざるを得ない。多民族からなるアメリカという国の持つ良さの一つかも知れない。国際人とか国際的な感覚を持つ人間とかの育成が叫ばれている昨今であるが、国際人とは何か？英語（外国語）が話せれば、外国に住んでいれば国際人になれるのか、否である。異なる文化の中で育った人間が互いの価値観を認めあえるところに原点があるような気がする。言葉で言うとは簡単だが、実行すると難しい。こういう事を日常の学校生活の中で体験できるアメリカの子供達を羨ましく思う。

暴動から半年

カラカス日本人学校
高梁市立福地小学校 三村 秀樹

一、はじめに

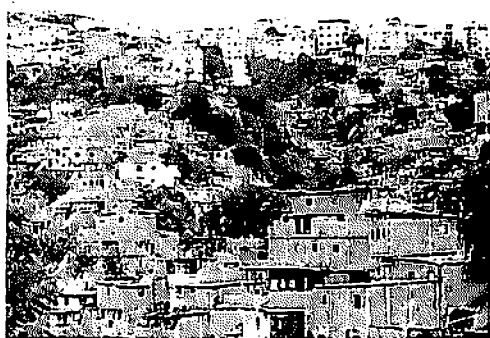


暴動により破壊された商店

ベネズエラのカラカス日本人学校への岡山県からの派遣は、私で四代目となり、ベネズエラの地理・歴史、カラカス日本人学校の概要等、既に先輩の先生方の手により記されていますので、私は今年二月にベネズエラ全土で発生した暴動とその後のベネズエラの現状、また、それに伴う学校運営上の諸問題について述べることに致します。

二、ベネズエラの現状

ベネズエラは、今から七十年ほど前から石油による外貨が入り、南米の中では豊かな国と言われていました。国民もさほど本気で働かなくても、石油の収入で物価はおさえられ、衣食住に困ることは少ないようでした。また、他の国々から石油マネーを求めて移住してくる人々も多くいました。



“ランチョ”とよばれる
貧しい人々の住宅群

しかし数年前から石油価格が下がり、予想していた外貨が入らなくなると、国内の経済は混乱してきました。インフレが続き国民の不満はつゆなしに増え、ついには暴動という形で表れました。店の多くはシャッターを壊され、店内の物をごっそりと強奪されました。警察の手におえなくなり、ついには軍隊の出動となり、死者数千人を出し、一応暴動は治まりました。



運動会風景

けれど、それで解決した訳ではありません。現在もインフレは続き、失業者が増え、治安の悪化が目立ってきています。いつ、第二の暴動が起ころとも不思議でない状態で、移住者の中には、ベネズエラを捨てて母国やアメリカ合衆国に出国する人たちも増えていきます。

三、暴動後の学校を取りまく諸問題

暴動中はもちろん学校は休校となりましたが、卒業式が間近にせまり、六年生の担任をしていた私は、一日も早く学校の再開を願っていました。一週間後、学校は始められ、

土曜、日曜を授業日にし、どうにか卒業式を行い、年度を無事閉じることができました。

しかし、新年度に入り学校運営上に様々な問題が起こってきました。

まず、インフレによる教材教具の値上がりです。一つの例を上げます

と、数カ月前までは、五十ポリボール（約二五〇円）で買っていたコピー紙が、急に二百ポリボール（約千円）に値上がりし、さらに数カ月後には三百ポリボール（約千五百円）になるといふ具合です。ほとんどの品物が二倍〜四倍に値上がりし、その上、児童生徒数の方は、二年前百名を



スクールバス避難訓練の様子

越えていたのに現在では七〇名余りに減少し、学校運営費の保護者への負担が大きくなり、保護者の不満の声が出ています。

次は、治安上の問題です。スクールバスに投石されるという事件が何度もあり、バスの側面の「カラカス

日本人学校」という文字を消し目立たなくしたり、人家の近くでは窓を閉めるなどの注意が必要になりました。

また、遠足、修学旅行などの校外での活動を行う場合は、大使館に事前に相談し安全を確かめた上で、できるだけ目



秋祭りの様子

う目標も、児童生徒の安全が確保されている上での事
いつ何が起ころかわからない社会情勢下では、いかに子供達の命を守り安全な学校運営をしていくかが一番の目標になるといふことを知らされました。

立たなく、現地の人たちとの接触も少なくするようにしています。例えば、小学部の遠足は近くの海に予定していましたが、軍人関係者しか入れない公園に、マラソン大会は市営公園で行う予定が、学校の運動場に、という具合に変更されました。修学旅行も、できる限りの安全性を確保し行いました。

カラカス日本人学校の教育目標には「進んで現地を理解する子」、「国際性豊かな子」を育てることを掲げ、今まではそれに向かって教育活動を進めてきましたが、こうい

三、おわりに

何か暗いベネズエラからのたよりになりましたが、学校での生活は、日本とあまり変わらない毎日を送っています。現在一カ月後にひかえた「大運動会」に向けて、強い日射しの下、練習に励んでいます。

また、今年度から念願だったベネズエラの公立学校との交流も実現しそうです。十一月に行われる「秋祭り」に招待し、日本の祭りを味わってもらおうと今から楽しみにしています。

ベネズエラの社会情勢が好転し、本来の教育目標に沿った教育活動ができることを望みつつ筆をおきます。

一九八九年九月十七日

日本人としての人間教育

グアテマラ日本人学校

新見市立高尾小学校 竹本 健司

グアテマラ

グアテマラは、古代マヤ文明の時代からスペインの植民地時代、そして現代の民主政権グアテマラ共和国に至るそれぞれの時代的特色を色濃く混在させている国である。

全人口は六五〇万とも七〇〇万とも言われ、正確な人口が纏めていない。人口の約六五％はマヤ系インディオで、この人達は、農法・服装・言語習慣など生活の細部にわたって古来の伝統を引き継ぎ、一般社会から遊離した旧態依然の部族社会を営んでいる。政治的には、このインディオの人種的同化問題が、この国の大きな課題であり、貧富の差の激しさが、政治不安の根源となっている。

この国の経済は農業中心で、輸出の大半がコーヒー・棉花・砂糖・バナナなどの農産物で占められる。

面積は、日本の北海道と四国を合わせた程の広さで、国の中央部を山脈が走り、三十余の火山がある。国内のあちこちには、マヤ文明の遺跡が多く見られる。海岸の低地は

熱帯気候、首都グアテマラ市は標高千五百米の高原にあり、平均気温十八度の快適な気候である。グアテマラとは、現地語で「緑多き楽園」という意味がある。

日本人学校

学校は、郊外の丘陵の高台にあり、校舎は赤煉瓦造りの二階建てで、一般住宅二軒を借用し、昭和五十二年に開校した。十四室を教室に、千九百平米の庭園を校庭に使用。児童生徒数は、小・中学部を合わせて二十数人で、出入りが頻繁にある。派遣教員六名、現地採用講師五名、運転手



マヤ文明最大の遺跡「ティカル」の神殿第1号



現地バリオス校との学校交流
民俗衣装を着たバリオス校の生徒

兼用務員
一名、ほ
かに現地
政府派遣
の警察官
一名がい
る。

原則的
には複式
形態であ
るが、労
力確保の
ため四教
科は単式
授業を行

い、英会話とスペイン語会話の授業を取り入れられている。小規模校の特色を生かし徹底した個別指導を実施しており、日本語の能力の遅れている児童生徒のために「日本語教室」を特設している。

また、現地理解教育のために、現地のバリオス校やオーストリア校との学校交流を行うとともに年数回の社会見学を実施して、グアテマラの経済文化の実態を具体的に見学

し、それらをもとにした社会科副読本「わたしたちのグアテマラ」を作成している。小・中学部合同で実施する遠足や修学旅行も歴史・地理学習の一環として、近隣の遺跡や町村の見学を通し、現地に対する理解と認識を養っている。

学校をとりまく諸問題

学校運営上の課題としては、当面、校舎新築の問題があり、教育課程では、児童生徒の日本語の能力差に応じた個別指導のカリキュラムづくり、安全対策として治安の不安定に伴う情報網・避難・警備体制の検討、学校経営にあっては現地採用日本人講師の人材確保、インフレ傾向に対処した運営費の検討、地域社会にあっては各種機関・団体への学校施設開放、PTA活動の見直しと活性化など、数限りなく山積している。

校舎新築は、既に数年前より校舎建設推進委員会が設置されて土地買収や建設資金の検討が進められている。家賃の高騰や校舎・運動場の狹隘さなどから考えて、早急にも日本国所有の新校舎を実現させたいところであるが、障害も多い。何よりも児童生徒数二十名台という条件で国庫補助の対象となり得るかどうかという問題が予想される。そのような中で、平成二年度に向けて文部省への申請の準備を進めている。

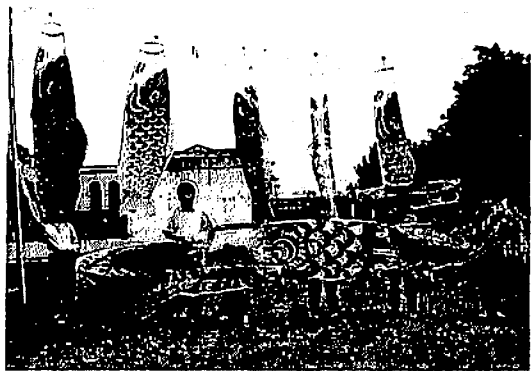
教育課程における最大の課題は、児童生徒の日本語の基礎的な力の不足ということである。他の日本人学校は、日本からの有期的派遣者の商社等の子弟が大半であるが、グアテマラは、その在籍児童生徒の大半が、この国の永住日本人の子弟であるという特徴を持っている。この国で生れ育った子弟は、日本語の言語環境が極めて貧しい。この教育以前の問題を乗り越えながら「日本人としての人間教育」を進めていく意義と方途を考えていくことが急務である。

この国の政治不安とインフレ傾向、加えて中米隣国からの避難民の増加によって、治安は次第に悪化の一途を辿っている。潜在的なゲリラ活動やテロ事件が頻繁にあり、子女誘拐・強盗等の犯罪件数も急上昇している。このような環境の中で、児童生徒の安全対策や学校の警備体制を再検討する必要性に迫られている。

これらは、学校を取り巻く環境的な問題であると同時に学校運営そのものの重点的な施策でもある。

帰国子女問題

帰国子女については、徹底して基礎学力の向上に努めており、日本での受入れ体制もスムーズで、さほど問題はない。日本への高校進学についても、その対象生徒が少なく万全の対応ができる。



手造りの鯉も参加して、鯉のぼり集会

むしろ、現地高校へ進学させる生徒をいかに現地校に適応させていくかという、帰国子女問題とは逆の現象が、今、グアテマラ日本人学校では、大きな検討の課題となっており、つつある。

日本と現地とのかわり

現地の対日感情は極めてよく、日本の経済援助・技術協力が期待されている。ただ、治安が不安定のため日本商社の進出が横道いであり、それに伴って日本人学校の児童生徒数もそれに準じている状態である。

西ドイツ第二の大都市ハンブルグ

ハンブルグ日本人学校
館中町立富家小学校 平川 公之助



ハンブルグ港 (コンテナヤード)

ハンブルグは、エルベ河の河口近くに位置し、ドイツ最大の国際貿易港を擁した、ドイツの北の玄関口である。そして、海路はもちろん、陸路・空路の重要なポイントとして、EC域内はも

ちろん、スカンジナビア諸国や東欧諸国とも結ばれている。

第二次世界大戦では、徹底的に爆撃されたが、戦後いちちはやく周到な都市計画が作られ、歴史的な建物が修復された。現在、聖ニコライ教会が

けが修復されず、空襲の跡を生々しく伝えている。

市の中心には、ハンブルグの宝といわれているアルスター湖が広がり、エルベ河とつながる運河が縦横に走っている。そして、市の総面積の半分近くが森林・牧草地・公園などの緑地帯で占められており、「湖と緑の都」とも呼ばれている。

北緯五十三度三十二分、韓太の北端と同緯度に有りながら、メキシコ湾流の影響で冬も割に温暖で、北海道の札幌市と同じくらいになっている。「ハンブルグ人は、雨がさを持って生まれてくる」と言われるほど雨の日が多いが、降水量は年平均七百ミリ程度である。日本と違って雨粒が小さく、長時間降る事もほとんどないので、かさをささずに歩いている人が多い。

怖いのは、スツルムと呼ばれる突風である。「低学年児童は、突風でかさと一緒に飛ばされる危険がある」と、交通指導の警察官から指導を受け、ゴムびきのレインコートかフード付きジャケットを着て通学させている。

北極圏に近いので、北ドイツでも、五月から昼の長さが十五時間以上にもなる。明るい日差しのもと、子どもも大人も、暗くなるまで戸外で過ごし、短い夏を楽しんでいる。公園や庭で気の合った仲間とバーベキュー・パーティーを

している姿をよく見掛けるようになる。

八月下旬、二学期が始まるころから、季節は冬に向かって駆け足で進んで行く。九月上旬の運動会の日には、半袖・長袖・フード付きヤッケ、そしてオーバコートまで持参して、目まぐるしく変わる天気に対応して競技している。

「朝が冬で、昼が夏、夕方が日本の秋」と言える程、一日の気温差がはげしく、霧の日が多くなってくる。そして、十月末になると朝七時過ぎに日が昇り、夕方四時過ぎに日が沈むという、長い長い夜が続く冬に入るのである。



ハンブルグ日本人学校

ハンブルグ日本人学校は、ハンブルグ州政府より公益法人（私立語学学校）として公認され、一九八一年四月開校された。ここ数年、二百五十名前後の児童生徒が就学している。校舎は、市の西の郊外、緑に囲まれた閑静な住宅地に

ある。

国際理解を促進するため、地区の陸上記録会へ出場（三六年）、現地校の文化祭への参加、隣接ドイツ校と共催



交流学習

で行うラテルネン・ウムツーク（灯火行列）、ドイツ校の教師との懇談会などを、単発的な交流会にならないように工夫して行っている。

私が二年目、二年一組を担任した時は、ひなまつりに現地イーザードルク校の二年生を招待した。「うれしいひな祭り」を歌い、折り紙でひな人形を一緒に作り、楽しい交流学習ができた。そして六月、ドイツ校の学年末に、今年は三年生に進級した日本人学校の児童が招待され、交流が続いている。

ドイツは比較的治安がいいので、大部分の児童生徒は、市内を網の目のようにカバーするバス路線や郊外電車を利

用して通学している。学校を一步でれば、そこはドイツ社会であり、他人に迷惑をかけない、他人の自由・独立を認め尊重し、自分の行動に責任をもつことを要求されている。「静寂の文化」と言われるドイツでは、バスや電車の中で騒ぐことが何よりも嫌われる。登下校時、日本語のおしやべりがうるさい、と周りのドイツ人、時にはバスの運転手から厳しく注意を受けることもある。たとえ子どもであっても、良心に基づいた行動を心がけなければならないという良い社会勉強の場になっている。

フランクフルト日本人国際学校

フランクフルト日本人国際学校

岡山市立高松中学校 西崎 正明

一、西ドイツの一面

ソ連の「ペレストロイカ」に触発されて、東ヨーロッパでは考え方や、政治体制の改革が進行しています。これは東ドイツにも影響を及ぼし、東ヨーロッパの優等生といわれたこの国も黙視するわけにゆかなくなっています。多数の東ドイツ国民が西ドイツに移住して来ていますが、西ドイツ政府は、かつてのドイツ国民は、現在どこに住んで居ようとも西ドイツに帰れるし、その時には、西ドイツ国籍をすぐあたえたと理解ある態度を示しています。又ヴァイゼッカー西ドイツ大統領が一九八五年五月八日のドイツ敗戦四十周年にあたって、西ドイツ連邦議会での演説で、ユダヤ人迫害など第二次世界大戦の過去の責任を卒直に認めた事や、世代が変わって、今や戦争を知らない若い世代に対して過去の責任問題を語りかけていることは、極めて印象的であり、世界に大きな反響を呼びました。

反面、西ドイツ国内には、徴兵制が義務化されています

が、これは、ヨーロッパの長い歴史のなかで培われた現実的な対処の仕方であろうと想像されます。

地面に国境のある国とない国（日本）では考え方も対処のし方も自ずから違い、日本の八月十五日とドイツの五月八日とは全然意味が違うことが理解できます。

二、日本人学校をとりまく一つの問題

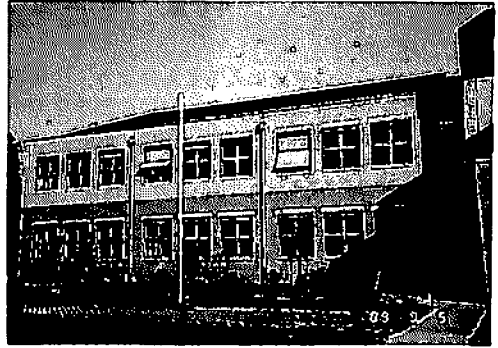
フランクフルト日本人国際学校は、本年度校舎が新築されて移転が終り、新しい立派な校舎で快適な学校生活を送っています。しかし校長（理事会）

として絶えず念頭にあることは、地域の住民たちと、いかに共存していくかという事です。お互いに利用し合いながら、楽しい生活が営める方法は何かと……。

例えば、学校教育に支障のない範



フランクフルト日本人学校



フランクフルト日本人学校

校としてきけて通れない問題ではないでしようか。

三、一つの学校行事から — 中学部ホームステイ —

過去三年程は、南ドイツのラリングという町で、観光協会の世話でホームステイを実施しました。今年は（一九八九年度）どこかの学校と学校間交流という形で出来ないかと考えた結果、北ドイツのノルデェンという町にあるリアルシュレー（中学生相当の職業学校）と話しがまとまり、次の計画で実施しました。

囲で校舎を開放して、スポーツなどに有効に活用してもらおうとか、或いは日本語講座等日本文化の紹介の場や、機会の提供などが考えられます。

日本がこれから国際社会の一員として活躍する場合、地域住民との共存は海外の日本人学

(註)

- ①参加生徒数五十五名
- ②ドイツの学校はこの時期学年末で、特別なプログラムが組まれていたので、これに参加した。
- ③原則として一家族一名のホームステイとした
- ④出来るだけ、同年令の子供がいる家庭にホームステイするようにした
- ⑤ホストファミリーは、リアルシュレーの保護者宅で、選択については、リアルシュレーに一任した。



現地校の授業に参加
(ホームステイで)

このホームステイに同行した時、或いは、実施後の反省で、学校行事として全員参加させる事がよかったのかと考えさせられました。

約五十名のホストファミリーの決定も大変だろうと考えられるし、ホストファミリーは

勿論のこと、同年令のドイツの子供達が色々となつて

中学部 ホームステイ

1. 目的

- (1) ドイツの家庭に入ることにより、生活習慣やものの考え方を学び、広い視野を身に付けると共に、日頃の語学学習の成果を発揮する機会とする。
- (2) ドイツの自然、文化、歴史、産業について興味関心を持ち、確かな理解を深める。

2. 期日 7月10日(月)～7月14日(金) 4泊5日

3. 行き先 北ドイツ ノルデン

4. 引率者 校長, 小原, 栗原, 上野, 北原, 中村

5. 宿泊所 現地校の生徒のファミリー

6. 日程

	第1日目(7月10日・月)	注意、連絡
7:45 8:00 ↑ 5:00	学校集合 出発 昼食 ノルデン着 歓迎会 ・各家庭で交流	・集合時間に遅れない ・緊急に来られなくなった時は学校に連絡する (7:30～7:45) ・困った事などがあつたら本部に連絡をする
	第2日目(7月11日・火)	
7:50～ 9:20 9:35～ 1:00 3:00～ 4:30 5:00	学校集合(ステイ先の生徒と) ノルデンとオストフリースランドについての学習 学校の授業に参加 下校、昼食 ノルデンの市内見学 市長による歓迎会 歓迎会あとステイ先に帰る	・何をしたらよいか聞かれたら自分の希望をはっきり言う ・計画のある家庭の生徒はファミリーと行動を一緒にする
	第3日目(7月12日・水)	
10:00～ 5:00	ノルダナイの島巡りへ 雨天の場合(バスで海岸巡り) 島巡りのあとステイ先に帰る	・計画のある家庭の生徒はファミリーと行動を一緒にする
	第4日目(7月13日・木)	
7:50～ ↑ 1:00 3:00～ 5:00 7:00～	学校集合 各クラスのプロジェクトに参加 下校、昼食 スポーツ及び遊び グリルパーティ	・計画のない家庭の生徒は学校行事に参加 ・ホストファミリーも一緒
	第5日目(7月14日・金)	
8:30 9:00 ↑ 6:00 6:15	学校集合 出発 昼食 学校着 解散	・昼食はファミリーが用意してくれる



ノルデン市内見学（ホームステイで）

色々心配していると聞いていたので、対象にアンケートをとってみました。

一年 女 一回

・単なるホームステイだけでなく、向こうの学校に参加できたのは良かったと思います。

・出発前の説明会を、もう少し早くひらいていただけたら、もっと良かったと思います。受け入れ先との関係もあり、今年は無理だったかも知れませんが、去年までの所を止めて、今年は無理になった理由が、校長先生がお話

てくれているのにすぐ日本人同志で集まってしまうなど、ホストファミリーに失礼なことがあったのではと、又学校行事なので積極的な意志はないが参加した生徒などには、意義があったのかと危惧してしまいます。

本校の保護者が実施後、保護者を

しになったことだけなのか、子供の安全は保障されているのかなど、お聞きしたいことがあったのに、あれだけの時間で、授業の一部だから全員参加するように、あとは学校に任せなさい、と云われても親の側には、大きな不安があったと思います。結果的にはなんの事故もなく、子供も喜んで帰ってきましたが、来年は親にももう少し長い心の準備期間があればいいなと思います。

二年 女 二回

・今度のように各家庭に一名ずつのホームステイに賛成です。

あまりドイツ語が話せなくても、必要にせまられ、単語だけ、身振りなどで、意志を相手に伝える体験ができ、昨年より、意義のあるホームステイでした。そして、今年、日本人になれているノルデンの町を選んできたので、昨年より、暖かく迎えられたような気がします。

（ホームステイ先より、電話をかけてくれる家もあり、細かい気配りをしてくれた。）

三年 女 四回

・子供の話から

ノルデンでは、親の就寝時間が九時だということ。それに伴い九時以降のバス・シャワーの使用が禁止されていた。少なくとも、夏のホームステイでは、夜十時まで、

使用を許可されたい。

・九時以降の保護者なしの外出は、中学年令では、もうすこし考慮して健全なものとして欲しい。

・異文化の違いとは言え、同年令、同学年の子が学校でタバコを吸うのはいかなるものか。また、そういう学校との交流は、始めから知っていたことなのでしょうか。ラリングの時は、子供がタバコの煙づけにされた話は、聞いていません。

・さよならパーティも9時就寝がひっきりかかり、心ゆくまで楽しめなかったようです。

〔註〕 回数はホームステイの経験

様々な意見があり、中には日本の感覚そのものであったりして、保護者の啓発も大切なのかと考えてしまいます。

ルーマニアの人々

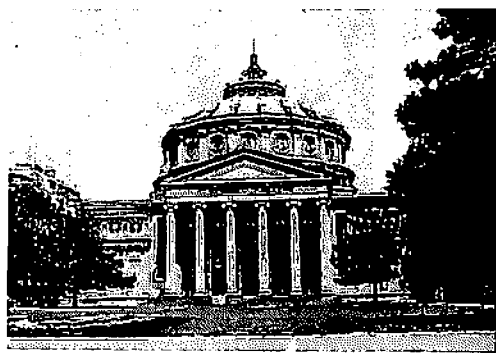
ブカレスト日本人学校

岡山市立竜操中学校 橋本拓治

車のライトに、歩道からあふれた人々の影が浮かび上がる。彼らは家に帰るためのバスを待っているルーマニアの人々です。ここルーマニアでは、一部の幹線道路を除けば街灯はその役目をほとんど果たしていません。それはこの国が極端な輸入制限をしているからです。従って貴重な輸入品である石油を消費する電力の使用は制限されており、ルーマニア人の場合は、一部屋に付き四十ワットの電球しかつけてはならないという法律もあるそうです。

外国からの輸入は極端に制限する一方で国の生産物で輸出可能な物は輸出し、外貨を獲得をする。その結果国民は残った物で生活をしなければなりません。町のあちこちに生活に必要な物資を買い求める人々の行列が見られます。肉や卵・牛乳などを買う行列。ガソリンを買う為の行列などは延々一キロ以上も続き、すこしでもガソリンを使わないようにと、車を押して前に移動してゆくのです。こちらに赴任してはじめて見た時は何事かと思ったものです。砂

糖や小麦粉・油は配給制になっており購入する店も指定されています。それらでさえ、並ばなければ買えず期限が切れば、無効になるそうです。ルーマニアの人々は町を歩



アテネローマーナ
(各種演奏会が行われる音楽堂)

くときに必ず大きな袋をさげています。これはもしか町で何か普段手に入りにくい物を買っているのにでくわした時、それを入れるための袋で、日本人学校の子供たちは「もしか袋」と呼んでいます。

ここで、ルーマニアの小話をひとつ紹介しましょう。「ある男が、例のもしか袋をさげて町を歩いていると行列を見かけた。さっそく一番後の人に、何を売っているのかと尋ねたところ、知らないという。」

(ここまでは、日常本当にあることです)ここで、その前の人に尋ねたところ、これも知らない、とうとう一番前までいってみたら閉まっている店のドアの前

に一人の男が座っている。彼の後からこの行列は延びていくのだ。さては、もうすぐ店が開いて何かいい物が売り出されるのを知って待っているに違いないと思い、いったい何が買えるのかその男に尋ねたところ、返ってきた返事というのがこうだ。実は道を歩いていて、気分が悪くなったので少し休もうと思ひ、この店の前に座っていたところいつのまにか後に行列ができていたというのだ。それなら何故後の人にそのことを伝えなかったのだと聞かされてさらに彼は答えた。折角行列の一番前になったのに」

以上がその内容ですが、なんだかこの国では本場にありそうで素直に笑えない小話です。

かつては、この困窮生活も対外債務を返すまでということとで、その時まで国民はじっと我慢をしてきたわけですが、政府の発表ではそれも既に返却したということです。しかし国民の生活ぶりに好転の兆しはなく、高級官僚を除く、多くの人々はその日のパンを得るべく今日も並んでいます。ルーマニア人の祖先はもともとこのあたりに住んでいたダキア人と、その後ローマ帝国時代にこの地を占領したローマ人といわれています。現在使用されているルーマニア語もラテン語に源を発しておりイタリア語との共通点は非常に多いといえます。ラテン民族の血をひく彼らは、もともと明るく奔放で人なつっこいようです。町で道など尋ね

たり、我々外国人が困っていると、たちまちたくさんの方が集まってきた大騒ぎです。しかし、長く続く困窮生活とそれにともなう賄賂等の蔓延のなかで、その明るさにも陰



日本人学校

りが見られると感じるのは私だけの主観ではなさそうです。

この国の国旗には小麦の穂にはさまれた豊かな森、そのむこうに雪を被ったカルパチア山脈の間から照らす太陽が描かれています。これはそうなりたいという

願望ではなく実際この国には広大で肥沃な大地があります。さらに北ヨーロッパの国々のように冬はほとんど太陽が見えない国に比べれば、冬でも太陽が降り注ぐ日があるくらいです。まして夏は晴れわたった、それでいて日本のようにじめじめしない本場に気持ちの良い日が続きます。国境をドナウ川がゆったりと流れています。こちらに赴任して

すぐの頃、郊外に車で出掛けたときは広がる地平線に驚いたものです。この国で家用車を持つ人々は、簡単な修理ならば、ほとんど自分でやっています。日本程サービ
スが行き届いていないといえそうですが、とても器
用な人が多いようです。これほど豊かな自然に恵まれ、人
材もありながら何故今のような状況が続くのか、ソ連のペ
レストロイカにもハンガリーやポーランドの改革にも現在
この国は否定的です。しかし、幸せを求めない人間はいま
せん。ルーマニアの人々が本来の明るさを取り戻す日が一
日も早く来ることを願わずにはられません。

「サウジアラビアとは？」

サウジアラビア王国 リアド日本人学校

岡山市立富山小学校 菅野和良

本校の派遣教員は七名。日本で中学の先生をしていた方が多いため、私は小学部一年を二年連続して担任しています。着任した昨年度は六、七名、今年度は二名の児童です。彼らが、有意義な学校生活、立派な国際人への第一歩を踏み出すのに充分手助けができていくかどうか。三年間でこれをやったんだと、後に残るものと考えていますが、その難しさを痛感する今日この頃です。

リアド市内にはおよそ二百五十名の邦人が生活しています。個人差はありますが大きく三つに分けられます。一つは商社・メーカーの関係者。最も数が多く本校保護者の方々も殆んどこの関係です。二つめはJICA（国際協力事業団）の方々や大使館関係者。サウジ中央省庁の指導者、日本とサウジのかけはしとして勤務する方々です。最後は我々日本人学校の教員です。もちろんそれぞれの家族の方々も含まれます。お話を伺ってみますと、商社・メーカーの関係者はサウジという国、人々の懸口が多く、逆にJICA

CA・大使館の方々は非常に好意的だと思います。では我々はどうでしょうか。



「サウジ評」も一面真実なのでしょう。一年半の滞在ですが、サウジアラビアを私なりに表すと「過酷な自然条件、厳しい制約のイスラム教、豊富なオイルダラー、交通戦争に囲まれた国」となります。しかしそれはうわべの姿であり、サウジ人の生活を殆んど見ることができないので、人々の姿、働きについて表せません。従って私にとっての「サウジ評」はまだまだないのです。プライベートを非常

実は我々がサウジ人と交際する機会には殆んど無いと言っても過言ではありません。従って懸口を聞けばなるほどと思い、長所を聞けば感心し、我々以外の日本人から聞く「サウジ評」をただ信じるしかないのです。おそらくどちらの

に重んじる国民性、他のイスラム教国と比べると極めて厳しい生活の制約、働く人の半数以上が外国人で占められている等、サウジ側に原因があります。しかし、自分の内に何か原因がある(アラビア語を話せないというだけでなく)のではと問われれば、返す言葉もないのが事実ですが……。

この原稿を書く上で今まで自分で認めてきた多くの文章を読み返してきましたが、どうもこの国に対する愚痴が多いようです。生活しにくいことへの愚痴と、この国やこの人を理解しようとしても私の前で門が閉ざされていることへの愚痴です。従って、今後はサウジ人の姿を私の目で見、私自身の「サウジ評」を著さなければと考えます。困難ではありますが……。

私たち日本人にとって、サウジアラビアは「西洋でも東洋でもない国」であり、本当に遠い国です。それ故にこの国から学ぶことは多いのではないのでしょうか。もっともと理解していかなければならない国です。私はこの国そしてサウジアラビア人に何故か強く惹かれる物を感じます。異文化、異国への憧れ、未知への探求心だけでもありません。私の父や祖父の世代、日本が過去に通り過ぎてしまった「時代」の風を感じるからでしょうか。

本校では「見学交流学習」と称し、農場、工場、自然の造形物、遺跡などへのいわゆる「遠足」や、現地の学校

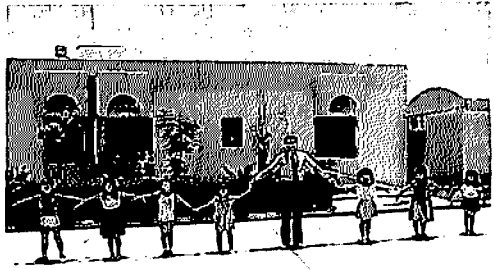


市内の私立校、NAJD SCHOOL
との交流会。剣道の演技を子供たちに
見せている。

(主に私立校)との「交流会」に毎年努めています。「インシャラー(アラ)ーの神の思し召すままに」ということで計画を立てても、相手の都合により急に実行できないことが多分に

あります。男女別々の交流に限られることも大きな特色でしょう。日本の文化として礼儀作法・剣道・折り紙・あやとり等を教えたり見せたりしていています。今年度この係を与えられました。企画実践していく中で、もっと「サウジ人のこと」を盛り込めたらと思わずにはおれません。私自身がこの国をこの人をもっとと理解しなければ、サウジアラビアは子供たちに、ある一面しか見せてくれないということになってしまいます。

リアド日本人学校の朝は早く、七時五十分にはコンパウ



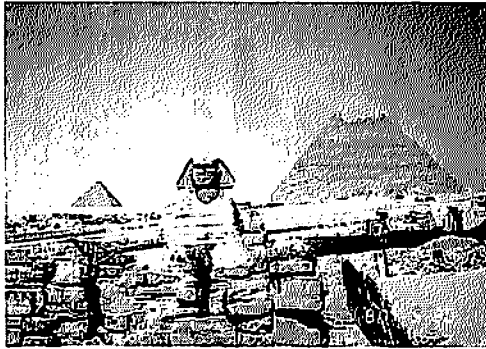
1988年の夏至の南中時、学校中庭で担任する1年生の児童と撮影したもの。影が真下に出来ている。この時の気温50度。

ンド（集合住宅）直営の二台のスクールバスが到着します。毎日三十分近くかけての登校です。五、九月なら、朝八時でもう気温四十度。外で遊ぶことのできる短い時間を惜しむ

ように、狭い運動場へ駆け出していきます。極度の乾燥のため出る汗はすぐ蒸発し、顔が赤くなることはあっても汗は殆んど流れません。また数少ない遊具も即熱くなるので僅かの期間しか使用できません。緑が少なく、蚊や蠅、ゴキブリさえ殆んど見ない、湿度は常時三十％程度等、人間が生活するには文明の利器がたくさん必要になってくる所。しかしそんな環境をもろともせず、二十八名の児童・生徒は元気に学校生活を送っています。『子供の無限の可能性』という言葉、この子供にはびったりです。

現地校参観を中心に

エジプト・カイロ日本人学校
岡山市立旭東中学校 安藤 一雄



スフィンクスとピラミッド

五千年の歴史を有するイスラム教国エジプトは、ナイル川の賜物であり、その両岸には各時代とともに盛衰した都の跡をとどめる多くの遺跡が残されています。カルナック神殿・ピラミッド・スフィンクスやアスワンハイダムの建設によって水没の運命にあった貴重な神殿や石像がヨーロッパを初めとする各国の援助のもとに、アブシネル神殿・イシス神殿として移転保存されたことは多くの人々の知

るところでしょう。

そのナイル川下流にある首都カイロは、五千二百万人といわれるエジプトの人口の約三分の一弱のみ込み、高層ビルと喧騒に包まれた大都会です。



日本人学校でのバザー風景

一九八七年にはフランスの援助のもとに短い区間ですが地下鉄も完成し運行されています。現在、このカイロに在住する在留邦人は、約七百人、三百世帯といわれています。在留邦人で組織されたカ

イロ日本人会の悲願であった自前の日本人学校が昭和六十二年三月、多くの人々の努力によって完成されました。

校舎はカイロから約二十キロメートル離れたギザ地区に建設され、校庭から三大ピラミッドが望める場所です。各特別教室・体育館・図書室・生徒会室等を備え、日本の学校施設にほぼ匹敵する立派な校舎です。平成元年十月一日

現在、小学部八十五名、中学部二十五名、計百十名の児童・生徒が在籍しています。現在、学校では、副読本作成と国際交流の推進を二大目標として取り組んでいます。その国際交流の一環として、現地公立学校の授業参観を希望していたところ、研修係の先生方の努力が実ってギザ地区にある幼稚園・小学校併設校の参観が許可されました。



現地校訪問

授業を終えた木曜日の午後、それぞれ自前の乗用車で学校訪問に出かけました。校門を入ると、日番らしい緑色のタスキをかけた児童に案内され、校長室兼応接室らしい広い部屋に通されました。あとで聞いたところによると、緑の

タスキを掛けた児童は、在校生の生活指導を担当し当番に当たると、その日一日授業を受けることが免除されるそうです。女性校長の出迎えを受け、あいさつをかわした後、レセプションとして白いドレスを着た五人のかわいらしい幼稚園児の踊りを披露してくれました。私達派遣教員十二名は、低・中・高学年の三グループに分かれて授業参観することにし、教室へ向いました。日本語以外に理解できない私はどうなることかとあやぶみながら、ともかく六年生の教室へ入りました。

教室は階段状で、二人掛けの机が並べられていました。約五十名の児童がすでに算数の学習をしていました。私が教室の入口に立つと、授業を中断して一斉に起立し、「ウエルカム、ミスター○○○」と歓迎の言葉を述べてくれました。その後も参観者が教室に入ることと同様のことが繰り返されました。授業担当者は二十六、七歳の若い男の先生で授業はすべて英語で進めます。児童は行儀よく活発に学習活動に参加していました。途中校長先生が二、三人の先生を従え教室に来たとき、授業を中断し担当教師に大声で英語の発音の誤りを注意したのには驚かされました。また、授業中にもかかわらず参観者にキャンディーをサービスに配ってきました。度々の授業中断にもかかわらず児童達は至極当然の顔付きで授業を受けていました。やがて五十分の授業が終了し私達が応接室に引きあげようとうと腰を上げると、ノート・筆記用具を持った児童達に取り囲まれました。なんと日本語のサインを求めにきたので

した。ケーキとジュースのもてなしを受け、記念撮影をして学校を後にしましたが、エジプトの学校の異国の客に対する徹底したサービスピ精神に接し複雑な気持ちでした。

エジプトの現行の教育制度は基本的には日本と同じ六・三・三・四制です。ただし、中学校が義務化されたのは十年位前からです。小・中学校は児童・生徒の人数に対して、校舎、設備が不足しており午前・午後の二部授業を実施している学校が多くあります。私達の通勤路であるピラミッド通りには多くの学校があり、朝七時三十分ごろから朝礼をしているらしく校庭からエジプト国歌が流れてきます。

また、夕方五時頃帰宅する時には、帰りを急ぐ多くの児童・生徒を見かけます。しかし、現在、本校が交流を進めているミスル・ラングウエジスクールは私立校で幼・小・中・高校の課程を持つマンモス校であり、コンピュータ教室まで持ち、非常に施設・設備の充実した学校です。

エジプトの風土・風習・遺跡等紹介したいことはたくさんありますが、与えられた枚数の都合上これで筆を置くことにします。

世界の国々に学ぶ

帰国教師のレポート

1. 外国雑感-----垣見 憲治
(アルジェリア・アルジェ日本人学校)
2. 白樺のなかの三年間-----土屋 丹
(ソビエト・モスクワ日本人学校)
3. アマゾンに暮らして-----横山 福水
(ブラジル・ベレーン日本人学校)
4. 国際学級のある日本人学校-----赤木 寛
(シドニー日本人学校)
5. 1997年・香港返還-----阿比留 博
(香港日本人学校)
6. イランへの旅立ち-----根葉 健児
(イラン・テヘラン日本人学校)

外国雑感

アルジェリア・アルジェ日本人学校

玉野市立荘内中学校 垣見憲治

〔写真〕

日本人ほど、写真を撮るのが好きな国民はいないのではないかと思うことがよくある。世界のどこに行っても、場所も構わずとりまくっている。しかし、外国では軍事上他いろいろな理由で、撮影禁止の所が多いのは周知の事実である。例えば、駅、港、空港、軍事施設等々……。このことに留意しないと、とんだ目に遭うことがある。

私がアルジェ日本人学校、小学三年の副読本「私たちのアルジェ市」取材のため、同僚のS先生の運転でアルジェ港に来た時のことだった。まだ日本から来たばかりで、国内の感覚でパチパチ撮りまくっていた。しばらくして、甲高い笛の音とともに、MPがピストルに手をかけてとんできた。私はカメラを手にしたまま、憲兵隊詰所に連行されていた。自分でも顔から血の気が引くのがわかった。そこにジープに乗った上級将校が通りかかり、一言ふた言、部下と話していたかと思うと、こちらに向けて何やら早口の

フランス語でたずねた。何を言っているのか全然わからなかったが、私の方も必死。知っている仏単語に英単語、大げさな身振りも交えて、ホテルの方を撮っただけ、軍艦などは一切写していないと主張した。じっと聞いていた将校は、うんざりした様子でもう行けとばかりに腕をはらった。フィルムも抜かれなかった。私は後ろも見ずにゆっくり歩いていったが、冷や汗がどっと出てきた。

学校に帰り、一部始終を報告したが、同僚達は「おしいな、折角の留置場体験のチャンスだったのに」と無責任なことを言う。あの時、将校が通りかからなかったらーと考えただけでもゾーッとした。アルジェリアの官憲の手荒いのは聞いていたから。

私は、「今、外国にいるんだ」という実感をもつと同時に、それ以後、たとえ公園であろうと、警官に尋ねてから撮影するようになった。

〔ドア〕

ヨーロッパを旅行中の日本人が、店のドアにぶつかり、大げがをしたと聞いた。なるほど、日本ではちゃっとした店でもたいてい自動ドアで、手前までゆくと勝手に開く。きつと、その日本人も日本国内のつもりで入ろうとしたのであろう。

その日本でも、デパートはほとんどが手動式である。私は先日、倉敷のデパートに買いものに行つて出ようとしていた。直前を若いカップルが出ようとしてドアを押し開け、後ろを見ずに手を離した。後に続こうとした私は、危うくガラスにぶつかりそうになった。思った以上の勢いでドアがやってきたのである。

パリの地下鉄に、初めて乗つた時のことである。メトロの入口二、三メートル前を二十代後半の女の人が戸を押し入ろうとしていた。ところが、入つて後をチラッと見ると、片手でおさえて私を待ってくれた。私はどもりながら「メルシー」と言つた。その後しばらくは胸がいつぱいであったが、どうも後の観察では多くの人が同じ事をしていく。親切というより、単なる習慣という結論になつた。しかし、おかげで私も次第に、当り前の様にできるよになつたのである。

数日前の新聞の投書欄に六十才の人が「ドアを開けてまづてくれた外国人に感激」と投稿していたが、これもその外国人にすれば、特別なことではなかつたかも知れない。

しかし、私はパリの件の女性の笑顔を思い出す度、必ずしも習慣だけでなかつたかも知れないと思ふよになつた。自動ドアが増えて、生活が便利になるより、手動ドアでももつてニコッとはほえむ心のゆとりを持ちたいと思ふ。

〔見送り〕

結婚式後の出発、会社の転勤の見送りなどは、駅や空港の日常風景である。これらは、たいていワイワイガヤガヤと騒がしい限りであり、他人からすると迷惑このうえない。アルジェにいた時、お付き合ひのあつたドイツ人学校校長のJ氏の任期が切れ、帰国することになつた。そこで、彼は自宅でパーティをひらき、友人を呼んだ。私も彼のドイツ語の生徒だったので、参加させてもらった。丁度、彼の帰国の日は授業があり、見送りに行けなかつた。後で聞くと、空港で彼を見送つたのは、運転手一人であつたといふ。

一年ほどして、今度はアメリカンスクール校長のS氏がブラジルの方へ配置換えになり、多くの人がフェアウェルパーティに集まつた。彼のその人柄と夫人のアメリカ人らしい明っびろげの性格が、つき合ひを広くしていた。私達夫婦は、アルジェに来て以来、何かと世話になつていたので、また休みでもあつたので、空港に見送りに行つた。しかし、ヘミングウェイのようなひげ面が、奥の搭乗口に消える頃になつても、見送りは私達二人だけであつた。お別れはフェアウェルパーティで済んでいたのである。

後日、私達が三年間の任期を終えて日本に帰国する際には、校長、教頭と私の三人が帰ることもあつてか、大使館

の方々、後任の教師、教え子とその両親などが、アルジェ空港狭しと大挙おしよせ、周囲の外国人が目を見張るばかりであった。これより何日も前に、レストランを借りて、船国パーティをしたばかりであったのだが……。

〔夫婦と子ども〕

アルジェやヨーロッパのちょっとしたレストランでは、子供の姿をほとんど見かけない。最初はふしぎでならなかった。アルジェリアはともかく、日本より出生率の低いヨーロッパなので、子供がいなかったかとも思った。しかし、後になって商社の方で聞くと、「おおかた子供は家にいて、自分たちだけでハンバーガーでも食べているのでしょう」ということであった。

日本だったら、子供を連れてレストランへ来て、子供がキャキャッと他の客の間を走り回わることもあるが、親は知らん顔のことも多い。

日本人学校のフランス語講師だったX氏によると、子供が三十分位は椅子に黙ってじっとしていられない内は、公の場所に連れていかないのでそうだ。誠に個人主義のフランスらしいやり方である。大人は大人だけで時間を過すとともに、他人に迷惑をかける子供は、人前に出さず、ベビシッターに預けてしまう。しかし、一旦子供が大人になる

と、ほとんど干渉はせず、自分で責任をとらせるといふ。つまり少しづつ子供の自由と責任を広げてゆくのである。小さい頃は十分甘やかしておいて、思春期ごろからしぼりつけようとすることが多い日本の親との差の何と大きいことであろうか。

〔野菜と果物〕

スーパーマーケットで、形の整った美しい色のピカピカ光るオレンジを見る度に、北アフリカのそれを想い出す。それは小さく虫が喰っていたり、形がいびつだったりする。しかし食すると、甘さと香りが口いっぱいにひろがる。木で十分に熟したもののだけを出荷し、農薬もあまり使わずワックスがけもしない。桃はテニスボール大で虫くい、シミつき、じゃがいもは形わるく泥つき、キュウリは色は濃い、大きくごつく曲りくねっている。店の主人は、これらの商品を客の持参したかごに放り込むか、古新聞にゴソゴソつつむ。

この様に、アルジェリアの生鮮品は、日本ではとても商売にならない様な代物ばかりである。日本ならこんな品物を店頭に出さないであろうし、客は誰も見向きもしないであろう。

しかし、私はなぜかあのチンチクリンな野菜や果物が懐

しいのである。日本のそれは、見栄えは良いが、味の濃さ色の濃さ、香りーそれも土の香りがないのである。しかも、うれしいことに？一年中手に入ってしまう。

アフリカは生産体制が遅れて、売り手市場なのだとか消費者の意識が低いのだーと決めつけることは容易だが、反面日本は便利さと引き換えに、何かを失ってしまった様な気がしてならない。

〔バカンスと休み〕

フランス人に聞いても、ドイツ人に聞いても、遊ぶために働いているという。ある本によると、バカンスの終わったフランス人が、「さあ、次のバカンスまで働いて金を貯めるぞ」と言ったとか。これはどうも当り前の感覚らしいが、もし日本で「私は遊ぶために働いてお金を貯めています」と広言したら、周囲からどんな目で見られるであろう。

ドイツの地方を旅した時、どここの家の庭にもキャンピングカーが置いてあった。これが「中流」の証しだと聞いた。ドイツ人学校長のJ氏の話によると、夏のバカンス時の渋滞はすさまじいものだという。どのアウトバーンも、南仏やイタリア、スペインに向う車でいっぱいになるという。そこでドイツでは州ごとに夏休みに入る時期をずらして、渋滞を防ぐという。こうして、ベットやサイクリング車、

ゴムボートを満載した車は、最低一カ月はバカンス先のキャンプ場にいららしい。

過年、アメリカ西海岸カルフォルニア州のローダイという田舎町に行ったことがある。泊めてもらった所は奥さんが日本人、主人がリタイアした軍人の家庭で、日本なら四〇五百万円するキャンピングカーが置いてあった。主人はもう七十才を越え、今は使っていないというが、うらやましく思ったものだ。キャンピングカーの有無ではなく、単なる「遊び」にお金を費せる姿勢に生活のゆとりを感じたのである。

労働省の統計によると、先進国で年間労働時間が二千時間を越えているのは日本だけとか。日本人が「遊ぶために働く」ようになるのはいつの日か。

白樺のなかの三年間

ソビエト・モスクワ日本人学校

岡山市立東山中学校 土屋 丹

一、はじめに

日本の新聞紙上をにぎわわせているペレストロイカ路線進行真っ最中で三年間をモスクワで生活した。街のいたるところに掲げられたレーニンの肖像画が、社会主義圏の本家を誇示しているようである。

ソ連（モスクワ）の人々の生活や教育事情、教育実践の一端を紹介し、国際理解の一助にさせていただこうと思えます。

二、モスクワの自然と生活

モスクワ駐在の日本企業は五十余社、モスクワに暮している邦人は約八百名。モスクワ日本人学校は、閑静な住宅と白樺林に囲まれた五階建て、アングロアメリカ、スウェーデン、日本の三校が同居している。体育館やグラウンドも共同使用である。昭和四十二年十月に創立され、現在小一から中三まで合わせて百二十数名の生徒数である。教職員

は、派遣教員が十三名である。現地採用職員は、通訳一名、スクールバスの運転手六名、用務員二名、ロシア語講師三名、英会話講師二名、警備員二名、清掃員一名、事務員二名の十九名である。そのうちソ連人は十四名である。

週六日制、年間授業日数二四〇日。ほぼ学習指導要領に近い教育課程を編成する中で、現地の人の生活や文化を理解するために、小学部はロシア語を中学部は英会話を週二時間学習している。児童生徒は、モスクワ市内に点在する外人専用のアパートから、六台のスクールバスで通学している。

モスクワを語るとき、最初に紹介したいのは、自然の豊かさや美しさ、厳しさである。人口が約八百数十万人の大都市にもかかわらず、すぐ近くに自然があることは、そこに住む人々に大きな安らぎを与えてくれるものである。

モスクワ市では、森や林の中に十数階建ての集合住宅が建っている。現地の人たちは、住宅の近くにある森や林をよく散歩する。夏といわず冬といわず。私も日曜日待ちかねて家内とよく出かけたものである。春から夏にかけては、リスに会える楽しみもある。森や林は、冬になると格好の歩くスキー場となる。日本人学校の児童生徒も、クラブや体育の授業で、林を縫って歩くスキーを楽しむ。

一九八六年四月十日正午に成田空港を飛びたった。シベ

リヤの上空を飛ぶ。眼下は白銀の世界である。同日（時差六時間）に生まれて初めてモスクワの土を踏む。麦畑に残雪があり、池は水でおおわれている。どんよりとした空、春が来るのだろうかと不安に思ったものである。

五月になると、木々がいっせいに芽をふき、日一日と緑が色濃くなり、平地のあちこちでタンポポが黄色のじゅうたんを敷きつめてくれる。五月のメーデー。ひと冬モスクワで過ごす、メーデーはモスクワの人たちにとっては、春の喜びとその祭典である、ということががしみじみとわかる。六月になると、トーポリの綿毛が雪の如く舞い、気温も二十℃を越えるようになる。在モスクワの日本人は、ピクニックを兼ねて森や林に、ミツバ、や、わらび、採りに出かける。冷凜して冬の野菜不足に備える。日本人学校が運動会を行うのも六月である。リング、ライラック、ミモザなどの花が咲きそろうのもこの頃である。

七月になると、本格的な夏である。日本の夏を思わせる日が続くこともある。木々は深い緑につつまれ、モスクワ川の川岸や近くの森、林で水着姿の人たちがゆっくりと日光浴を楽しむ。休暇をとった人たちが郊外のダーチャ（別荘？）に日光浴と保養のため出かけるようになるのが七月である。湿度が低く、避暑に来ているようなゴージャスな気分にしてくれる。日照時間が長く、つつい寝不足にな

るのが六月下旬から七月にかけてである。短かい夏は、八月中旬には終る。

九月になると、木々の葉が色づき始める。紅葉樹と常緑樹とのコントラストは正に、黄金の秋、と呼ばれるにふさわしいものである。ソ連の人は、ナナカマドの実が多くて



とびりんの川岸で日光浴を楽しむ人々

赤い年の冬は寒い、
と言います。それが
気になりました。頃
である。

十月になると、
降雪が始まる。気
温も日に日に下が
る。それでも、青
空の見える日には、
大人も子供も、乳
車に入った赤ん坊
さえも外気浴に森
や林に出かける。

住居は、旧岡山市全域を管理する規模の地域全館暖房である。室内はいつも二十〜二十四℃位に保たれている。その暖かさをシューパー（外套）の懷に入れて散歩する。白樺の白とブチ模様の木肌が、白銀の大地と青い空によく映える

ようになる。

十一月七日、八日は革命記念日である。五月のメーデーのときもだが、記念日の数日前からルイノック（自由市場）が大そうな賑わいを見せる。近くの道路は交通禁止となる。国内の各地から柿、ぶどう、みかん、りんご、ざくろ等々の果物や野菜類がトラックで運びこまれる。花がよく売れている。ほうれん草が手に入ることがある。余分に買って知り合いの日本人に分けてあげる。

革命記念日。日本の新聞やテレビの報道でご存じのように軍事パレードがある。軍事パレードの後には、メーデーのときと同じように、市民が色とりどりの造花などを持ち、子供を肩車して、晴れやかに行進する。博多どんたくの祭りの行進のようなものである。日本では、軍事パレードだけを強調して報道しているような気がした。

革命記念日が終わると、永い厳寒の冬が続く。赴任一年目の冬は、気温マイナス三十六℃を経験した。マイナス二十℃以下の日が一ヶ月近く続いた。冬休み中休ませていたスクールバスが動かず、一月八日の始業式を十二日に延期した。四日間の臨時休業である。

冬至の頃は、午前九時頃にやっと明るくなり、午後四時には暗くなる。皆んな冬の夜長を映画、音楽、パレー、オペラ、サーカス、人形劇等の鑑賞で劇場に足を運ぶ。若



樹氷の森を散歩する人々

者の間では、年々ロックコンサートに人気が高まっている。

子供たちの冬の楽しみは、スケートと歩くスキーである。学校の運動場、住居近くにあるテニスコートはスケートリンクに様変わりする。男の子はホッケー、

女の子はフィギュアに熱中する。

日本人学校でも一月から三月上旬にかけて、毎週土曜日を「スケート教室」の日にしている。女子と小一から小三の男子はゴーリキ公園、小四以上の男子は学校のスケートリンクでアイスホッケーに半日汗を流す。コーチは現地の指導員である。

三月はまだ白銀の世界であるが陽の光だけは春めいてくる。「光の春」というのだそうだ。下旬になると雪も融け始める。三年任期を終えてモスクワを離れるとき、「薄緑

色をした草地に立つ白樺が、初々しい若葉を見せて春風に
なびいている光景をもう一度見たかった。こんなに辛抱し
て冬を過ごしたのに、といく分感傷的になったことを思い
出す。

三、モスクワの人々

前述のように、一九八六年四月十日シェルレメチエボ空
港に着く。パスポートコントロールで入国のチェックを受
ける。十代の検査官が睨むようにこちらを見る。ソ連で初
めての入国チェックなので緊張する。何もやっていないは
ずだが十五分近くも私の顔を見たりパスポートを見たりを
何回もくり返されると、身に覚えはないのだが何か悪いこ
とでもやってしまったのかとの錯覚にとられる。やっと
通してもらった頃には、変なもので、ありがとうございます
という気になってしまう。

モスクワに住み始めて一週間後に、日本に残した家族に
手紙を出さねばと思い、切手を買に行く。カウンターの
向こうには二十五才前後のきれいな娘さん。笑顔のひとつ
もと期待して、見本の切手を指さし、紙に十枚と書いて十
ルーブル札を出す。無愛想どころか仏頂面をして、何かブ
ツブツ言いながら切手とつり銭の五ルーブル札をカウンタ
ーにポンと置く。その後はこちらを見向きもしない。話し

には聞いていたが、いやはや実に見事なものと感心したこ
とを思い出す。

職場では、ソ連人の通訳やスクールバスの運転手、用務
員さんと一緒に働く。教頭という職務柄教員の中で彼等に
仕事の指示、依頼をすることが一番多い。契約社会だから、
雇用契約の範囲内の仕事については、適確な指示をすれば
確実にやってくれる。契約外の仕事を頼むときには、仕事
の量に応じてそれなりの心遣いを忘れないことである。そ
うすれば実に気持ちよく働いてくれる。学校のトイレレット
ペーパーのストックが全くなって困った時には、運転
手さんたちがモスクワ市内中を走り回って買ってきてくれ
たものである。

転入生の住居がこれまで在学生のいない所であると、新
しく停留所を設けることになる。運転手にとって仕事が増
えることになる。誰が担当するか六人全員を集めて相談す
る。自分が担当しようとして申し出ることはまずない。各自が
自分の仕事量の多いことを主張する。時には大声を出して
やり合う。こちらからもあれこれ案を出す。バスダイヤを
変更することもある。相談がまとまると今までの剣幕ほど
こえやら全員平素のにやかな態度にもどる。赴任当初は
面くらいいもし、ソ連人氣質(國民性)に触れた思いがした。

モスクワの人たちは、子供やお年寄を大切にする。子供



ベキューパーで野原の郊外ワクモスク
人ロシアれるてくも

には過保護と思える程である。博物館等へ入るため長い列に加わると、子供連の人たちにソ連人、外国人を問わず先へ先へと順を譲る。それほど寒さでもない時でも、子供に帽子をかぶらせなかったりすると、通りすがりの人たちからガミガミおこられる。凍った道路を歩いていて、滑りやすい坂道になると、近くに居る人がさっと手をのべる光景は何度と見た。十一月の雪の積った公園でのこと、手袋をはめていないお年寄りに、近くに居た若者が自分のマフラーをはずして、手を包んであげているのを目にしたこともある。

モスクワの人たちは、親切で人なつこい。日本から連れて来た小犬（ボメラリアン）を連れて住居近くの公園を散歩している。大人も子供も寄ってくる。種類は、年令は、名前も、日本から来たのか、犬に子供は

いるか、かまないか、だかしてくれ、あなたは大使館に勤めているのか等々の質問攻めに合う。三年間ボメラリアンには我が家の犬の外には一度もお目にかからなかった。珍しいということもあるのだろうが、モスクワの人々に、外なる人をすぐ内なる人とすることができるとなつてきた。多民族国家のせいだろうか。

学校からの帰途、道路の真中で自動車が進まなくなったことがある。交通整理の警官（信号機のある所にはかならず一〜二人居る）が来て交通整理をはじめた。通りがかりの人たちが寄って来てあれこれアドバイスしてくれる。ボンネットを開けると言って、エンジンまわりを点検してくれる人もいる。すぐには動かないことが分ると、私に運転席に乗れと言う。交通の邪魔にならない所までみんなで押してくれる。それが終わると何くわぬ顔で車を離れていく。私はスパシーバー（ありがとう）をくり返すだけであった。こんな体験をした日本人学校の教員は何人もいる。

国内旅行の世話（手続等）を親身になってしてくれた通訳。私たちが旅行で留守の間、愛犬の世話をしてくれたモスクワの人。モスクワ市内の博物館や美術館に妻を案内してくれたロシア語の家庭教師。日曜日を待ちかねたようにして、寺院や宮殿を家族ぐるみで案内してくれ、秋になると茸（グリプイ）採りに郊外の森に連れて行ってってくれ、帰

りに野原でパーベキューをご馳走してくれた運転手の一家。いつも辞書を手元においてのおつき合ひであったが、私と家内にとっては一生忘れることのできない人たちである。

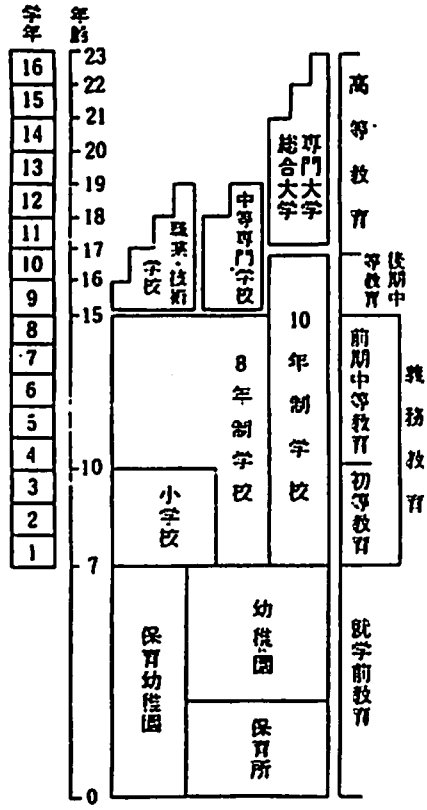
四、教育事情

一 教育制度

〈就学前教育〉 一九五九年以降、保育幼稚園制度を設け、〇歳から「就学前教育プログラム」によって計画的に実施している。

〈義務教育〉 満七歳の九月から十年間、普通教育学校

現行の教育制度



で教育を受けるのが一般的であるが、教育改革により就学年齢を一年引き下げる学校も出てきている。この場合、十一年制となる。十年制の場合、初等教育三年（改革後は四年）、前期中等教育五年、後期中等教育二年の三段階に区切られている。後述するが、普通教育学校の外に、芸術学校等の特別学校がある。

〈後期中等教育〉 普通教育学校の八学年修了後、後期中等教育の段階で次の三つのコースに分かれ、進級・進学する。

①普通教育学校の第九・十学年へ（七六％）

②中等専門学校へ(十三%)

③職業・技術学校(十一%)

へ教育改革の動向) ソ連社会において価値感の変化や労働意欲の減退が大きな社会問題になっている。一方科学技術の発展に伴って、質の高い労働力が強く求められている。改革の動向としては、思想性・政治性の深化、労働に対する自覚や創造性の育成、科学技術に關する高度な専門性などが求められている。

その内容・方法としては、内容の精選、労働教育の見直し、教員の質の向上と待遇改善、社会教育の充実などがあげられる。

二 二十番学校との交流

現地の二十番学校とは、一九八一年から姉妹校の關係にある。毎年二回、小・中学部の児童生徒が二十番学校を訪問する。体育や英会話の授業に参加したり、折り紙作りと一緒にやったりする。九学年のコンピュータ室での授業に参加したこともある。

十一月に行う学習発表会は、二十番学校のホールを借りて実施している。二十番学校の生徒に賛助出演してもらっている。発表会のフィナーレは、賛助出演してくれた二十番学校の生徒、日本人学校の児童生徒と保護者全員によるロシア民謡(ロシア語で)、日本民謡(日本語

で)の合唱である。

赴任後の二年間は、日本人学校が二十番学校を訪問するだけの一方通行であった。三年目に、二十番学校の「日本語クラブ」に専任の顧問が配置された。この機会を逃してはと二十番学校の校長に働きかけ、二十番学校の生徒が日本人学校を訪ねてくれるようになった。クラブ活動での交流。小グループに分かれて中学部の生徒たちと生活のことや学校の様子などを話し合う。ゲームやダンスを一緒に楽しんだりした。



生徒の日本語クラブの活動(日本語のゲームと椅子取り)

どの教員もこの交流をだいにし、育てていこうと頑張っている。

二十番学校の授業は、特別教室制というシステムです。四年以上になると、国語の授

業は国語の教室で、歴史の授業は歴史の教室で授業を受ける。教科担当の教師がそれぞれ工夫をこらして、教材や教授法の充実に努められるということであるらしい。教師は一日のうちのはほとんどは準備室にいる。職員室と書いてある部屋はあるが、そこは授業の合い間などに休憩する程度のものである。校長と副校長の部屋はあるが、あとの教師には休憩室しかない。

教室の中は日本と余り変わりが無い。低学年では、一つの机に男の子と女の子が仲良く座る。教師から発問があると、子供たちは目を輝かしながら手を上げる。日本とちがうのは、はい、はい、と大声を出さない点だけである。どの子も教師の質問に答え、はめてほしいのである。

高学年になると机のつくりが一人ずつ座る机になる。一教室の人数は三十〜四十人である。定員は最高四十人と定められているとのことである。

日本人学校の中一の生徒たちが、二十番学校の第五学年の英語の授業に参加させてもらったことがある。一八八八年の十一月十三日であった。活発に話すのは二十番学校の生徒ばかりである。日本人学校の中一レベルではとても相手になれない。二十番学校の校長さんは否定されたが、英語に重点を置いた特別学校であるらしい。英

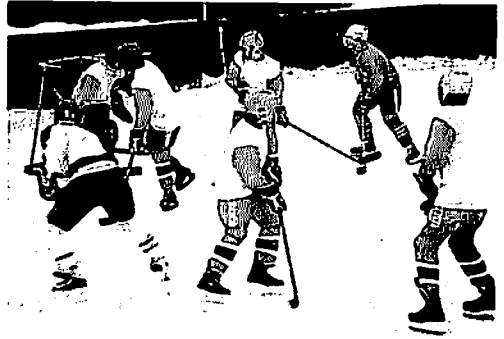
語の授業を第四学年から始めていたり、在学生の住居がかなり広範であることから考えて。

特別学校は、外国語だけでなく、芸術学校、音楽やバレエの学校、サーカスの養成学校もあると聞く。これらの学校は、一般のカリキュラムに基づく学習をこなし、そのうえでそれぞれの専門技能を子ども頃から伸ばしているとうとするものである。授業料は無償。教材、教具も無償で貸与される。入学には試験があり、かなり厳しいと聞く。

スポーツ学校と呼ばれる学校もある。普通の学校とは別個の施設で、一般の教育を地元の学校で行い、課外時間にスポーツの能力を伸ばすことを目的とした施設と聞く。普通の学校の運動場は、テニスコート二〜三面分であるのに、市内のあちこちに大きな体育館や広いグラウンドが数多くあるのは、こんな制度のせいかと思ったものである。

五、外国人学校との交流

異文化を正しく理解し、自分の国と同様に他国も尊重できる児童生徒を育成する。海外日本人学校こそその条件が満たされている。交流は理解の早道である。個人的な交流をより充実したものにしようとしてきたものこのため



アイスホッケーの交流試合
(対アングロアメリカンスクール)

である。

モスクワ市内にある外国人学校(日本、アングロアメリカ、フランス、ドイツ、スウェーデン、フィンランド)の間で、毎年定期的にスポーツ交流試合を行っている。四月はバレーボール、六月は陸上競技大会、十月はサッカー、十一月はバスケットボール、一月から二月にかけてはホッケーと。

これらの交流は、児童生徒の体育活動の励みになると共に、外国の子供たちとの心の交流、相互理解の場にもなっている。

同居しているアングロアメリカンスクール、スウェーデンスクールとは、毎年それぞれのお国行事を披露し合う。アメリカのハローウィン、スウェーデンのルーシャ祭、日本の節分豆まきである。節分豆まきでは、小一・二の子供

たちがアメリカンスクールを訪ねる。中学部の生徒が行事の説明を、小一か小二の児童が挨拶をいずれも英語でする。いずれの行事も、子供たちが首を長くして待つ行事である。日本人学校の書き初め大会をアメリカンスクールの子供たちが見学に来ることもある。小五の児童がアメリカンスクールに出かけて一緒に書写をしたこともあった。

年一回、同居している三校の教員で懇親会をもつ。日本人学校が当番校のときは、モスクワでただ一つしかない日本料理店「さくら」の日本人コックさんをお願いして、即



祭(春の光を待ち望む祭)
に日本学校を訪ねてくれたス
ウェーデンの子供たち

席「すし店」を開いた。アメリカ人、カナダ人、イギリス人、スウェーデン人：皆んな大喜びしてもらった。それぞれの出身地のこと、旅行のこと、教育のこと等々話題は

つきない。先生方の国際交流である。

六、修学旅行

修学旅行は、現地理解の有効な教育活動である。見学の歴史や文化、芸術、風土に触れることによって、見聞を広め異文化を理解しよう。と、小学部五年生以上が、レニングラード、リガ、タリン、ビリニユスに出かけている（毎年行先を変更して）。ソ連では、外国人の行ける三都市（開放都市）が決められている。それだけに、修学旅行先の開拓には骨が折れる。チェルノブイリの原発事故のときは、急にキエフに行けなくなり、修学旅行は国内を、の原則をくずして、ヘルシンキに変更した。

ソ連在住の日本人は家族旅行をよくする。しかし、ソ連に住みながらソ連の国内を旅行することを敬遠する。解放感にひたり、おいしいものが食べたい、買い物もしたいからであろう。でも子供たちには、学習者としてソ連国内をできるだけ広く見て欲しいという考えですすめている。

日本の新聞報道によると、現在もリガやタリン、ビリニユス方面では、デモ等が頻発しており、外国人の旅行は困難なようである。日本人学校の大切な行事に陰りをもたらさなければいいがと願っている。

七、むすび

ペレストロイカ進行中とはいえ、石けん、砂糖といった生活必需品の品不足が続き、店先に黙々と行列をつくる姿がなくならないモスクワ。メーデーや革命記念等の祝日に打ち上げられる花火を、ウラー（万歳）と大声を上げて眺める人々。あまり広くもないアパートの部屋で、誕生日等に友人と祝杯をあげ、踊る楽しみな手な人々。国内旅行の列車の中で辞書を手にしながらも会話がはずんだエレバンの若者。帰国が近づくと、もう一度モスクワ日本人学校に帰ってこい。と言ってくれたソ連人の職員。この人たちとの出会いは、一生忘れることのないものである。言葉は十分話せなくても、誠意は通じ合うことを教えてくれたこの人たちに心から感謝している。

私が見聞したのは、ソ連（モスクワ）のごく表面だけのことである。写真撮影や行動の制限等、管理が厳しかっただけになおさら。

異文化を体験し、国際理解に目を開いた帰国子女が、日本の社会で大切にされ、日本の学校で生かされる——異質な文化を受け入れ、進んで学びとる柔軟な心を育むような教育環境の整備が急務であると思う昨今。

アマゾンに暮らして

ブラジル・ベレーン日本人学校
岡山市立西大寺中学校 横山 福水



街並の露店

今現在、新任校で毎日の忙しさに追われていると、ついこの間まで、二万キロも離れたアマゾン河口の町で三年間も暮らしていた事が、何か夢だったような気がしてなりません。

振り返ってみると三年間はあっという間でした。氣候、風俗、習慣の異なった地球の裏側で、いろいろな事に一喜一憂した時を思い出しながら、とりとめもなくつつつてみたいと思います。

一、タクシー

ベレーンのタクシーは、ボンコツ車の代名詞になるくらい古い車がほとんどです。バックミラーなし、ウインカーなし、タイヤは丸坊主、座席のシートははずれドアは完全にしまりません。エンジンルームは丸見えだし、ライトは片目。こんなフォルクスワーゲンのタクシーが、市街地を時速八〇キロから九〇キロのスピードで走っているのですから驚きです。

二、オニ(鬼)バス

ブラジルにも交通法規があります。しかし守っている人は一割もいません。信号が赤でも車が来なければ走り抜けていきます。中でもマナーが一番悪いのは市内を走っているバスです。一時停止はしないし、外側の車線からでもどんどん平気で曲がってきます。乗客が乗るか乗らないうちに発車し、止まるのも完全には止まりません。聞いてみると、路線の往復回数で一日の勤務がきまっているから仕方ないそうです。でも、市内ならどこまで乗っても料金は同じだし安いので、どのバスもいつも満員です。ちなみにバスの事をブラジルではオニバスといいます。しかし私達は鬼バスと呼んでいました。

三、ビンと袋

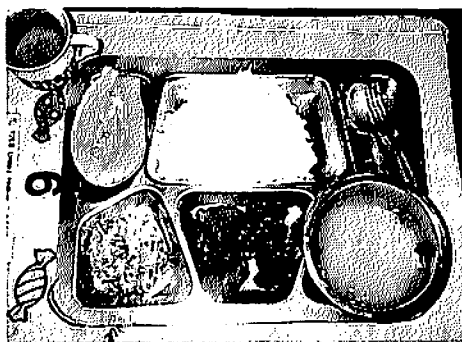
街を歩いていると、ストローをさしたビニール袋を持って歩いている人をよく見かけます。最初は何だかわかりませんでした。が、よく聞いてみると、ビンが高価なため、店でビニール袋にジュースを入れてもらって買うのだそうです。スーパードでも、まず空ビンを金券と交換してレジで買物をした金額から差し引いてもらってお金を支払います。ビンはコーラの場合など、中身の三倍近くします。ですから、ジュースやビールを買う時は重いビンをかかえてスーパーに行かなければなりません。



ブラジル特有の
シュハスコ料理

四、おつり

この国は、おつりは小銭から渡してくれます。最初とはも不安でした。なかなか大きな紙幣のおつりをくれないからです。よく聞いてみると、おつりは引き算で計算するのでなく、おつりを渡しながらかし算をしていっているのです。ですからどうしても小銭から渡す事になるのです。ゆっくりおつりをもらう余裕ができるまでに大分かかります。



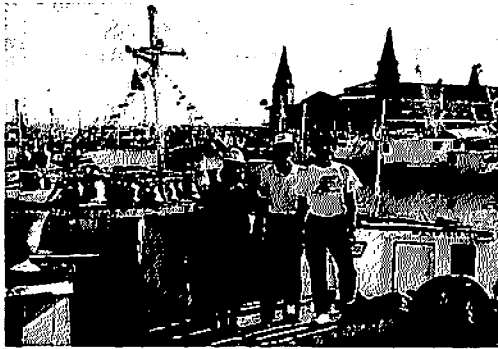
熱帯のフルーツふんだんの
おいしい給食

した。暗算でいっぺんに引き算のできる日本人って頭がいんだなあと、あらためて感心させられました。

五、ブラジルで十年若返り

熱帯地方の動植物は、日本に比べて大変成長が早いのです。人間も例外ではありません。ブラジル人は十五才にな

れば大人と変わらない体に成長します。しかし、その半面、老化も早いのです。四〇才を過ぎると腹がせり出し、頭ははげ、皮肌は老化が目立つからです。きつとビールの飲みすぎと、甘いものとりすぎでしょう。その点日本人は若く見られます。私もブラジル人からいつも一〇才ほど若く見られました。若



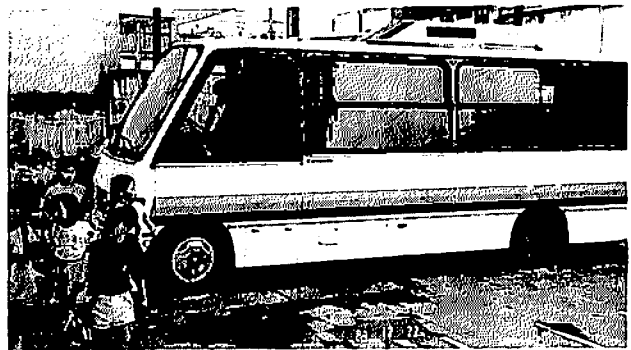
アマゾン河口のベレーン港

く見られると悪い気はしません。ですから、ブラジル人と知り合いになると、いつも、「私はいくつに見えるか」と尋ねる事にしていました。

六、どろぼうに

おだ賞

ベレーンに住んで二年目に車で事故をおこしました。幸い人間様は無事だったのですが、車が横転してしまつたために、レッカー車を呼んでひっくり返さなければなりません。夜遅かつたのですが、一人の男が寄ってきました。よく聞いてみると



スクールバスでの登校風景

んと車の番をしてくれていました。少し金を握らせて「オブリガード（ありがとう）」と言って別れました。翌日調べてみると、スペアタイヤと荷台のカーペットがないのに気づきました。事故をするまでは確かにあったのに……あいつだ。どろぼうに車を見てもらつてお金まで支払つた事に気がつきました。いやはや気の抜けない国です。

車を見てやるといふのです。この国では、車から離れると、その間に、タイヤ、ガラス、ハンドルにいたるまで、部品という部品が全部とられてしまうのです。ちようどよかつたので彼に頼み、いろいろの用事をすませ、一時間ほどしてレッカー車を連れてもどつてきました。彼はさ

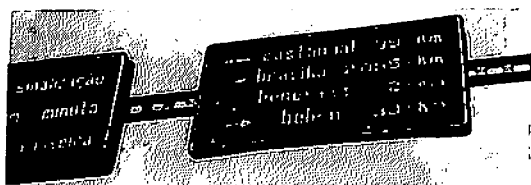
七、マンゴー

ペレインの大通りにはマンゴーの木が植えられ、熱帯の強い日差しをさえぎって木陰をつくってくれます。しかし、マンゴーが熟す時期、気をつけて道を歩かないと、熟れたマンゴーが頭の上に落ちてきます。この時期になると、子供のみならず、大人も合めてこのマンゴー取りに余念がありません。石や木切れをひもで縛り、木の枝に投げてひっかきます。ひもを下から引いて枝を揺らすと、熟れたマンゴーが落ちてきます。スコールなどある時間帯には、バケツを持って通りに出ます。あっという間にバケツ一杯の収穫です。日本でマンゴーを食べた人の話を聞きま



日本語学校との交流

ったのでびっくりし



2,000 km先を示す案内板

たと。しかも、うまくなかったと。マンゴーは熱帯産ウルシ科の常緑高木です。原産地はマライ半島、ビルマ（今はミャンマー）インド北部だそうです。やはりマンゴーは熱帯地方で食べるのが一番のようです。



世界最大の淡水魚ピラルクー

国際学級のある日本人学校

シドニー日本人学校 赤木 寛



一、オーストラリアの子供がいる日本人学校

シドニー日本人学校は昭和四十四年五月十五日の開校であるから、今年二十周年を迎えた。シドニー日本人会を母体とする学校評議会により設立され、文部省及びオーストラリアのニューサウスウェールズ州教育省の認可校である。開校当時は僅か三十三名の児童数で発足したが、その後、日豪間の貿易と人の交流が増え続け、現在シドニーに進出している日本企業は、二百八十社、在留邦人は四、四〇〇人になっている。そのため、本校の児童生徒数は今では五四〇名になった。その内の九十七名が現地オーストラリアの小学校であり、彼らの属する学級を国際学級、英語ではインターナショナルクラスと呼んでいる。

本校は開校当初に、「現地の子供さんで日本人学校に入学を希望する人はいらっしゃる」と門戸を開いた。今にし

て思えばすばらしい開学の精神であったと思う。最初は少数であったから日本人学級の中にオーストラリアの子供

第1表 国際学級児童数の推移

年度	昭和44	45	46	47	48	49	50	51	52	53	54
人数	3	4	6	8	8	10	10	10	24	18	30

55	56	57	58	59	60	61	62	63	平成元
33	37	42	46	57	58	69	65	76	97

を入れて、日本語を主に用いて授業していた。ところが母国語の英語が出来なくなり、日本語が上手になると言う現象がおきた。そこで、これではいけないと言うので、国際学級を作って、図工、音楽、体育の三教科はそれまで通り日本人学級の中に入れて授業する（「交流学習」と呼んでいる）が、英語、算数、社会理科は、現地採用の教師が英語を用いて、州のカリキュラムに従って授業し、今日に至っている。

このようにして授業を受け、小学校の課程を終えた子供達は、ハイスクールに入學しても困らないのである。

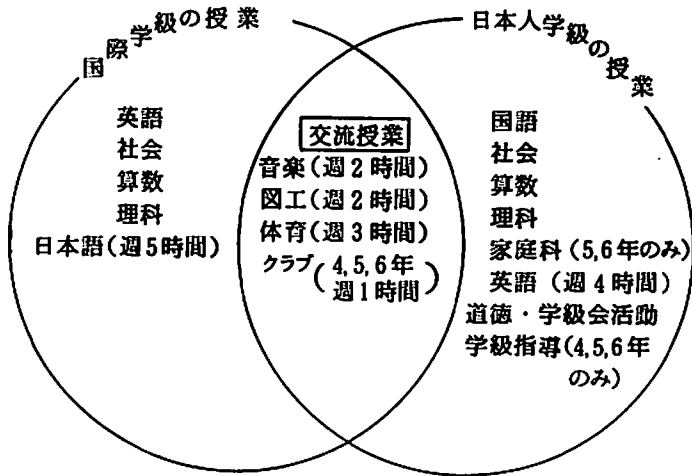
第2表 国際学級の学年別週教科別授業時数

学年	オーストラリア人 教師による				日本人教師による				日豪教師	合計時数
	英語	算数	社会	理科	図工	音楽	体育	日本語	クラブ	
1	8	5	1	1	2	2	3	5		27
2	8	5	1	1	2	2	3	5		27
3	7	5	2	1	2	2	3	5		27
4	8	5	2	1	2	2	3	5	1	29
5	8	5	3	2	2	2	3	5	1	31
6	8	5	3	2	2	2	3	5	1	31



交流授業の時は日豪の子供は混合する
これは小学6年生の1クラス

第3表 授業形態（小学生）



図工の交流授業

二、交流授業

交流授業は、日本人学級の中に同学年の国際学級の子供を入れて、日本人派遣教師が、日英両語を用い、ほとんどが日本のカリキュラムによって授業が進められている。

この交流授業には他の授業にない特別な苦勞が伴い、試行錯誤が繰り返されて今日に及んでいる。指導に当たる日本人教師は毎年三分の一は交替していくので、担当する新任教師は多忙の中を即、対応の必要に迫られている。日本国内では経験豊か



音楽の交流授業

なベテラン教師ばかりであるが、教える子供の約十名は英語を母国語とするオーストラリアで生まれ育ち、生活習慣の異なる者である。今まで経験しなかった授業研究をしながらはならなくなる。その最たるものは言葉の問題である。国際学級の子供は毎日一時間ずつ日本語を日本人教師から習っている。

したがって学年が進むにつれて、日本語を理解する力もついてくるが、交流授業で用いられる日本語をすべて理解するまでにはなかなか達することはできない。特に低学年ほど日

本語には慣れていない。子供たちにとっては日本語を習う一つの機会であり、日本語の授業の補助的役割は確かにしていると思うが、交流授業では音楽や図工や体育の授業内容を子供たちに理解させることがまず教師にとって必要なことである。そこで要求されるのが教師の英語力である。英語の説解力と会話とは別ものだと言われるが、基礎的な英語の勉強をよくしている教師は英会話に慣れるのも早い。研究熱心な教師ほど、その上達は早く、授業において、日本語と英語を適切に使い分けている。三年間の期限で派遣されてくる日本人教師が英語力を早急に身につけることはかなり困難であるが、どの教師も、よりよい授業ができるように、日々努力をしているのである。複雑な内容の理解には、やはり言語の仲立ちが必要であるが、人間同志の触れ合いには、誠意を持って体で示せば心が通じ合う。これこそ交流授業が目指す最大のものであると思う。

三、日本語の授業

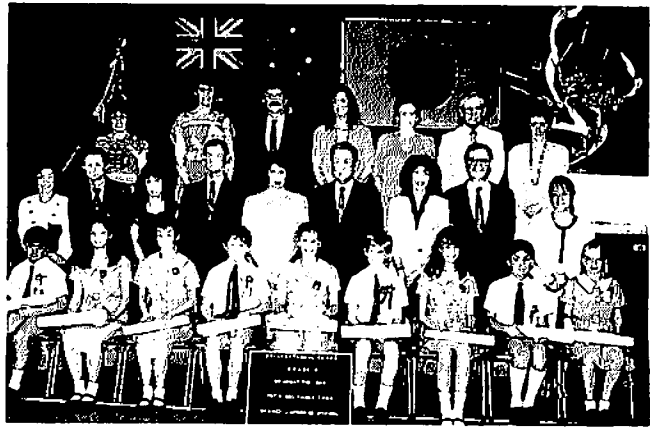
国際学級の子供達は、第二表及び第三表に示したように、一週五時間の日本語の授業がある。一週五日制であるから毎日日本語を一年生から六年生まで六年間習っているのである。これには日本人派遣教師六名が当たっているが、平成元年度からは、現地採用の日本語専任講師を採用して授業



日本語の授業

内容の充実を図っている。テキストは、日本の国語の教科書は程度が高すぎるので、派遣教員の労作の日本語の教科書を使用している。三冊に分かれており、初級は一・二年、中級は三・四年、上級は五・六年生がそれぞれ使っている。またそれに付属した漢字練習帳が作られており、筆順まで

指導している。日本語は英語と比べ全く異なるので難解な言語とされているが、授業以外、例えば年間七十を数える行事はすべて日英語で行うので、子供達は日本語に接する機会に豊富にある。



12月に卒業する国際学級児童
オーストラリアは1月入学、12月卒業である

ドニー教育省の視学官にお願いして、子供達がハイスクールに進学しても日本語が続けて勉強できるようにとお願いしたところ、願いを受け入れてくれ、ホレストハイスクールと言う学校に、上級日本語科を設けてくれ現地採用の日本人講師も採用してくれた。そのため、国際学級卒業生は

六年間在学するとかなりなレベルに達する。毎年十一月に行われる日本語発表会では、日本語だけで劇を上演するが、立派なものである。私はシ

学区を越えて、ほとんどの卒業生がそのハイスクールに行くようになった。

四、おわりに

私が赴任した昭和六十一年には国際学級は二年生を一クラスにした複式学級であった。これでは教育効率が悪いと思ひ、私は単式学級化の三年計画を樹てた。そのためには校舎の増築も必要であったし、担任教師の増員もしなければならなかった。金のかかることばかりであったが、日本企業からの寄付をはじめ多くの方々の協力を得て実現し、私が帰国した平成元年三月には一年生から四年生までの単式化が実現した。平成二年一月の入学式後は六学年までの単式化が実現することになっている。一学年の定員を二十名にしているが定員を越える志願者が来るので仕方なく入学試験をしている。試験のあと校長室で親子面接をするが、最初に「なぜ日本人学校を選ばれましたか」という質問に対し、最も多い答は、「日本人学校に入ると日本語が習えるから」と言うものである。これはオーストラリアの日本語ブームを反映していると思われる。その他、日本文化に接することができる、眼をよくしてもらえ、授業料が安い、一クラスの人数が少ないのでよく教えてもらえる。などの返事が返ってくる。

シドニー日本人学校は国際学級を持っているので現地の感情もよく、社会教育にも開放しているので、日豪交流の場であり日本文化の紹介の場にもなっている。

他の日本人学校にも、現地人の希望があれば入学をさせることを試みられてはと思っている。

一九九七年・香港返還

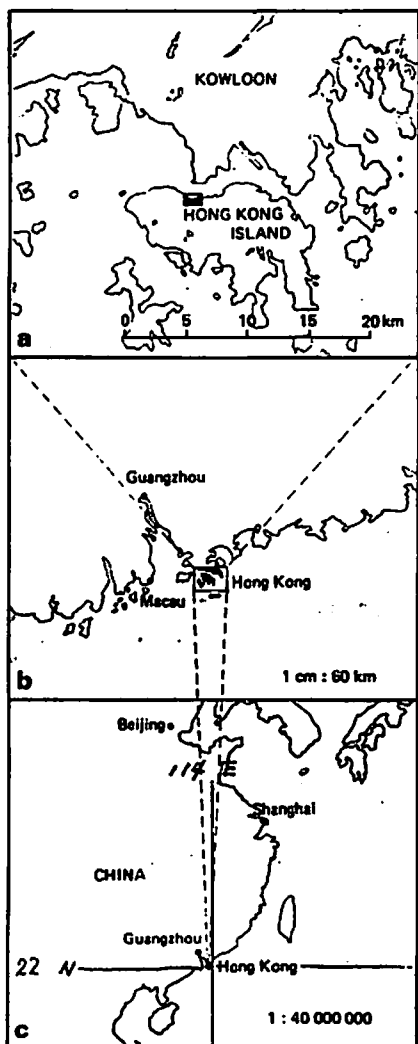
香港日本人学校

岡山市立津島小学校 阿比留

博

一、香港の位置

中国大陸の東南岸、広東省の南部に隣接し（広州から約一四〇キロメートル）中国の珠江河口近くにあり、北緯（二三度）西経（一一四度）に位置している。気候は亜熱

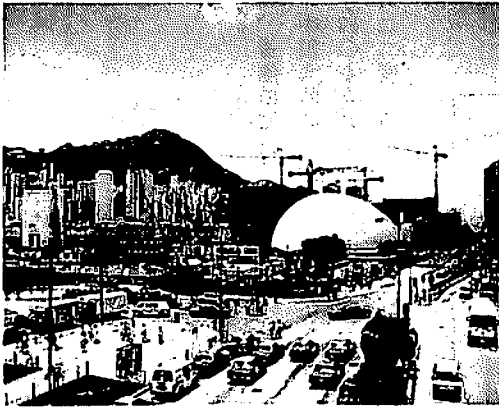


帯モンスーンで夏は長く湿度がとて高く、人口は五五〇万人でほとんどが中国人である。広東語を使用しているが英語も公用語である。在住日本人は一万五千人と膨らんでおり、この二、三年は毎年一〇％の増加で中国本土への拠点としての、重要性を増しているためであろう。

香港を大別すると（香港島と対岸の九龍）そして、中国本土に接する（新界）の二つに分けられる。面積は一〇四六平方キロメートルで東京都二〇二三平方キロメートルの半分、岡山市、倉敷市、玉野市、備前市を合わせた広さである。

香港島・九龍はアヘン戦争を経て、南京条約（一八四二年）北京条約（一八六〇年）により、英国が清朝より割譲を受けたもので、その面積は合わせて、八六・七平方キロメートル、これにたいして、九五九・五平方キロメートルを占める新界は一八九八年七月一日から九九年間、英国に租借されたもので、一九九七年六月三〇日に中国へ、返さなければならない。

このために一九七〇年頃までは、政治、金融、工業の殆んど全てが、香港島、九龍に立地し人口もここに集中した。



このように土地が限られているため、工業も繊維、雑貨、電子などの小規模工業に限られ、また、山や埋立地に乱立する高層住宅など、独特の景観を作っている。中国は建国以来、一貫して、香港、マカオに関する不平等条約を認めてい

現在



一八五八年ごろ



ない。しかし、一九七二年に、英国と中国の間に香港の存在と機能を存続させる合意が成立して以来、香港政府は海底トンネル、地下鉄、道路、新界の工業地帯の建設など、恒久的施設の建設に着手した。日系企業も香港の開発には、戦後から多く参加している。しかし、本年一九八九年六月

の民主化運動での武力衝突によって、香港の未来はどうなるのだろうか。……

二、香港、HONG KONG、ホンコン

香港という地名のおこりは、西暦紀元前、秦の始皇帝の征服以前に南方からこの地へ来たベトナム人と思われる先住者により、九龍並びに、その西部にあるランタオ島に香木が栽培されていたことがあり、この港が香木のかぐわしい香りに満ちたわけで、いつのまにか漢人の移住者によって、香港と呼ばれるようになり、やがて全島が香港（ヒョンコン）と呼ばれるようになったというものでHONG KONGはこれがなまったものである。

また、香は木からでなく、水からだという説がある。香をかぐわしいという意味では同じであるが、飲料水が必要とする船が、出入りしており、そこには、ほとぼしる蘆があり、新しい水を飲んで香りのいい水というところからきたという説。また、香港島で一番高い山「ピーク」は、香炉の形をしているので、香炉峯港と呼んでいたのが香港となったという説である。中でも一番最初の香木からの説が最も有力である。

三、英領香港から中国の特別行政区香港へ

一九九七年にむけ、一九八四年末に中英の共同声明の仮調印が行われ、中国への返還が正式に決定、香港を踏るとき、政治、経済、社会と云う分野にかかわらず、タイムリミットは、一九九七年六月三〇日をもって「英領香港」は幕を閉じ翌日から香港は、「中国の特別行政区香港」として歩むことになる。

政治に関心のない土地といわれてきた香港に、政治論争が繰広げられ、過渡期にはいった香港の一面をものがたっている。本来の香港の象徴ともいえる経済について、基本法案作りのなかで返還後五十年の現体制「一国家二制度」への確認に力を得たかのように、一九八六、八七年の二桁という目覚ましい成長率に続き、その経済は一九八八年も堅実な伸びを示した。

一九八六年一〇月の株暴落の影響や、過去三年間の経済成長の原動力となった輸出の伸びが減速しているにもかかわらず、海外からの投資も順調に増加、昨年度の経済成長率は七％と高いのであるが、労働力不足やインフレの進行などの問題点が残されている。

社会主義中国と資本主義台湾の間に横たわる、地理的存在と、中国の開放政策の進行、台湾の民主化につれて、その橋渡しの性格をより色濃くものとし、これと同時に

一九九七年にむけ、中、香、台という三地域のなかでの香港の位置付けがあらためて認識されている。

四、中国ショック

今年の五月十九日に中国、北京に戒厳令が施行されて以来、香港は中国情勢にはんろうされ続けた。六月四日の武力による民主化運動鎮圧をみて香港住民の将来への不安は高まり民衆の動揺は激しかった。人々は、黒い衣装を身にまとい、プラカードを持ち広場に集まり、中国政府に抗議をした。一九九七年の返還を前に流血を目にした衝撃は計り知れない。「香港特別区」に施行される小憲法とも言うべき香港基本法草案には、中国は香港への非常事態宣言ができるとの条項が含まれている。一九八四年に調印した中英共同宣言では、香港への人民解放軍の駐留ができることになっている。

天安門での惨事が将来香港で起こらないとの保証は何処にもなく、住民の不安を極き立てている。

「香港経済の活力源である自由な経済活動、人権への制約を中国が課するはずがない」との信頼感からあまり問題視されなかった。しかし、この期待は戒厳令施行、武力鎮圧で、もろくも崩れたようだ。

そこで、移民熱は高まる一方である。一九八〇〜八五年

間で毎年二万人前後あり、一九八八年になると五万人の増加で益々膨れている。投資移民や子供の留学による呼び寄せが盛んであり、特に頭脳労働者の流出は香港経済にとって大きな痛手となる。カナダ、アメリカ、オーストラリアが移民先であるが、先ごろ、シンガポールが、移民受け入れ規制を大幅に緩和すると発表したところ、シンガポール領事館に、約二万人の長蛇の行列ができた。

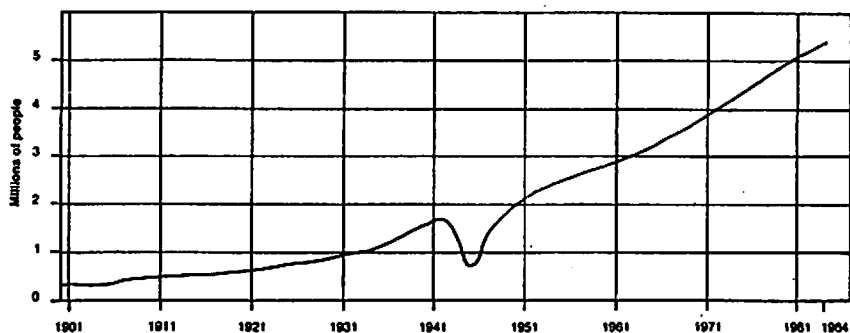
五、経済見通し

中国の政策しだいと、中国の安定が基本である。



日本軍の要塞あと

心理的不安、移民への備えなどから個人消費が落ち込むとの見通しもある。地元企業の投資の冷え込みの可能性、産業の空洞化が懸念されている。しかし、不動産価格が下がっていないのは、今後の香港にとって、



香港の人口推移

好材料と思える。中国は香港に資本主義経済制度の存続を認め協定にサインもしている。しかし、協定があるにもかかわらず、振幅の大きな中国の政策に不安をもつ香港の外国資本や華僑資本は既に今日までにカナダ、オーストラリア、英国、米国などに逃避を完了していると言われている。

六、香港経済が抱える問題

香港経済が抱える問題は、公害、労働力不足（失業率一・六％）、頭脳流失、保護主義、経済成長の鈍化、ベトナム難民（五万人）及び非合法移民の流入（中国から毎年十万人以上が来ているといわれ、八割が捕まり強制送還されている）、四国間関係（英国、中国、香港、台湾）である。

労働力不足にもかかわらず、香港の労働条件は世界最悪といわれ、労働者の年間労働時間は、二六二七時間、一日の労働時間は九・一六時間に及ぶ。ロンドンで一七五四時間、ニューヨークで一八六七時間、東京で二〇一三時間である。労働条件は改善されていない。また労働力不足のため事業活動を縮小しなければならない企業も出てきている。労働力解消のため隣接する中国の深圳市周辺から一時的であるが労働者を香港に受け入れる計画がある。環境問題では、海へ生活廃水や工業廃水の垂れ流し、騒音、大気汚染などによる問題が浮び上がってきている。

七、青山「キャッスルピーク」

九龍半島の西端の屯門に大きなYKKの看板が見える工場の、裏側に「青山」と名乗る山がある。そして、九龍半島を一周するとき、「青山道」がある。

この「青山」に関して、次のようなエピソードがある。

明治二十七年、香港でペストが流行し沢山の人が死んだとき、香港政庁は英本国からのお医者が来るの間に間に合わなかったために、日本から東京帝国大学の青山胤通（あおやま たねみち）博士に来てもらうことにした。

青山博士は、臨床的方面、病理的方面で調査し、細菌学的面から北里柴三郎博士が調査を進め、ともに協力して治療研究に努めていった。青山博士は、この地に伝染病の隔離病院を設けて北里博士と一緒に救済活動を行い、多くの人達の命を救ったと言っているのである。これを記念して、「青山」という地名を残している。

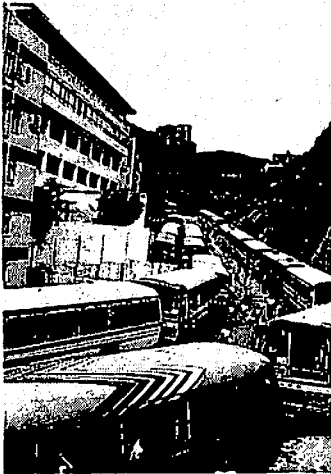
香港は、コレラ、マラリヤ、その他熱帯病ならどんな病気でも研究できるといわれるほど、風土の悪いところであったそうだ。

今日では大変住みよいところとなっているが、当時は樹木の少ない岩山だらけのところだったのである。香港では樹木や草花を大切にしており、勝手に切ったり、取ったりすると、罰金を取られる。また、家の軒下に茶碗の壊れたのが捨ててあって、そのなかに、ほうふらがわいているのを見回りの警官が見付けて罰金を取ったということも、聞いたことがある。路上で唾をはいたり、紙屑を捨てるのも禁じられており、香港政庁も美化・清潔意識の高揚に努めているが、人口が五五〇万人と多くなった今日では、市街

の汚れが大変目に付く。

八、香港生活から

日本より飛行機で三時間あまりの身近な距離となり、岡山からも、チャーター便が飛び、近い将来定期便となる時代となった。香港市街を見ると、林立するビル群、あふれる日本商品や広告、そして、企業進出。ここが外国であることをデパートに入ると忘れてしまう程である。香港で一番驚くことは、住宅費の高さである。日本人学校の近くの三LDKを家具付で借りて、月に二五万円以上もするのである。さらに、年率一〇%以上も上がっているので、家賃の額、治安、生活の便利さなどを考えると、住宅探しには苦勞する。



日本人学校小学部
下校風景

気候は三月から十一月までが長い夏であり、それに加え湿度が八〇%以上の日が続く。洗濯物がなかなか乾かなかったり、洋服ダンスのものにかびがきたり、衣服の管理に気を使う。また、体調のほうも崩しやすく、病院通いをする親子が多く、日本語のできるお医者のところは、いつも満員である。特に水や空気が悪いのか、気管支や腸炎、尿道炎、膀胱炎関係の疾病が多い。

食料品は豊富で、安価であるが、市場の雑然とした様子や、生臭い匂いはきれいな好きの日本人主婦にとつて、不衛生だと、嫌われる面があるが、スーパーマーケットよりほかに新鮮なものが揃っている。朝晩は無許可の屋台が取り締まりの目をくぐって、沢山でて来ており、大勢の買い物客で賑う。行きつけの店ともなると、中国野菜や魚の料理法まで教えてもらえるので、デパートやスーパーマーケットでは味わえない現地理解となる。外国で買い物をする場合、値切り上手は買い物上手といわれる。一度買ったものは他の店で、その値段を聞かないほうがいい。他の店が安く、がっかりすることがよくあるからだ。定価や売値が決まっていないので交渉しだいで大きく違ってくる。

香港での主な行事は、五月五日の端午節（ちまき、ドラゴンボート）、九月の中秋節（月餅＝栗まんじゅうに似ており運のあんのなかに卵の黄身が入っている。提灯）、旧正

月（花市や花火大会）が行われ、香港に限らず、中国全土で行われる。

九 現地小学校

日本の学校以上に受験競争がすごい。なぜなら、香港には大学が、香港大学と中文大学の二つしかない。幼稚園からランクづけされており、落第もある。九年生の義務教育は、六才から十八才までで生徒増により、二部制である。一部は午前八時より十二時半まで、二部は午後一時より六時までで、一時限三五分、宿題はとも多い。英語、中国語、仏語などの語学教育に力を入れている。家庭でも英語の習得のために英語のできるフィリピン人のお手伝いさんを置いて、夫婦共稼ぎが多い。体育や理科は軽く扱っている。

十 香港日本人学校

香港日本人学校の変遷は、明治四〇年までさかのぼり、昭和一二年には、児童数一〇〇〇人となったが、昭和二〇年には戦争のため、廃校となった。香港でも満州事変以降、日本軍の占領下、排日運動が起き人口も減った。戦後六〇年たっても、学校教育のなやかや、マスコミなどによって戦時中のことからを今なお伝えており、反日感情の強い地域

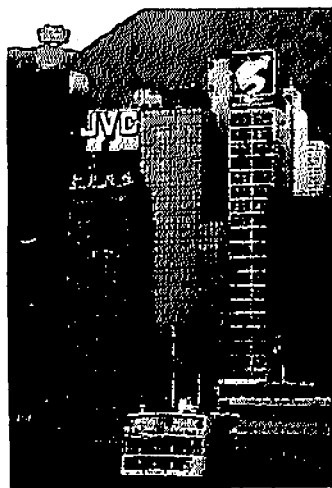
であることを忘れてはならない。

現在、香港の、企業進出にともない日本人学校の児童数は増加の一途をたどり、一七〇〇人を越えた。二〇〇〇年には二〇〇〇人規模の学校をにらみ、昭和六三年から平成元年にかけて、校舎の増築、改築工事を行った。一年中泳げる温水プール、体育館、多目的ホール、視聴覚室、教材室、図書館、衛星放送受信施設など充実してきたが、一人一人の遊び場や、運動場はかなり狭い。新運動場もあるのだが、そこまでは車で片道九〇分近くかかるので、日頃の教育活動では、なかなか利用できない。また、カリキュラムは国内の学校と同じ内容である。



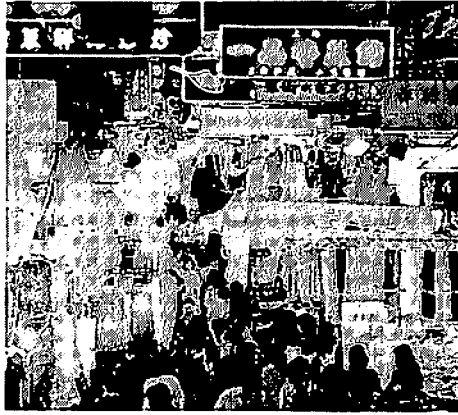
魚市場

転入時や帰国時での心配はないが、開かれた学校という意味で地域にねぎしたカリキュラムの工夫が必要になってくる。香港生れの香港育ちや長期滞在者も増えてきている。一部ではあるが、中国は「遅れている」「貧乏だ」「汚い」「うるさい」といった、蔑視、偏見の見方が、親にも、子供にも見られる。異質なものは排除していきたいのだろうか。そのために、学校として取り組んでいることは現地理解教育である。英会話、交流会、地域の学習、行事の参加なども盛んになってきている。また、学校だけでは不安というのか、学習塾や習字も、日本国内より盛んである。国内の皆と同じ様にやっていると不安で落ち着かないのか、せっかく海外にすることをもっと生かしていくことができるのだろうか。また、私達は自分たちの考えをしっかり



持ち、自分身に
徹しく、
献身的に
生きる姿
を子供たちに見せ
てやらなければな

らない。二一世紀に生きる人間として生きていけるように、一人一人が自分の能力を生かし自分なりに生き甲斐を感じることでできる社会を描くことができるように、愛情と厳しさを持って子供たちにぶつかっていききたいものだ。



たくさんの人でにぎわう夜店

地球は日々、高速化、情報化し、狭く狭くなっているもの、世界には多種多様な価値観や環境をもった人々が、それぞれの社会で生きています。そういう人達と

いやおうなしに接していかなければならない日本の子供たちにとって、人間尊重の精神に基づいた、自他とともに生きる、共存共栄社会を作る人間の育成が大切であると思う。

イランへの旅立ち

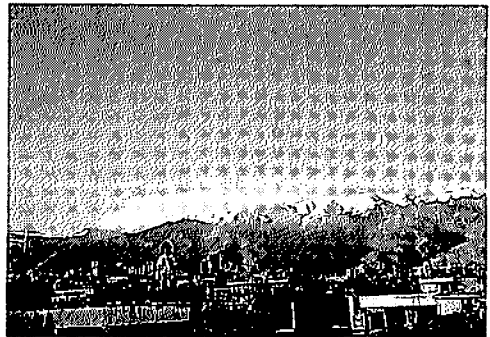
イラン・テヘラン日本人学校

備前市立備前中学校 根葉 健児

「テヘラン日本人学校に赴任がきまった」普段、冗談ばかり言っている私がいじめな顔でこう言った時、妻の目は涙で一杯になった。「あの戦争をやっているイランに本気でいくの」涙、涙、また涙であった。

そこに子供が待っている限り、世界の果てでも行くのが教師の務めだと、嫌がる妻を説得し、まわりの心配をよそに、私は一人で燃えていた。

当時の新聞は、イラン・イラク戦争で花ざかりであった。私達が赴任する前年、イラク空軍はテヘランを空襲。記念すべき第一号ロケット弾が、なんと派遣教員の庭先に落ち、九死に一生を得たのであった。この年四人の教員がテヘランに派遣が決定していたが、全員派遣先を変更させられたのである。私の赴任直前には、イラン軍の大攻勢がかかり、国境線は激戦区となっていた。イランの民間機、フレンド・シップが撃墜され、四十数名死亡という事件も起きていた。

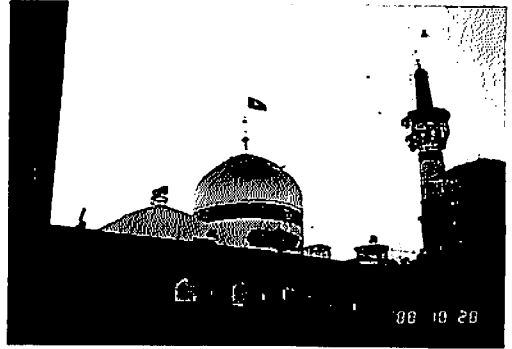


テヘラン市内
(エルブールス山脈をバックに)

まわりの人々の

同情をこめたはげましを背に受けて、私達夫婦はイラン・エアアの機上の人となった。東京発、北京經由テヘラン行き。機内には思いがけず日本人の客が多く、妻は安心した様子でイランの解説書を読んでいた。しか

し、それもつかの間のことであった。北京を飛び立った時、機内には日本人は私と妻だけだった。正確に言うとう、もう一人日本人のステューワーズがいた。彼女はスカーフとコートで身をおおい、他のイラン人ステューワーズと同様のかっこうをしていたので、北京を飛び立つまで私達は気づかなかったのだ。彼女は驚いた様子で私達に近づき、「ひょっとして、テヘランに行かれるのですか。ご旅行ですか」と、私達夫婦の顔を交互に何度も見ながら聞くのであった。「いいえ、仕事で三年間テヘランで過ごす予定なんです



イランのモスク

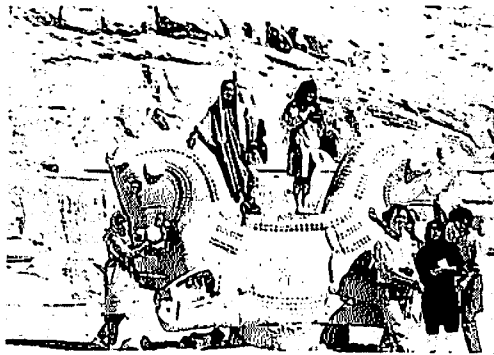
けど……」
「えー、テヘラン
で!？」

彼女は絶句して、
しばらく何も言わ
なかったが、私達
にはそれで十分過
ぎるほど十分であ
った。妻には決定
的であったようで
その後テヘランに
到着するまで泣き
通してあった。

二度目の涙、涙、また涙である。
機内でトイレに行くのもひと苦労であった。なぜなら、
床に人が寝ころんでいるからであり、トイレに入るとペー
パー以下、備えつけの小物は全てなかった。戦争による物
資不足が激しいと聞いてはいたが、ここまでとは思わず、
がく然とした思いになった。

テレラン・メヘラバード空港でパスポートチェック、通
関を終えたのは、我々の機が到着してから四時間を過ぎて
であった。

テヘランは私達が想像していたような街ではなかった。
私達は、戦争で街はがれきの山となっていると思っただ。
しかし、目の前に広がっているのは、美しい街路樹と、整然
とした街なみ。遠くを見れば、エルブール山脈に雪がかか
り、空はコバルト・ブルー。まばゆいばかりの街であった。



ペルセポリスにて

私達夫婦がテヘ
ランに赴任して三
年。その間、多く
の事件が起きた。
テヘラン空襲、ミ
サイル攻撃、日本
人学校休校、日本
人の外国への脱出、
日本への一時避難、
ホメイニ師の病状
悪化、アメリカ軍
によるイラン機撃
墜、イラク軍の化

学爆弾攻撃、そして休職。

そのほとんどを経験した。特にミサイル攻撃を受けた時
は、死を覚悟した。

ミサイルが落下してくるのを、肉眼でも見ることができ

た。落ちた時の大音響と、地震のような地ゆれを、今も忘れることができない。何十発と落ちてくるミサイルの音を聞きながら、日本人学校の地下室で、一週間以上も徹夜の避難が続いたのである。私の髪は、この間に白いものが混じり、今も治らない。



エルブールス山脈の山中
ダマーバンド山(約6000m)

このような苦難にもかかわらず、赴任を終え、日本に帰国する時は涙があふれた。三度目の涙、涙、また涙である。

この涙は、以前のものとは全く異なったものであった。別れの悲しさ、さびしさのそれであった。イランは

本当にすばらしい国であった。イラン人は本当にすばらしい人々であった。インシャーラ(神のみぞ知る)、ファルダ(明日)、エビナダレ(気にするな)の国、イラン。私と妻は心からこの国を愛し、人々とつき合い、そして別

れの日をむかえたのであった。

国際理解の第一歩は、どんな条件があろうとも、それをのりこえて、「それでも好きになる」ことであると確信した。

それでは、私達が赴任したイランとは一体どんな国なのだろうか。テヘラン日本人学校はどんな学校なのだろうか。

それについては次母で述べたいと思います。

子供のための世界の国ぐに

1. ドイツ人氣質-----三宅 正勝
(デュッセルドルフ日本人学校)
2. 続・先生の西洋見聞録-----三宅 詠子
(デュッセルドルフ日本人学校)
3. 子供のためのドイツ歳時記-----高木 直美
(西ドイツデュッセルドルフ日本人学校)
4. アルゼンチンの日系移民の人々-----佐川 慶三
(ブエノス・アイレス日本人学校)
5. Favorite Stories From Asia (Part III) -----井関 繁孝
(インドネシア・ジャカルタ日本人学校)

ドイツ人気質

デュッセルドルフ日本人学校
就実短期大学 三宅 正勝

常にきっぱり自己主張

「私の娘が、ドイツの青年と踊っていました。娘は青年になにか言ったのですが、青年は娘のことばが分からなかったようでした。するとそのドイツ青年は、突然ダンスを止め、フロアーに立ったまま、小型辞書を取り出して、娘の言った言葉を引き始めたのです」。

これは、あるイタリア人が書いている文章ですが、このエピソードには、ドイツ人の性格の一面がよく描かれています。

ドイツ人は、この青年のように、ものごとをあいまいにやり過ごすことができないのです。分からないことは、その場ですぐに追求しようとするのです。

ドイツ人は、会話の中で「なぜ？」とよく言います。

「なぜそうしたのですか？」「なぜそう考えるのですか？」このように、彼らは相手の考えや行いを確かめながら、自分に納得がいくまで問いただしながら、話を進めていくの

です。

そして、自分が話している場合には「私の言っていることが分かりますか」と相手の反応を確かめることがよくあります。日本人のように、あいまいな態度のまま会話を交わすようなことはしません。

また、ドイツ人は「私は」「私が」などと自分を前面に押し出します。小学校の教室でも「私に当てて」とか「それが出来るのは僕だけです」などと、人さし指を突き出した手を挙げているのをよく見かけます。そして自分の考えを堂々とまくしたてています。つまり自己主張が強いのです。私たちの日本人学校では、西ドイツの学校としばしば交歓会を催していましたが、その際、日本の子どもたちは、どうも発言が少なく、発言してもしどろもどろで筋道が通らない話し方をするものが多いのです。

これは、ドイツ語がうまく話せないからではありません。通訳つきの話し合いの場でもどうも日本人の話し方は貧弱なのです。

それに比べ、西ドイツの子どもたちは、われもわれもと指を突きあげて発言し、活発な討論を展開させるのです。

子どもばかりではありません。大人の会議などでも同じことがいえるのです。そして、日本人の場合、会議が終わってから、不平を唱えたり、陰口をきいたりする人がよく

いるものですが、ドイツ人はそういうことをしません。彼らは、公の場で堂々と信ずるところを述べ、グジグジとしゃべり度度は取らないのです。

オセツカイなドイツ人

私は家族とともに西ドイツ国内はもちろんヨーロッパ各国を自分の車でドライブしましたが、一番困ったことは、不慣れた異国の地で、目的地や目標物を捜し当てることでした。そこで何回も道を尋ねなければなりません。すぐ分かる時はいいのですが、聞かれたドイツ人が、うろ覚えで、こちらが差し出した道路地図を片手に考えこんだりしていますと、必ず他の人が話しかけてくるのです。「どうしたのか、どこへ行くのか」ときいた後で「それは、この道を行



卒業の祝い酒でごきげんの大学生

くは、この道を行くのか」ときいた後で「それは、この道を行

って、あそこを曲がり、三キロ走ると……」とていねいに教えてくれます。すると初めの方が「いや、それは違う。こちらの道を行った方が近い。私の記憶では絶対にそうだ」ときっぱり訂正します。

そんなところへ、もう一人が加わることもしばしばで、彼らは「あそこまで一〇キロはない。せいぜい八キロだ。一五分もあれば到着する。いや一〇分でもいい」などと主張し合って、お互いなかなか譲りません。

道を尋ねた私たちにはお構いなし、傍を歩く人の中には、その状況を見て、「やってるやってる」といった風に、私たちに片目をつぶって見せる人もいます。

買物の折などにも、ドイツ人のオセツカイによく出会いました。デパートで小さな品物を物色している私たちの所に、中年のおばさんが、つと寄って来て「ちよっとこちらへいらっしやい」と言うのです。何ごとかと思っ行ってみますと、その人は自分の袋の中から、今私たちが手に取っていた同じ品物をチラッと見せるではありませんか。そして「あの品はこのデパートで買わない方がいいですよ。これはFデパートでは二マルクも安かったんですよ」とささやくように言うと、さっさと歩み去ってしまうのです。

どちらの場合も、善意のオセツカイといえそうですが、無駄な時間を費やしたり、無駄遣いは、自分もしないし、

人にもさせないという、堅実なドイツ人気質が発揮されていて愉快でした。

ガンコなドイツ人

買物もこの程度ですめば、言うことはありません。けれども、テコでも動かないドイツ人のガンコさには、お手上げになることも、よくありました。

日本人学校の理科の授業で「コイの解剖」を取り扱わなければならなかった時のことです。どういうわけか、西ドイツではコイが少なく、なかなか手に入らないのです。そこで私たちは、食用にいくらでも売っているマスで実験を代用することにしました。理科の先生は二人に一匹ずつは配分したいというので、彼と私は、一人の生徒を連れて、買い出しに行つたのです。あるデパートの地下で十数匹のマスを買ひ求め、水を張った三つのバケツにそれらを等分に分けて泳がせ、いざ勘定という段になって、妙なことになつてしまつたのです。

日本の医者が着るような白衣を羽織つた売り場の主任が、「ひとつ聞きたいのですが、皆さんはどうしてこんなに沢山のマスを買つたのですか、いったいどうするのです」と質問しました。そこで、ドイツ語のよくできる生徒がこたえました。

「私たちは理科の授業にマスが必要なのです。ほんとうはコイで実験したいのですが、ドイツではコイが手に入らないので、マスを使って解剖の実験をすることにしたので」するとその白衣のドイツ人は、声も荒々しくこう言つたのです。

「何だって、マスを教室で解剖するんだって、お前のような子どもばかりがこれらのマスを、ナイフで切り刻むといふのか、お前たち日本人は何たることをするのか、いったい日本人は動物愛護の精神を持たないのか」まだまだきついドイツ語が、ガンガン響いてきます。

「私は、動物愛護の立場からいっても、もちろん、宗教上の理由からも、君たちにこれらのマスを一尾たりとも渡すことはできない」

そう言うと彼は、バケツのマスを次々に、元の水槽にぎざぎざと移し返してしまつたのです。ドイツ語のやりとりがさっぱり分からなかつた私には、このドイツ人の態度はまったく理解できませんでした。

「私たちは、ドイツで、日本の勉強に困っているのです。日本にある教材が手に入らず、いつも苦労しているのです。お願いします、私たちの立場も考えて下さい、どうかマスを売って下さい」

私たちは一生懸命に頼みました。しかし、どんなに私たち

が哀れを請おうと、信念を持って一たびナイン（いや）とドイツ人が言ったら、相手が外国人であろうと、特殊な事情があるうと、決してヤー（よろしい）とは言わないのです。

同じような事態が、日本で起こったとしたら、日本人はどうするでしょうか考えてみてください。

しかもこのマスは、食用の魚で、ドイツ人は好んで食膳に載せるのですから、まったく理解に苦しむのです。

こういうガンコさ、自分の意志を押し通そうとするドイツ人の態度は、立派ではありますが、私たちドイツに住む外国人にとっては、はなはだ迷惑なことも、少なくありませんでした。

「郷に入っては郷に従え」というのは日本のことわざですが同じことわざをドイツでは、こう言っています。

「よその国には、また異なった習慣がある」日本の方が命令調で、ドイツの方が、少し柔らかな表現をとっています。しかし現実には、私たちが何かを主張したりちよとした抗議をするたびに、「ここはドイツだ」「それがドイツ方式なのだ」などと、外国人に対して強い態度に出ることがよくありました。

そのたびに私は、「郷に入っては郷に従え」ということわざは、ドイツにこそふさわしいものだと思わずにはい

られません。こうした態度は外国人からもいろいろ指摘されており、一ドイツ人はヨーロッパの田舎者」とか、「おのれに甘く、人に厳しいガンコ者のドイツ人」などとしばしば批判の対象にされています。ドイツ人との交際にかけているある日本の婦人も、

「ドイツ人がいなけりゃ、ドイツってところはほんとに住みよい素敵なところなのにねえ」と慨嘆していたことがあります。



犬をカゴに入れて
運ぶドイツ人

厚い思いやりの心

自己主張、オセッカイ、ガンコと少し批判がましく書いてきましたので、つぎに変わった面からドイツ人気質を探ってみましょう。

ある日、繁華街を歩いていましたら、自転車に乗った子どもたちが、一列に並んでゆっくり走って来ました。それはずいぶん長い列で三十人もいたでしょうか、みんなチリンチリンと一齐にベルを鳴らして行進していくのです。

先頭は先生です。その先生は、一枚のプラカードを手にしています。チラシも配っています。そのチラシにはこう書いてありました。

「皆さん、私の後に続いている子どもたちを見て下さい。三十五人もいるのです。私はこんなに大勢の子どもたちを、一人でめんどろみすることはとてもできません。三十人は責任を持って、お世話します。しかし後の五人については、当局に責任を取ってもらわなくてはなりません。皆さん、一クラス三十人にしたいという私たち教師と子どもたちの願いをどうぞ実現できるように、ご協力願います。」

こういうことは、日本ではとても考えられない発想ですし、決して許されることもない行動です。これは「クライネ・クラッセ」（少人数の教室をノ）という運動の何かを訴えるにも、実証的で、説得力があり、しかも何となくユーモラスな態度には好感がもてます。

また、夏に気温が摂氏二十七度まで上がると西ドイツの学校では、生徒が「ヒツツェフライ」（暑さから解放して）と叫んで暑くて勉強できないと先生に、訴える習慣があり

ます。また先生が休むと、そのクラスは帰ってしまします。

このように、「暑けりゃ勉強にならない」「先生がいなのに、どうして学習できようか」といった割り切り方には、感心させられます。高校段階になるとさすがにそういうことはやりません。ギムナジウムの高学年では、先生が休むと、その時間空いている先生が補欠授業に行くシステムをとっている学校もあります。しかし、休んだ先生は後で、自分の授業を代行、または監督してくれた先生に対して、一時間あたりいくらという割合で、ちゃんとお金を払うこともあります。私たちの学校にいたドイツ人講師も同じようにしていました。

こういうところは、日本とは大いに違います。そのことを彼らに問うと、「なぜ、そんなことをさくのか」「自分の代わりに働いてくれた人に、相当の賃金を支払うのは、当然ではないか」「なぜ、日本人はそうしないのか」と、またまたドイツ人好みのなぜ、なぜ、が始まるのです。私たち日本人は、こういう場合、「お互いさまだから」と言い、礼をしようとしても、「まあ、まあ」と受け取るうとはしません。まして、お金のやりとりなどは、決して行いません。しかし、「あの人はよく休む」とか、「あれだけ迷惑をかけながら、礼もしない」などと、後になってぶつくき言うのです。

ドイツ人の思考や行動は、私たちの眼には一見ドライで卑しいように映りますが、よく考えてみると、人間関係をより円滑に保ち、より長続きさせる方法をわきまえたものだと言うことができます。不快感を上手にさばいた、知恵ある合理主義とも考えられます。

西ドイツに住んでいる日本人は、よく「ドイツ人はガメツくて、ケチだ」と言っています。しかし彼らの側からは、「日本人は見栄っばりで、ぜいたく好み。そのうえ物を大切にせず、いたずらに浪費に走る国民」との意見が圧倒的です。ゴミ収集の人たちも、「日本人のいるアパートはすぐ分かる。いつもゴミが山のように出ているからだ。しかも、ドイツのゴミに比べて、その質が違う。台所の生ゴミがすく多い。まだ食べられる野菜や果物が、ほとんど捨てられている」と話していました。ぶどうはもちろん、みかんやリンゴも皮まで食べてしまい、キャベツなども、シンまで刻んで煮込んでしまうドイツ人に、日本人が批判されるのは、当然だと思いました。

彼らは家の修理、庭や家具の手入れ、道具類の保管など実に計画的で、整理の方法が秩序正しいのです。物を大切にすることにかけは、ドイツ人の右に出る国民はいないような気がしました。

大雪の日、私の娘がソリを欲しがっていると、大家さ

んが、地下室から一台のそりを捜してきてくれました。「このソリは、私の息子が使っていたものです。型は古いが、しっかりしていていいよ」大家のビルケルバッハさんは、にこにこ笑いながらそう言っていて、ソリにロウを塗ってくれています。ビルケルバッハさんの息子さんは、もう四十才を過ぎていますから、それは、三十年以上も昔のソリに違いありません。

私たちは、その時何かを思い知らされました。ドイツ人は、品物を大切に扱うばかりではありません。自然を大事に守り、人間を尊重する精神が、すべての人たちに浸透しているのです。老人をいたわり、親を愛し、隣人を思いやり、子供をいつくしむ——。この精神は、また、日本人が学ぶべきドイツ氣質だとつくづく感じました。

私たちの大家ビルケルバッハさんは、奥さんのエミリーさんと二人だけで住んでおり、三人の息子さんがあります。長男は速くオーストリアで時計店を営み、次男夫婦は先生、三男は電気技師で独身。二人とも三十キロほど離れた町に住んでいます。この次男夫婦と三男とが、週末には必ずビルケルバッハさんを訪ねてくるのです。

この両親訪問は、次男と三男とが隔週ごとに行っていました。その日は、いつも静かな下の部屋から、明るい笑い声が絶えず湧き上がってくるのです。しゅうとめのエミ

リイさんは、「若い者と一緒に住む気にはなれません。年代の違った者同士が、うまくいくはずはないからです」と割りきっていましたが、息子のお嫁さんも、同じ意見で、二人ともさっぱりしたものでした。西ドイツには、一人暮らしの老人が大勢います。しかし政府の保護が行き届いてるので、息子夫婦とは別居している人が多いのです。

相手の領域にあまり立ち入らずに、適当な距離を置いて、円満な人間関係を保ち続ける。それは親子であろうと、兄弟であろうと隣人であろうと変わりはありません。

特に隣人に対する思いやりに胸を打たれることがしばしばでした。

災害地へ送る援助物資、障害児や福祉施設への献金、天災に悩む外国人への支援物資の送付や募金運動などでは市町村が一体になり、国民が絡ぐるみで実に素早く、段取りよく運ばれていきます。たとえば、世界各地で起きるかんばつや、風水害。マスコミ機関がこの報道をするのは、どこの国でも同じことです。しかし、西ドイツでは、テレビがニュースで放送した後直ちに、「救援」を呼びかけます。まず救援物資の送り先や、その方法を知らせます。送金する人のためには、郵便局が全国統一のナンバーで、「救済金申し込み口座」を開設していることが報道されます。

この「お知らせ」は何回もスポットで流され、その都度

合計金額が報告されます。障害児への援助、福祉施設への献金なども日常化されており、幸福な者が不幸な者へ物質や精神を「分け与える」、という基本的な姿勢は心温まる思いがします。

また、死者や先祖に対するドイツ人の敬愛の態度も忘れる訳にはいきません。お墓のことをドイツ語で *Friedhof* Ⅱ フリートホフと言いますが、それは、「安らかに眠る場所」という意味です。西ドイツの墓地は、町のはずれに設けられた緑いっばいの大公園とでも形容できる立派なものです。教会あり、花屋あり、喫茶店もあるという、日本ではとても想像できないような、広大な墓地公園です。

そのフリートホフにある墓石は、いずれも彫刻などがほどこされた、芸術的なものが多く、いつお参りしても、植え込みは美しく手入れされており、新鮮な花が供えられています。これは、教会の帰りにお参りする人が多いのと、そしてもう一つ、宗教的な祭日が多いためです。そこで、日曜日や祭日の午後は盛装した家族連れが花束を抱えて、先祖の霊を祭るために、フリートホフへ出かけていく姿が、どこでも見られます。

この先祖や死者を敬う慣習は、多くの日本人に見られるように、彼岸・盆・法事といって思い出したように行うのではなく、日常の中に溶けこんでいるような気がしました。



小人数なので個人指導が徹底している

て死者は、美しい墓地公園で安らかな眠りについでいます。

「法」を守る国民

最後に、「ままりを守り、決められたとおりに行動する」ドイツ人、そして「規則を破る者に厳しい態度で臨む」ドイツ人について書いていきましょう。

イギリス・フランス・イタリーなど、ヨーロッパ先進国のなかで、最もストライキの回数が少ないのは西ドイツ

普通、ドイツ人の

家庭には仏壇のようなものがないので、こまめにお墓参りをするのかとも思いましたが、こうした精神優先の心は、日本の場合とは少し異なり、生活と密接な関係を保ちながら存在していることが解りました。こうした

す。

これは、労働者と資本家の間で、話し合いがうまくいっていることや、支払われる賃金が、満足すべき額であることも、その理由です。しかし、法律を尊重する国民性にも一因があるようです。学校の先生たちに、「日本では時々、



カーニバルで得意顔の子供

先生がストライキすることがあり、大きな社会問題になりますが、西ドイツではどうか」と質問しても「たいていの先生が「ストライキは法律で禁止されていますから」と、あっさり答えていました。

西ドイツの一般

道路の十字路では、特に決められたサインがない限り、いつでも右側から来る車に優先権があります。そして、道路の幅や交通量で優先道路を決めている場合は優先順位の標識が設けられてあります。ですから優先権のある道路を走

っている車は、たとえ交差点でもスピードをゆるめずに走り抜けて行きます。また、高速道路のインターチェンジなどでも、本線を走っている車は、たとえ進入して来る車があってもブレーキを踏むようなことはせず、「わが道」をすつ飛ばしています。

ところでみなさんは、友だちが大変不都合なことをしたり、乱暴をはたらいた時、次のように言ったことがあるでしょう。

「そんなことをしたら先生に言いつけるわよ」

「先生、〇〇君は、こんなことをしていましたよ」

こういう密告めいた発言をすることは、人間には生来備わっている性質のように思えますが、西ドイツでは、社会生活の中で、「密告」によって、行動を問いただされることがあります。

清潔に、静かに暮らすことをモットーにしている西ドイツでは、アパートなど騒音に対して厳しい規制をしています。いわく、楽器の練習は午前十時から午後九時まで。ただし午後一時から三時までは絶対安静時間。またいわく、誕生会、その他のパーティーで騒ぐときは、前もって近所にことわっておくこと、などなど。このさまりに反して、騒いでいると、警察から電話がかかってきます。近所の誰かが通報したのです。この「警告」を三回受けると、強制

的に引っ越しさせられます。日本人で立ち退かされた家族もあります。

私たち日本人学校でも、朝の会でラジオ体操をしていて、「日本人の子ども達が、早朝から集団で発狂している。先生もその例外ではない」と報告され、警察に駆けつけて来られたことがあります。また、午後の安静時間に体育をしていた際、何回か警察のパトロールカーに注意されたことがあります。こういう場合、直接注意する場合もあります。が、たいてい警察へ電話しているようです。これは、直接注意したり怒鳴りこんだりして、相手と不快な場面を持つことを避け、市民の平和な生活を守る義務のある警察に処置を任せるといふ、西ドイツ式の問題解決法のひとつでもあるのです。

交通違反の摘発もあり、交差点の赤信号を突破して、警察に通報されたり、車線をいたずらに変えたり、急停車をしたりして、「危険ドライバー」としてだれかにチェックされ、後日、ポリスの訪問を受け、相応の罰金を請求されることもあります。この場合、違反を摘発した、いわゆる、「密告者」は、一人、または二人の証人を立てることになっていますが、最近では交通関係の通報は減ってきたそうです。法は尊重して守り、法を犯す者に厳しい態度で臨むドイツの国民性は今後も受け継がれていくことでしょう。

(続) 先生の西洋見聞録

デュッセルドルフ日本人学校

岡山市立高島中学校 三宅 詠子

スメタナ博物館

チェコスロバキアの作曲家といえば、国民楽派の代表的存在といえる、スメタナとドボルザークの名が浮かびます。

チェコはドイツやオーストリア等大国に接しているため、何度も侵略された歴史があります。

特にオーストリア帝国の支配を受けていた時代にはチェコ語を用いることを禁じられ、ドイツ語を学ぶことを強制されました。

公用語として、自分の国の言葉を使うことを許されないという事、それはその国の人々にとってどんなに屈辱的な苦しみか、想像に余りあるものがあります。

やがてその苦しみに打ち勝とうと、国民運動が起り、祖国の文化を守り育てようという気運が高まって来ました。

国民劇場が設立されたのもこの頃です。

彼の作品に「売られた花嫁」というオペラがあります。

これはチェコ語で書かれた最初のオペラであり、スメタナ

の名を不朽のものにした名作ですが、国民劇場にふさわしい内容の作品ともいえます。有名な連作交響詩「我が祖国」も、彼の祖国を愛する情熱から生まれた作品で、六曲から成り立っており、「モルダウ」はその第二番目です。この曲が発表された時、チェコの人々は熱狂的な拍手を送りました。外国の支配を受けた苦痛と、屈辱を思い起こし涙を流しました。そしてそれをのり越えて行く勇氣と力を、この曲から得たのでした。

スメタナは国民的英雄として、チェコの人々から親しまれたばかりでなく、その作品は、世界の人々からも愛されるようになりました。

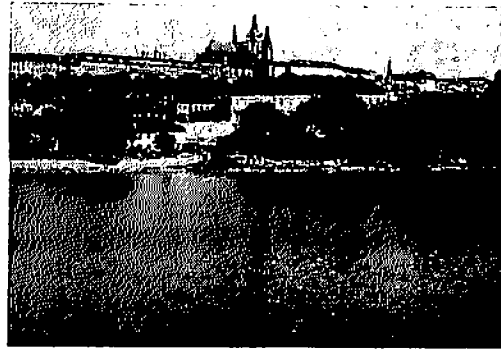
チェコの首都プラハのモルダウ川（チェコ語ではブルタバ川）のほとりに、スメタナ記念館が建っています。この中には、日本で初演したときの「売られた花嫁」のプログラムまで陳列されていてびっくりしてしまいました。

私達家族は、朝開館と同時にこの記念館に入りました。静かな川面がガラス戸を通して見渡せ、さざ波が朝日にキラキラと光り、対岸のお城や、大聖堂の堂々たる建物が、立ちのぼる川霧の中に浮かび上がって見えました。

職員の方が私達のためにレコードをかけてくれたらしく、交響詩「モルダウ」が静かに流れて来ました。

有史以前から流れ続ける川は、その兩岸に住む人々の様

々な姿を、見て来たことでしょう。ある時は建設に汗を流し、またある時は戦いに血を流す人間の生き様を川面に映しながら、ゆったりと流れて行く雄大な川……。



ブルタバ川（モルダウ河）

覚悟が必要でした。

私達も例外ではなく、大きなホテルはどこも満室、夜遅くまでキャンセル待ちをしたのですが、シャンデリアの脚くロビーから、奥へ通してもらう事は出来ませんでした。

車の中で一夜を明かそうと決心しかけたのですが、もう一度だけアタックしてみようと旅行案内所へ入った夫が、

音楽を聞きなが

ら、そんな思いに
ひたったのですが、

その前夜旅人の私
達は、きびしい現
実に直面、寝苦し
い一夜を過ごした
のでした。当時（一
九七四年頃）ブラ
ハでは、ホテルの
絶対量が不足して
おり、予約なしの
旅行者は、野宿の

テント村のある事を聞いて来ました。

ことばが分からなくて、意味が通じなかったのですが、親切な女性職員がテントの絵を書いて、一生懸命教えてくれたそうです。

やっとたどりついたテント村は、もう寝静まっています。

迷惑をかけぬよう足音をしのばせながら、事務所で指定された番号のテントを捜し、借りた毛布にくるまったときには、くたくたで、寒さに身をちぢめたまま、眠りに落ちて行きました。

ブラハといえ、私はいつもあのテント村を思い出すのですが、あれから十数年、今では、宿泊施設も、もっと整っていることでしょう。

グリーグの家

グリーグの「ピアノ協奏曲」を聞いていると、何ともいえない哀愁のこもった雄大さ、心が慰められるようなやさしさ、澄んだ空気のような美しさを感じてしまいます。さてその作曲者グリーグですが、彼は、ノルウェーのベルゲンというところで生まれました。

彼の生家は今どうなっているのか私は知りませんが、グリーグが晩年に住んでいた家は大切に保存され、世界中

から訪れる人が絶えないベルゲンの名所となっています。

この他にここベンゲンには、有名なフィヨルドや、バイキングの活躍の跡など見どころが沢山あります。私は地図の中のみならずにも北にあるベルゲンという街が、そんなに開けた大きな港街であるとは、とても想像できませんでした。

私達はある夏の朝、オスロー駅から急行列車に乗ってベルゲンに向かいました。長い旅でした。山脈を越えて行く列車の速度が遅いせいもあって、まる一日かかってしまいました。

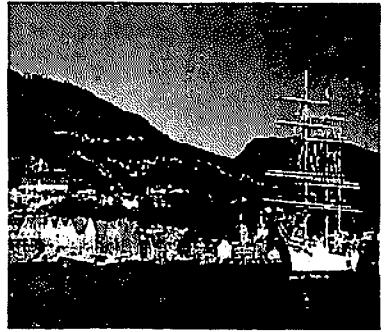
車内では退屈した子供たちが、ノルウェーの子供と仲よくなつて、ゲームをしたり歌を歌ったり、お互いの国のことを披露しあって遊びました。そのうち東洋人の私達が珍しいのか、隣の車両の子供もやって来て遊びに加わり、なかなかにぎやかです。いろんな国の大人や子供が一緒になつて遊ぶ……まさにこれは国際的風景だと私は少なからぬ感動を覚えたものでした。

そこで何か日本的な遊びをと私達が思いついたのが、ピナツをお箸でつまむゲームでした。たまたま持ち合せていたお箸が役に立ちました。日本の美しい「おはし」が人々の手から手に渡って行きました。これは当然のことながら、日本人である私達が一番上手でしたが、外国の人達もちよ

つと練習するとすぐ上手になって、私達がぎこちなくあやつるナイフとフォークぐらいにはなりました。

列車が最高地点にさしかかった頃、「ただ今列車は氷河の上を走っています」という車内放送がありました。窓の外はどちらを向いても一面白い平原です。日本では暑さにくらべている季節というのに、ここにはぞくぞくとするほどの冷気が漂っています。「うわっ、すごい！」車内の人々は、それぞれ自分の国のことばで感嘆の声を上げています。本当にそれは「すごいっ！」の一語に尽きる雄大な景色でした。

やっとベルゲンに到着したのは夕方でした。子供たちは仲よくなつたノルウェーの子供となごりを惜しみながら握手をかわしています。その時、その子のお父さんが、私たちの娘にコインをひとつ握らせてくれました。なんだかとても暖かいものを感じました。ホテルに着いて夕食をとると、散歩に出かけました。これが白夜というものでしょうか、もう九時を回っているというのに、日本の夕方五時頃の感じ。太陽がキラキラ輝いています。まるで時が静止しているかと思えるような静かなひとときです。これが白夜！初めて体験する夜の無い世界です。つくづく遠い国へ来たものだと感じつつ、明るい夜更けの街を歩きました。



生まれた生
グリーグの
ベルゲンの風景

人が集まっています、一台のバスはたちまち満員、私の家族を入れて十人ばかりの人があふれてしまいました。

「グリーグの家見学コース」は諦めて他のコースにしてくれないかとバス会社の人が盛んに説得しますが、みな答えは「ノー」。世界中から「グリーグ詣で」にこんなに多くの人が集まっているとは！……本当に驚きでした。交渉の結果、あふれた客はタクシー二台で運ぶことで折り合が付き、私達家族はその一台に乗せてもらって出発しました。岬の上に建つ白と緑の家、それは芸術家の住まいにふさわしい個性的なものでした。広間には愛用のピアノの他にテーブルや椅子、その他の家具が置かれ、グリーグのこの家での生活がしのべれます。

さて翌日はいよいよ「グリーグの家」の見学です。観光バスに乗ろうとバスターミナルに出掛けました。そこには、この静かな街のどこにこんな大勢の人がいたのかと思う程

テラスから庭に出てみました。視界に入るのは海と小さな島じま。私達の行った日の海はとても穏やかでした。日本の夏と違って海そのものが物思いに沈んでいるように思えたのは、私の旅情のせいかもしれません。



グリーグの家

故郷の瀬戸内海の風景をここにダブらせて、遠い日本を偲びました。一番大きな違いは、何ととっても太陽の光の強さでしょう。あのキラキラした刺激がここにはないとおもいました。

厳しい冬にここを訪れたら、また違った印象を持ったことだろうと思ふのですが、北欧の夏はあのピアノ協奏曲の二楽章のように静かに語りかけているようでした。

庭伝いに海の方へ降りて行くと、そこに質素な小屋があ

ります。窓のガラス越しにアンプライトピアノや机が見えます。このこじんまりした部屋はグリーグの仕事場だったとのこと、かずかずの名曲がこの部屋から生みだされて行ったことでしょう。主のいない部屋はひっそりと寂しさに耐えているようでした。

この仕事場とは反対の方向へ降りて行くと、海のすぐそばの岩をくり抜いてグリーグ夫妻のお墓が作られています。そこで二人がいつも海を眺めているなんてとてもロマンチックだと思いました。私にとってベルゲンへの旅は最初にして最後、もう二度とこの地を訪れることはないだろうと思いつつ、美しいグリーグの家をあとにしたのでした。

ドボルザークを訪ねて

スメタナの後に続いたチェコの作曲家が、ドボルザークです。

若い頃のドボルザークは、スメタナの指押するオーケストラでピアノを弾いていました。

ドボルザークの作品で最も多くの人に親しまれているのは、何といっても彼が、アメリカ滞在中に作った交響曲第九番「新世界から」でしょう。特にその第二楽章の「家路」のメロディは、聞く人の胸に染み入る美しさです。特に物

悲しさを誘う、イングリッシュホルンの哀愁のこもった音色が、オーケストラの豊かなハーモニーと溶け合って、無限の広がりを感じさせてくれます。

芸術家の多くはその私生活において、幸せに恵まれないのですが、伝記などから判断しても、ドボルザークは非常に幸せな作曲家だったように思えます。この人は機関車が大好きで、暇があれば駅へ出掛け、汽車を眺めていたそうです。

「この機関車と私の作品の全てをとりかえてもおしくない」と言う程の熱の入れようだったそうで、自分がいそがしくて駅へ行けない時には、弟子に見に行かせてその様子を聞いた、という有名な話があります。彼の作品「ユーモレスク」は冒頭に機関車の発車して行く様子が描かれている小品ですが、ヨーロッパに鉄道が敷かれて、馬車よりずっと楽に旅行ができるようになったと言う時代の変化と、スラブの民族色とが巧みに織り込まれた名曲だと思います。

この大作曲家ドボルザークの住んでいた家がブラハにあるので訪ねることにしました。地図を頼りに市内を車で走り回ったのですが、見付けることができません。通行人を呼びとめ

「ドボルザークの家を教えてください」

「と頼んでも、「さっぱりいみが通じない」と言う表情で首をかしげ、かたをすくめて行ってしまいます。その時、ハッと思いついたのは、チェコではドボルザークはドボルザークといわないのではないかと言うことでした。

そこで「Dvorak」の通りに「ドウボラック」と発音してきいてみることにしました。

「ドウボラックの家はどこですか」

うれしいことに、その人は意味を理解し、私達を、その家まで案内してくれたのでした。

門を入ると広い庭があり、かなり大きな家でした。案内してくれたのは、とても若い女性で、あらかじめ、私達にどのくらい時間があるかを尋ね、その時間に合わせて、説明の時間を加減してくれているのでした。美しい英語が、よどみなくその口から流れでてくるので、数々の遺品を眺めながら、少しでも多く聞き取ろうと、一生懸命に耳を傾けました。ドボルザークは、愛する女性と結婚し、家庭的にも恵まれた人でした。そのひ孫にあたるヨセフ・スークは、名バイオリニストとして有名です。この岡山へも、朝日高校の創立記念行事に招かれ、来演したことがあります。切符はたちまち売り切れ、買い損なった私は、残念ながらまたの機会を待つしかないと諦めていたところ、思いがけず幸運が舞い込み、スークの演奏に接することができま

した。その演奏は、期待どおり素晴らしいもので、この上なく幸せな気分をあげわけてくれました。かれは、かなり大柄な人で、持っているバイオリンが小さく見えるほどでした。アンコールで何度もステージに呼び戻されているスークの姿に、私はいつの間にかあの髭づらのドボルザークの姿をダブらせて、より深い感動にひたっていました。

子供のためのドイツ歳時記

西ドイツデュッセルドルフ日本人学校
 倉敷市立倉敷西小学校 高木直美

〈はじめに「ドイツという国」〉

西ドイツは、ヨーロッパの中央に位置しています。北はバルト海に接していますが、東、西、南の三方は諸国に囲

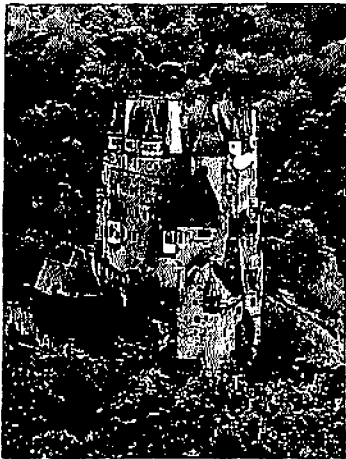


まれ、自然の境界がありません。そのため、昔から、ドイツは、民族、文化、または、経済、社会、文学各分野の交流の地でした。そして同時に、

政治的な争いの地でもありました。様々な国のあり方を交える複雑な歴史の中で、ドイツは豊かな文化、独自の民族性を創り出してきました。

みなさんは、ドイツという何を思い浮かべるでしょう。芸術の都ドイツ。ハイドン、モーツァルト（オーストリア）ベートーベン、シューベルトらの名や、その名曲を知らない人はいないでしょう。また、ハイネやゲーテという作家の名を聞いたことがある人も多いと思います。

メルヘンの国ドイツ。グリム童話や色々な伝説、そして、美しくたずむ古城は、日本ではあまりに有名です。



エルツ城

工業国ドイツ。ドイツは、第二次世界大戦の敗戦から、めざましく立ち直り、経済発展をとげてきた点で日本とよ

く似ていると言われます。最近日本の町でもベンツやBMW、フォルクスワーゲンなどのドイツ車をよく見かけますね。

政治的、社会的な問題をかかえるドイツ。第二次世界大戦後、ドイツが東西二つの国に分けられてしまったことは、みなさんよく知っていることと思います。この二つの国の間には、今も大きな問題が横たわっています。また、日本でも最近、外国人労働者の受け入れをどうするかが大きな社会問題になっていますが、ドイツは、その点でも先進国と言えましょう。

いろいろな顔を持ち、日本とも深いかかわりのあるドイツですが、そのドイツの人々のくらしを、季節の風物や、特徴のある祭りや行事を中心に紹介していきます。

ヘドイツの祭り与人々のくらし

ドイツの春を語るには、まず、長くて厳しい冬について知ってもらわなくてはなりません。首都ボンの一月の平均気温は〇・六度。私が住んでいたデュッセルドルフでは、一日の最低気温が氷点下二〇度以下。最高気温でさえも氷点下の日が何日続きます。寒さにもまして、冬の暗さは格別です。一日の日照時間は短く、冬至のころは、朝八時半を過ぎ、ようやく日が昇り、四時前には、すっかり日が

落ちてしまいます。ですから、ドイツの子も達は、冬の間、毎朝まっ暗なうちに登校しなければなりません。おま



冬の朝の登校風景
—日本人学校の子もたち—

けに、昼間でもどんよりとした天気の日が多く、性格まで暗くなってしまうような気さえます。

春

—オースターン
(復活祭・イースター)—

このイースターは、十字架の上に死んで、三日後によみがえったキリストの復活を記念し、祝うものです。そして、イースターの二日前が、「キリスト受難の聖金曜日」で、これは、キリストがゴルゴダの丘で十字架につけられたことを記念するための休日です。

この二つに代表されるように、ドイツの祝祭日は、一、二の例外をのぞいて、全部キリスト教関係のもです。それほどに、キリスト教がドイツ人の生活の中に根をおろし

ていると言えるでしょう。

イースターが近づくと、街のショーウィンドーにあざやかな色どりのうさぎや卵やかぶと虫などの甲虫カブトムシのチョコレートがあふれんばかりに飾りつけられます。これらは、春と幸福をもたらすゲルマン時代からの風習だそうです。家庭では美しく採色した卵を庭のあちこちに隠し、子供達が捜したり、その卵を木にかざりつけたりします。また、カーテンなどを洗たくしたり、花壇の手入れをしたり、家の中を明るく模様替えし、春がやってきたことを喜びあいます。ドイツ人にとっては、クリスマスと並んで大切な行事なのです。

イースターが終わると、冬の閉塞クローズドなままだった郊外のお城や博物館・遊園地なども一斉に再開されます。暗く閉じこめられていた生活が、一きょに晴れ晴れと活動し始めるのです。

美しい五月

美しい五月

ひかし私が愛したのは

ばら、ゆり、はと、そして太陽。

いまわたしが愛しているのは

小さく、やさしく、きよらかなもの。

ハイネ

それが私の愛の泉。

そして、ばら、ゆり、はと、太陽

美しい五月

すべてのつぼみがひらくとき

私の胸にも

愛の花がさいた。

美しい五月

すべての鳥がうたうとき

私はつけた あの人に

私の愛を

ドイツには、五月の美しさを歌った詩が数多くあります。それほどにドイツの五月の美しさは格別です。ライン河の河原は緑のじゅうたんとなり、羊が群れ、牧場は、たんぼの黄色に埋まります。そして、様々な花が一斉に咲き、はれやかな陽の光が人々を戸外に誘います。このころから初夏にかけてが、ドイツの最も美しい季節です。

夏

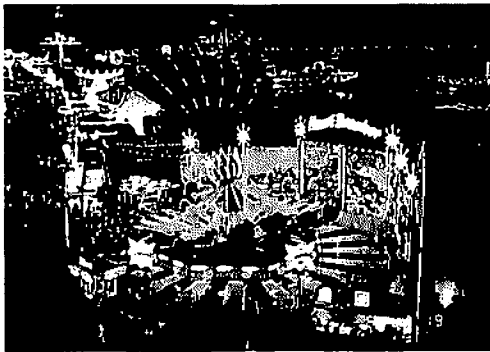
春から夏にかけて、日は一日一日長くなっていき、夏至のころは、夜十時すぎて、やっと日が暮れます。ドイツの人々は、冬の間の閉じ込められた生活からとき放たれ、明るく長い太陽の光をむさぼるように、戸外へと出ていきます。

—キルメス—

夏の到来とともにやってくるのが、キルメス（移動遊園地）です。デュッセルドルフのライン河の河原は、あっと



美しい五月の公園



キルメス

いう間に、夢の遊園地に変身します。

キルメスの設営が始まると、子ども達は、その完成をそわそわと心持ちにします。もちろん、大人たちもその例外ではありません。河原は、明るい照明と大勢の人々の歓声でにぎわいます。スリル満点の乗り物に乗り、楽団の演奏に合わせて歌い、ビールジョッキをかたむけ、夜中まで楽しめます。冬の間でも夏の一日を楽しむのです。

そして、そのキルメスもわずか一週間足らずでとりはられ、もとの静かな河原にもどってしまいます。

—ウアウウップ—

ドイツの人々は、夏に平均三週間程度の休暇をとり、バカンスに出かけます。（ウアラウップ）外国旅行をする人、スペインやイタリアの海辺へ出かける人もいれば、国内の山や海などへキャンピングカーで出かけ

る人も大勢います。日本人の旅行と違う所は、一ヶ所に滞在し、自然の中でゆっくりとした時間、家族の時間を楽しむ点です。おどろいたことに、全国の人々が一斉に休暇をとり、バカンスに出かけると、国中のアウトバーンが渋滞で麻ひしてしまおうというので、各州ごとに、学校の夏休みの開始をずらしています。それほどまでの大移動なのです。



ハイキングする家族
—南ドイツ—

日本でも最近、働きすぎを反省し、休暇をとって、「家庭の日」を作ることが奨励されていますが、ドイツでは、普段の休日も含めて、休暇の過ごし方が定着しているのです。

—伝統的な地方の

祭り—

ドイツ中部の山

あいに、ディンケルスビニールという、中世の面影を残す、小さな町があります。ここでは、毎年七月の中旬に、「キ

ンダーツェヒエ（子供祭り）」が一週間にわたり催されます。市民による時代行列や歴史劇、民族舞踊や、楽隊パレードなど、町をあげてのお祭りです。子供達は、中世の



子供祭り
—ディンケルスビュール—

晴れ着を着て、家族や親せきの声援を受け、主役として活躍します。

このお祭りでは、一七世紀のころのこの町にまつわる言い伝えが再現されています。このころ、ドイツを舞台として、ヨーロッパ全体が宗教上の（カトリックと

プロテスタント）さらには、政治的な対立で争っていました。（三十年戦争）このときディンケルスビュールにも、スウェーデン軍が攻め入ってきました。町が破壊の危機に陥ったとき、子ども達はスウェーデン軍の将軍の前にひざまずいて、慈悲を願いました。その中に、故郷に残してき たわが子によく似た男の子を見つけた将軍は、町の破壊・

占領を思いとどまって去って行ったと伝えられています。以来、子供達が町を救ったことを祝い、この祭りが行われるようになりました。

同じように、市長が敵の大将の目前で、ジョッキに入れたぶどう酒を飲みほして、町を救ったという話が残っているのは、この近くのローテンブルクです。ローテンブルクの市庁舎前では、この話を再現した仕かけ時計が多く、観光客を集めています。ローテンブルクでも夏に市民による歴史野外劇が行われます。

ドイツアルプスの山間にある小さな町オーバーアマガウでも、市民あげての野外劇が演じられます。ただし、これは十年に一度。残念ながら、私がドイツに行った前の年がその年に当たっていたため、観ることはできませんでした。この劇は、一六三二年のペストの襲来から奇跡的に町が助かったことを神に感謝して、演じられています。千人以上の市民・子供が八時間ぶっ通しで出演する大作だそうです。

秋

—オクトーバーフェスト—

南ドイツ・バイエルン地方では、十月に入ると、その年の収穫を祝って、町や村でさかんにお祭りがもよおされま

す。

その中でも盛大なのは、ミュンヘンのオクトーバーフェスト（ビール祭り）です。色美しい山車がミュンヘンの市内をいくつもねり歩き、広場いっぱい、巨大なテント張りのビヤホールが立ちならび、乾杯の大合唱が渦巻きます。同じ頃、モーゼル河、ライン河沿いでは、ぶどうの収穫を祝い、ワイン祭りが行われます。にぎやかなパレードの中で昨年仕込まれた新酒のグラスワインを、地元の人に混じり観光客もかたむけて楽しみます。

どちらも、豊年万作を祝う日本の秋祭りと同じなのです。

冬

—マルチン祭—

十一月十一日、もうすっかり冬の気配のドイツの各地でこの祭りは行われますが、デュッセルドルフのものが特に有名です。

聖マルチンというのは、ローマの軍人から司教となり、崇敬された人ですが、寒い日に自分の着ていたマントを破り、貧しい人に与えたという故事が残されています。それにちなんで、祭りの当日、聖マルチンと従者、貧者が町の広場に登場し、マントを切り渡す儀式が行われます。子供



St. Martin's Festival

マルチン祭



マルチン祭り
—デュッセルドルフ—

ばねて輪にしたものの上に行こうそくを四本立てて飾ります。そして、日曜日ごとに一本ずつ火をともしていき、四本のろうそく全部に明かりがともされて、ついにクリスマスがやってくるのです。子ども達には、この四週間分のアドベントカレンダーがプレゼントされます。よくあるのは、冬の民家の絵を書いたもので、ひとつひとつの窓などに日付けがついていて、それをめくると、裏にチョコレートなどがかくされているものです。その窓を、一日一日めくっては、クリスマスが来るのを指より数えて待つのです。日本に、「もういくつ寝ると、

達は、マルチンが貧者に与えた施し（光）を象徴する手製のちやうちゃんを持って、パレードします。そして、お店の店先や各家の玄関口で大きな声でマルチン祭の歌を歌い、甘いおか

しや、パイプをくわえた人の形をした特製のパンなどをこほうびにもらいます。大きな袋をおかしでいっぱいにした子供たちのかわいらしい歌声が街のあちこちで響いています。マルチン祭の後には虫歯の子が増えるというのは本当でしょうか。

—バイナハテン（クリスマス）—

ドイツのクリスマスは、一年中で一番大切な祝祭日です。クリスマスから逆算して四週間前の日曜日に、アドベント（待降節）が始まります。家庭では、もみの枝を丸くた



市のクリスマスマーケット
— ニュルンベルク —

お正月……』という子供の歌がありますが、ドイツの子ども達がクリスマスを待つ気持ちもこれと同じなのです。一方、大人たちも、クリスマスを心待ちにしながら、準備で忙しくなります。日本でも、お正月前の十二月は師走と呼ばれ、格別忙しいのですが、それと同じです。教会の前の広場などでは、クリスマス用品を売る市（マルクト）が立ち、普段土曜日は、二時に閉まってしまってお店も、アドベントの期間は、六時まで開いていて、買い物客でにぎわいます。

そして、いよいよ十二月二十四日クリスマスイブ、すべての店が閉まり、電車やバスまでも、ぐんと本数がへって、町は静まり返ります。そして人々は、家庭で家族だけで静かにクリスマスを祝います。クリスマスは、ドイツ人に

とっては、日本のお正月と同じように、一番神聖な家庭行事なのです。

それにしてもこの時期、街や村のあちこちの街路樹に、明かりがともされ、家々の窓も明るく飾られているのは、何とも美しいものです。それらは、凍てつく冬空の下に、暖かく輝いています。

— カーニバル（謝肉祭） —

二月の終わりから三月始めにかけて、特にライン河畔の地方では、謝肉祭のもよおしが盛んに行われます。これもキリスト教（カトリック）のお祭りです。南米のリオデジャネイロのカーニバルと、時期も起原も同じですが、北半球のドイツでは、寒さの厳しい中で行われることとなります。

イースターから逆算して、四十日前から、昔は、禁欲生活が始まりました。この間は、肉を食べない、はでにさわがない、子ども達は、甘いおかしをがまんするなど、楽しみを断たなければなりません。そこで、その前に、たらふく食べて、飲んで、さわごうというわけです。

お祭りが絶頂に達するのが、ローゼンモンターク（バラの月曜日）です。その日には、ケルン、マインツ、デュッセルドルフなどでは、大がかりな仮装行列がくり出されます。仮装した人物が山車の上から、



カーニバル

の生活が始まるわけです。もっとも現在では、禁欲のしきたりは、ほとんど残されていません。

二月には、「女たちの木曜日」という日もあります。これは、いわば女性のカーニバルです。今や強くなった女性達ですが、昔は家庭の中で従属的な立場にあったのでしよう。一年に一度、女性たちは、家事を離れて、大さわぎをします。頭にはでなりボンやおどけたかざりをつけた女性達が、男性のネクタイをはさみでバッサリ切って歩くのです。男性の権威の象徴とも言うべきネクタイを切って、女

性のうっぶんを晴らそうと言うのでしょうか。
このように、底ぬけの明るさと無礼講で、寒い冬をふきとばし、来たる春を祝うのです。カーニバルが終わると、待望の春ももうすぐです。

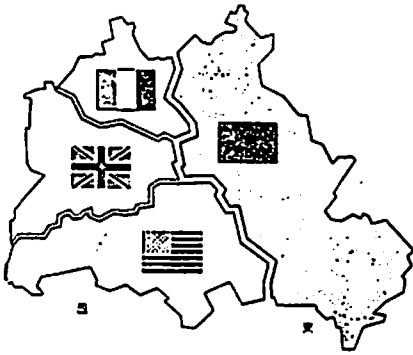
へ二つのドイツ

ドイツを語るには、どうしても避けられない問題があります。それは、東西二つのドイツへの分断の歴史です。その歴史が大きく変わろうとしている今、みなさんもぜひ、いっしょに考えてみてください。

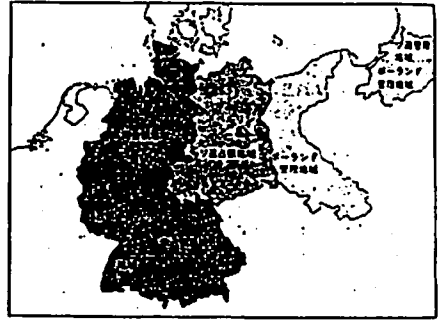
六月十七日は、「ドイツ統一記念日」という、政治的な祝日です。また西ベルリンの中心部に、「六月十七日通り」と名づけられた大通りがあります。この通りの真中には、ベルリン市の象徴「ブランデンブルク門」が立ち、東西ベルリンを分ける「壁」が横たわっています。

では、六月十七日というのは、ドイツ人にとって何を意味するのでしょうか。

第二次世界大戦で、ヒトラーの率いるナチスドイツ（ナチスII 国家社会主義的ドイツ労働党）は、日本、イタリアと同盟を結び、米・ソ・英・仏の連合国と戦い敗れました。その結果、ドイツは、アメリカ・ソ連・イギリス・フランスの四つの国によって四つの占領地域に分割されました。

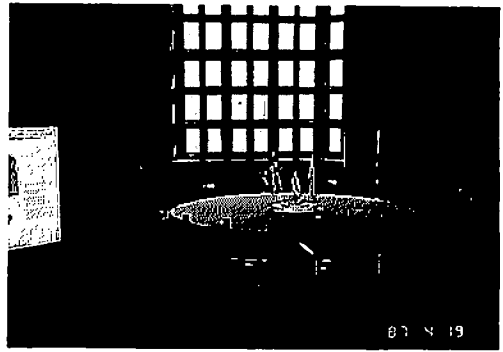


ベルリン



そして首都ベルリンは、その四国に共同管理されることになったのです。それらの敗戦国ドイツに対する取り決めは、ベルリン郊外のポツダムで米英ソの首脳会議によってまとめられ、「ポツダム協定」と呼ばれています。

ところがその後、議会民主主義・資本主義を方針とする西側諸国と、社会主義国家を自差すソ連とは対立し、「冷戦」状態となりました。そして一九四九年、西側



ポツダム会議が行われた部屋

三ヶ国占領地域は、あわせてドイツ連邦共和国(西ドイツ)を成立させ、ソ連の占領地域は、ドイツ民主共和国(東ドイツ)として建国されました。ここに二つのドイツが生まれたのです。そしてその国境は封鎖され、世界でも希に見る障

重な警備がなされるようになったのです。

その後、一九五三年六月十六日、東ベルリンで労働者たちが、政治的な圧迫や苦しい生活に反対して、暴動を起こしました。しかし、ソ連軍の戦車の出動によって、翌日には鎮圧されました。西ドイツは、この日を、ドイツ再統一への願いが、ソ連軍の戦車によって踏みじられた日として受けとめ、「ドイツ統一を思い起こす」記念日としたのです。

一方、東西の対立によって、かつての首都ベルリンは、

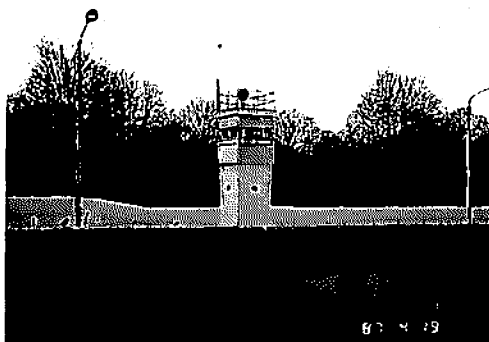


ベルリンの壁
—逃亡に失敗して殺された人の記念碑—

世界でも特殊な都市となりました。一つの都市が二つの国に分けられ、しかも西ベルリンは、東ドイツのどまん中にポツンとある、西ドイツの陸の孤島となったのです。そしてこの西ベルリンをめぐって何度か東西の危機があり、つ

いに一九六一年、東ドイツは、東西ベルリンの境界に壁を築き、すべての交流をシャットアウトしたのです。これが「ベルリンの壁」です。この壁を越え、西側へ逃亡しようとして失敗し、射殺された人々の記念碑が、西側の壁付近に残されています。そして東側の壁の前には、地雷がうめられ、厳しく監視されているところもあったのです。現在、西ベルリンは、西ドイツの一つの州と同じような立場にあります。が、いまだに米英仏の統治を受けています。(一九八九年十月現在)

ところで、みなさんは、西ドイツの首都がどこか知っていますか。それは「ボン」です。ボンは、第二次世界大戦後、西ドイツの首都となりました。当時のボンは、片いなかの小さな町の一つでしかありませんでした。なぜ、そんなところに西ドイツの首都を置いたのでしょうか。それは、いつの日かドイツが再統一されるとき、再び首都をベルリンにもどすために、あえて交通・経済の中心地である大都市フランクフルトではなく、ボンを首都としたと言われているのです。



壁の向こうの東ドイツの監視塔

ドイツ統一への人々の願いがわかるもう一つの例を挙げましょう。西ドイツの憲法にあたるものは、「基本法」といいます。この中に、「全ドイツ国民は、自由な自己決定

で、ドイツの統一と自由を完成するよう要請されている」
「この基本法は、ドイツ国民が、自由な決定で決定した憲法が施行される日に、その効力を失う」と明記されています。「憲法」ではなく、ドイツが統一国家となるまでの仮の基本法だったわけです。

当時のドイツの人々は、ドイツが一つの国として再統一されることを信じていたのです。しかし、二つの国は全く違う道を進んでいき、今や、統一が実施されるのは、問題点も多く、現実的には難しくなっています。でも最近、この二つの国の間の緊張はゆるみ、お互いに友好的に共存していくという姿勢が強くなってきました。しかし、今のところ一つの国へ向けてではなく、あくまで別々の国としての協調です。

おりしも、東ヨーロッパ諸国には、急激に自由化の波が押し寄せ、東ドイツ国内でも、改革への要求が高まってきました。一方では、東ドイツ国民の西ドイツへの大量出国が、今年九月以来歯止めがきかない状態となりました。そしてついに、一九八九年十一月九日、東ドイツは、国民の出国を自由化し、西ドイツの国境は開放されました。ドイツを二つに分断するだけでなく、世界をも二つに分けている対立の象徴だったベルリンの壁は、その建設から二十八年たった今、事実上消滅したのです。壁によじ登り、手を

とりあって喜ぶ両ドイツの人々の姿を、みなさんも、テレビなどで見たことでしょう。壁は所々取りこわされ、十八ヶ所の通過点が作られるということです。でも、そこに国境が横たわっていることには変わりはないのです。二つの国は、これからどう歩んでいくのでしょうか。米ソの「冷たい戦争」の危機が薄れた今、同じ言語を使い、同じ文化を持つ、同民族の二つのドイツの関係は、大きな転期を迎えています。それは、両ドイツだけではなく、全世界の将来をも左右する大きな問題なのです。

〈終わりに〉

ドイツの人々の暮らしは、厳しくて暗い冬と、春を待ちわびる人々の気持ち抜きでは考えられません。そして、ドイツの人々の生活の根底にあるのは、キリスト教の思想であり、民族の歴史を大切にする一方で、それと厳しく向き合う心です。

ドイツの社会も、急激な進歩の中で、日本と同じように多くの問題をかかえています。でも、自然の恵みを享受し、先人の歴史や遺産を大切にするドイツの人たちの暮らしは、物やお金の豊かさばかりを追いがちな私たちの生活を見直させてくれるのではないのでしょうか。

そして、二十一世紀に生きるみなさんには、今、大きく

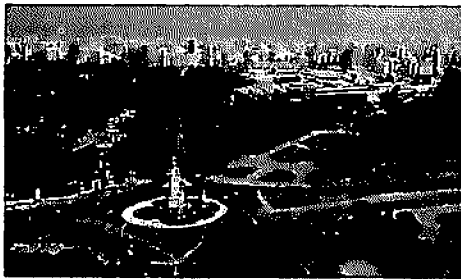
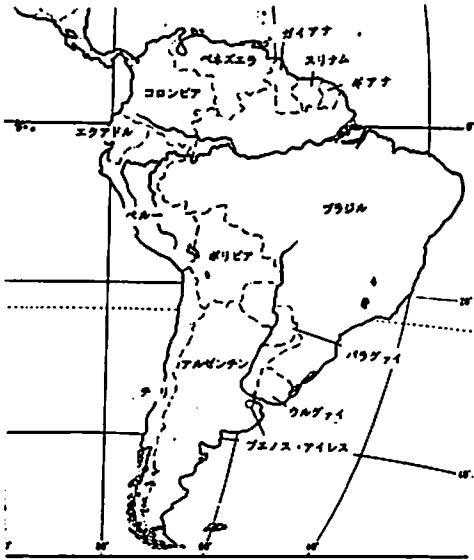
世界史を動かそうとしているドイツのゆくえ、そして世界の動きを見つめていて、ほしいと願っています。

アルゼンチン日系 移民の人々

ブエノス・アイレス日本人学校
倉敷市立琴浦中学校 佐川慶三

広大な国土のアルゼンチン

アルゼンチンは、日本とほぼ地球の正反対の位置にあるために季節や昼夜が日本とは逆になっています。国土は日



ブエノス・アイレス市内

本の約七倍あり、人口は約三千万人です。首都のブエノス・アイレス市付近に人口が集中しているため、いなかを自動車で一時間走り続けても一度も人に出会わないこともしばしばです。一つの牧場の端から端までが、何十キロもある広大さには、ただ驚くばかりです。また、工場の機械化も進みつつあり、今後おおいに発展する国でもあります。

サッカー好きの人なら、マラドーナ選手の名前を聞いたことがあるでしょう。アルゼンチンの英雄的存在であり、彼の家族や家の様子がしばしばテレビに写し出されています。

街中のいたる所で、大人も子供も、昼も夜もボールをけて遊んでいるのを見かけます。

また、スポーツクラブでは、サッカー・コートが十面以上ならんでおりさすがはサッカー王国だと思えました。



公園でサッカー
(ブエノス・アイレス市内)



どこまでも続く直線道路
(アルゼンチン北部で)

南米移民の

草分け

牧野金蔵氏

さて、アルゼンチンは、移民の国であり、スペインイタリヤを中心としたヨーロッパからの移住者の子孫がそのほとんどをしめています。

日本から、アルゼンチンに夢をいだいて移民した人々も数多くおり、今では、二世三世を含めると約四万人になります。

南米各国のうち日本人がもっとも多く住んでいる国はブラジルで、約

百万もの日系人が社会の各分野で活躍中です。



イギリスから贈られた
独立記念塔
(ブエノス・アイレス市内)

イギリス商船の乗組員となり世界の港から港に航海を続けていた牧野金蔵という青年が、永住の地を求めて、「世界で一番住み心地のよい国はアルゼンチンだ」と決めて、ブエノス・アイレス市に上陸したのは一八八六年のことでした。そして、彼は鉄道の機関士として三十年以上働き、現地の女性と結婚し、四人の子供に恵まれ幸せな人生を送り七十歳でその生涯を閉じられました。この牧野氏こそが南米に移り住んだ最初の日本人だったのです。

一九〇八年、日本からブラジルに向けて移民する七百八十一名を乗せた笠戸丸が出航しました。この人々は、移民会社と契約を結んでおり、ブラジルに着くとすぐに耕地を

手に入れることができたのです。

しかし、その当時、アルゼンチンには、移民会社のようなものではなく、ある家族は、イギリス船によって渡って来たり、または、ブラジルやペルーから密航して来たりとさまざまでした。



ブエノス・アイレス港

生死と直面した

開墾作業

今から約六十年前、十五歳の時に両親に連れられて日本から移民して来たというAさんと親しくなり、家族ぐるみで交際しました。

A少年の両親は、九州で農業をやっていましたが、広大な土地のある南米で大農場を経営する夢を持っていました。そこで一大決心をして、田畑や家を売って資金づくりをしたのです。すでに移住していた知り合いを頼って、子供三人を連れ、はるばるアルゼンチンに行こうと決意したのでした。



タンゴ発祥の地 ボカ

不自由なく暮していけるのに……」と思うようになりました。

そして、いよいよ日本を出発する日がやって来ました。乗り込んだ汽船が、横浜港岸壁を離れ、見送りの人々の姿が豆つぶぐらいになっても、だれ一人として甲板から立ち去ろうとはしませんでした。もう二度と日本の国土を見ることがないかもしれないと思うと、A少年は涙がとまりませんでした。

A少年は、父からこの話を聞かされた時は、まるで旅行にでも出かけるかのようになわくわくする気持ちでいっぱいでした。しかし、それもつかの間、出発の日がしだいに近づいて、希望は大きな不安に変わり、「日本で、このまま農業を続けていても、何



スイカやメロンは、いかが？
 (ブエノス・アイレス市郊外で)

近くには店などあるはずがなく、週に一度、日本人が日用品、衣類、食料品などを行商に来ますが、できるだけ節約しなければなりません。日本から持って来たお金は、土地を購入したので少なくなりイモやマテ茶をわずかな畑で栽培して売り、生計を立てようとしていた。だが、せっかく汗

あったのですが、毎日の激しくてつらい作業に何度も根をあげそうになりました。先輩の移住者の中には、開墾地にマテ茶を植え、それを出荷してかなりの利益をあげている人もおり、それに追い付こうと努力したのです。本当に自給自足の生活です。主食は、豆、イモ、玉ねぎがほとんどで米のご飯などはとても食べられませんでした。正月に隣の人からもらったモチは、食べるのがもったいなくて何日も飾っていたほどです。

水流して育てた作物が無残にも収穫直前に台風にやられてしまったり、害虫に荒されたりとさんざんな目にもあいました。

そんな中で唯一の心がなごむ時は、ドラムカンで作った風呂に入って、まるで降って来そうな星空を見上げる時でした。

粗末な掘っ立て小屋の中では、親子が毛布にくるまり、身体を寄せ合って寝ました。日中は四十度にもなる暑さも日が沈むと気温は急激に下り、寒さが襲って来ます。

夜中には、けものの遠吠えが不気味にひびき、暗やみの中から今にも、丸太ん棒ほどもある大蛇が、によっと姿を現しはしないかと不安におびえました。弟たちは、一人で戸外に小便にも出て行けないほど怖がりました。ランプと



民族楽器のチャランゴ



夕方、公園でチェスに熱中する老人たち
(ブエノス・アイレス市内)

ろうそくのありがたみをつくづく感じました。まして電灯は、あろうはずありません。水道もなく、井戸水を運ぶのは、子供の仕事でした。近くの家から、母子のすすり泣きの声が聞こえてくる夜もあり、それを聞くとA少年もつらくなってきました。

外国に住んでいるといっても、日本語ではほとんど意味が通じたため、スペイン語はなかなか上達しませんでした。そこは、アルゼンチンの中の日本人村といった感じで、現地の人に出会うことは少なかったのです。

当時九歳だった末の弟は、栄養不良と高熱とで医者に診てもらったこともなく死んでいきました。葬式も出さず、母はショックで数日起き上がることができませんでした。

生活の苦しさに
「子供心に何度日

本へ帰ろうと思ったことか、また、親をうらむ気持ちさえわいてきた」と当時を思い返してAさんは語ってくれました。



戸外で焼き肉

移住して十年後にはAさんは一家のあるじとして、苦勞に苦勞を重ねて開墾した土地にマテ茶園とその摘み取った青葉の乾燥工場を設け、十人もの人をやとうまでになりました。今、りっぱなプールやテニスコート付きの家に住み、孫の成長に目を細めているAさんは辛せそのものです。

しかし一方では、仕事がうまくいかず、失望して日本に帰って行った人達、家族が別れ別れになった人達も大勢いたのです。

参考文献

「アルゼンチン同胞八十年史」

著者 賀集 九平 発行所 六興出版

Favorite Stories From Asia (Part III)

インドネシア・ジャカルタ日本人学校

岡山県総合文化センター国際課 井 関 繁 孝

7 Belong

INDONESIA (Bali)

In a village in Bali there once lived a silly but happy boy called belong. Belong means foolish in Balinese, and Belong was well known all around his village because of the foolish things he was always doing.

One day, Belong's mother dropped her last box of matches into a pot. The matches got wet and would not light. She needed new matches to light the fire for her breakfast, so she called out to her son and said, "Belong, please go to the shop and buy some matches. I cannot light the fire to cook our breakfast."

She gave Belong some money and said, "You must buy matches."

So Belong took the coins for the matches from his mother, and happily walked to the village shop. Then he bought a box of matches.

When he was outside the shop, he opened the box and looked inside. "They look like good matches to me," he thought.

"But how can I be certain? I'd better try one." Belong took out one of the matches and struck it. It caught fire easily.

"Oh, that match is all right," he said. "But what

about the others?" he said. "So Belong took out all the matches one by one and lighted them to see that they were good.

"This is a good box of matches," Belong said to himself.

Then he returned home.

"Mother," said Belong, "I bought a good box of matches. They all work. I tested all of them!" Then Belong handed him mother the box of used matches. His poor mother!

What could she say?

次の文章を完成しなさい。(英語で)

- (A) In Balinese "Belong" means ().
- (B) One day, Belong's mother found that her() were wet.
- (C) Belong went to the () to buy a box of matches.
- (D) Belong () the matches to see that they were good.
- (E) Belong handed his mother the box of ().



TAILAND

Many years ago, rabbits had long tail, and crocodiles had tongues. One long-tailed rabbit lived near a lake. He drank water from the lake. Now, in the lake lived a crocodile. The crocodile saw a rabbit drinking water, and he thought how nice it would be to eat the rabbit.

One day, the crocodile swam very slowly. He was still in the water, hoping that the rabbit wouldn't see him. When the rabbit came to drink, the crocodile opened his mouth. The rabbit was caught between the crocodile's sharp teeth! Of course, the rabbit was very frightened, but he didn't want the crocodile to know this.

"I'm not afraid of you," said the rabbit.

"I'm only afraid of animals that roar. Everyone knows that crocodiles can't roar, so you can't frighten me."

When the crocodile heard this, he became very angry. He wanted to show the rabbit that he could roar. And so, the crocodile opened his mouth to roar. When the crocodile opened his mouth, the good rabbit jumped free. As he jumped, the rabbit's sharp hands caught the crocodile's tongue.

The crocodile tried to catch the rabbit again, but the rabbit was too quick for him. The crocodile could only catch a piece of the rabbit's tail. That is why rabbits today have short tails, and crocodiles have no tongues.

適当な答を選んで、○をしなさい。

(A) What did the crocodile want to eat?

1. the tongue
2. the tail
3. the rabbit

(B) What kind of tail does the rabbit have now?

1. long
2. short
3. sharp

(C) What did the crocodile lose?

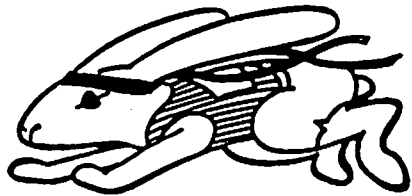
1. his life
2. his teeth
3. his tongue

(D) Why did the rabbit go to the lake?

1. to eat the tongue
2. to eat the meat
3. to drink water

(E) Why did the crocodile open his mouth?

1. to catch the rabbit
2. to roar
3. to drink the water



9 The Monkey's Judgement

KOREA

One day, a dog and a fox were quarrelling over a piece of meat. The dog said, "Let me eat it!"

The fox answered, "No, it belongs to me." They went to ask their friend, Mr. Monkey, to decide the matter for them.

The monkey said, "I will divide the meat into two pieces and give you one each." He took a pair of scales and a kitchen knife. He cut the meat into two pieces and weighed each of them on the scales.

One was heavier than the other. He ate a piece from the heavier one, and weighed the two pieces again. This time, the other one was heavier. He then ate a piece from that one, and weighed the two pieces. Once again, one piece was heavier than the other. He went on like this, weighing and eating, until all the meat was finished.

"If we'd only known this," the dog said to the fox, "We would never have asked the monkey to be the judge."

英文を聞いて、空欄にあてはまることばを日本語で書きなさい。

ある日、犬と狐が一片の肉をとりあいしていました。「それは私が食べる。」と犬がいうと、狐は「それは私のものだ。」といました。そこで二人は（1.

）にその分けかたをまかすことにしました。

彼は、その肉を同じように分けるために（2. ）と（3. ）
を使いました。

二つに分けた肉をみるとどうも同じ重さになりません。そのたびに（4.
 ）の肉をすこしづつ食べました。なんかいもはかっているうちにとう
とう（5. ）食べてしまいました。

「こんなことなら彼に分けかたをまかすのではなかった。」と犬は狐にいいました。



国際色豊かな教職員

— 現地への適応 —

シドニー日本人学校 赤木 寛

シドニー日本人学校には四十七人の教職員がいる。その内二十四名が派遣教員で、二十三名が現地採用の教職員で、多民族国家になりつつあるオーストラリアの縮図の如く、いろいろな国の人が勤務している。在学する子供の方も日本人学級と国際学級があるが、教職員の方も国際色豊かである。このような学校であることを筑波の派遣教員内定研修会で聞かされ、うまく適応できるだろうか、と、誰しも一抹の不安と期待の複雑な心境で赴任してきたと思う。

オーストラリアは治安も、対日感情もよくシドニーは気候は申し分なく、比較的異和感のない所である。私の知っている限り、現地に不適応になった者は三年間にはいなかった。新しく赴任する者にとって最も有難い、そして世話になる存在は幹事である。シドニー日本人学校の派遣教員で二年目の者がその任に当る。実際の幹事の事は赴任一年目の二学期からはじまる。先ず筑波研修会に、東京学芸大学海外子女教育センターが制作上映されるビデオの写



シドニー日本人学校の教職員

真と学校紹介の原稿を作らねばならぬ。次に赴任の手引を毎年改訂して新しい内容のものにして研修会に間に合うように文部省へ送ることである。この赴任の手引が大変役立つのを今でもよく覚えていた。

次に幹事の大切な仕事は自動車運転免許が取れるように世話をすることである。実は、オーストラリアは国際運転免許は、現地に滞在して働く者には通用しなくて、試験場に行つて法規の試験を受けなくてはならぬ。英語で二十問出題され、十七問以上正解でないと合格しない。合格したら日本の免許証とその英訳文書を提示して料金を納めれば、免許証が貰え、その日から運転できる。このようになっていたので、幹事は赴任して来る予定の教員がまだ日本にいる時に資料を送り、勉強の機会を与えるのである。資料を貰った方は赴任前の多忙を極めていた時なのでなかなか勉強する時間が取れないのが実情であるが、英語で出題されるとあって、果して理解できるだろうかと何時も気になっている。毎年四月十日頃赴任し、四月末が受験であるから二十日間は仕事の余暇を見つけて必死になって勉強するのである。幹事の中で免許の係になった教師は、資料を配布したり、模擬テストもしてくれる。殆んどのが一日の受験で合格するが、再試験を二〜三週間後に受ける者もいる。特に最近では口答試験も加わって一層難しくなったようである。

る。新任者が免許を取得し、自動車を購入するまで、幹事は朝夕送り迎えをしなくてはならないのである。オーストラリアも車社会であり、学校が交通の不便な所にあるので、自家用車を持つことは必要条件である。

次に幹事の大きな仕事は、新任教員が入る住宅を借りて、赴任したら直ぐ入居できるようにしておくことである。シドニーは最近住宅難と、家賃の高騰に悩まされている。文部省から頂く住宅手当だけでは不足するので殆んどのが余分の負担を支出している。赴任して来る者の住宅手当と、家族構成に合った住宅探しは幹事にとっては大変な仕事であるが、現地採用事務職員の手も借りて四月の赴任日までにはお膳立てをし、その上、冷蔵庫の中には一週間分の食料を入れ、炊事道具一式を用意しておくのである。誠に有難いことであり、学校の即戦力にならない新任者にとっては、安心して働ける条件が確保されているのである。

毎年行われている四月中旬の日本人会主催のソフトボール大会の世話、五月頃行われる学校の家族ピクニック、帰国前の先輩教員の世話など、年間を通じて沢山の幹事の仕事がある。シドニー校はこの幹事制度で、先輩と後輩の絆ができて思うように思う。そして、未知の土地に赴任する者が、現地への適応をスムーズにしている原因になっている。

るように思うのである。

次に、派遣教員が困るのが言葉の問題である。オーストラリアの母国語である英語の問題である。この試験の最初が前述の運転免許試験である。そして毎日の仕事にも、市民としての生活にも英語が必要である。とりわけシドニー日本人学校には国際学級があるので英語でなければ分らない子供も沢山いる。そして、二十三名の現地採用者の中、日本人以外は日本語が殆んど理解できない。交流学習を担当する教員は英語を使わなければならぬ。すべての行事は日英両語で行わねばならぬ。職員室のその日の行事予定も両国語の併記である。そのため、英語力のある教員程現地への適応が早い。年令構成から言うと若い教員程英語力は早く身につける。日本の英語教育は受験英語で、すぐ役に立たないとよく言われるが、若い教師は説解力を持っているし、そう言う教師は英会話も上達が早い。

英語は日常必要であるし、英語圏に来たのを機会に、この際勉強しておくと言う者もあって、いろいろな方法で勉強している。その中の一つは、国際学級の保護者がボランティアで一週一回一年間、英会話を教えてくれることである。英語を教える専門家でないから教え方には上手、下手があるように思うが、一年間続けると耳が慣れてくることは確かである。よく勉強する者は在任中に英検二級を取

得する者もいる。会話にも慣れると、国際学級の教師を相手によく話ができるようになる。つまり、英会話の力によって現地への適応は大きな差があるし、生活の豊かさも差ができてくる。私は、国際理解の原動力は語学力であると思っている。

次に、現地採用教職員についてのべよう。事務部に日本女性三名いるが、いずれも国際結婚をしている日英両語のできる者である。中でも校長秘書をしている女性はベテランであり、私の通訳は殆んどやってくれたし、スピーチの原稿も作ってくれた。この人のお陰で、私は校長としての仕事ができたと感謝している。もう一人の会計係をしている日本女性も勤務時間を越えて、大変よくやってくれた。国際学級の教員五名は男性一名、女性四名で全員オーストラリア人である。五名の中、四名までが、私の在任中の採用である。多数の応募者の中から選んでいるので皆ベテラン揃いで、立派な教師である。経験豊富な教師であるから子供の扱いにも慣れており、適応が早い。

現地英語の講師六名は全員女性で、四人までが私の任期中の採用である。日本人一人、オーストラリア人四人、ギリシヤ人一人と言う構成である。これらの講師は一日六時間の時間講師なので朝夕が不在だから、諸連絡に困っていた。そのため、私の在任三年目から主任の日本女性を八時

間勤務の常勤にしたところ、朝夕の連絡や職員会議への主任の出席もスムーズにいくようになった。

バスのドライバーは三人で、一人はドイツ人女性で開校以来二十年間勤めているベテランドライバーである。日本人学校を愛し、仕事が好きで、堅実な生活をしている。大きなセパード犬を飼いながら、校地内にある学校の住宅に住んでいる。一年に一回ドイツに帰るのを非常に楽しみにしている。他の一人はオーストラリア人で校舎管理の仕事もし、もう一人はニュージーランド人で造園の仕事も兼ねている。スクールバスは朝七時過ぎには学校を出発するのでドライバーの仕事も大変だが、皆よくやってくれている。現地採用者は、前述のように新採用者が多いと言うことは、それだけ移動が多いことである。日本人と比べて現地の人は労働に対する考えが異なり、比較的簡単に職場を變っていく。日本人学校の場合、欠員を生じたら校長の責任に於いて補充しなければならぬ。求人広告を新聞に出し、応募者と面接して選考する。一人の募集に対して、二十人位は応募者があるので、かなり優秀な人材を採用することができる。しかし、一度苦い経験をしたことがある。それはドライバーの募集をした時に十人ばかりの応募者の中から面接の結果一人に決定して、本人も受諾して帰りながら翌日、他に給料のよい所があるので日本人学校はお断りする

と言って電話して来たのである。その時には、すでに他の応募者には不合格の連絡をしていたのでお手あげである。全く困ってしまったが、仕方なく急きよ再募集をした。欠員中は民間の借上バスを運行しなければならなかった。

日本国内の公立校では、教職員の採用は、教育委員会がしてくれ、配置してくれるので苦労はないが、海外にある日本人学校ではどの学校でも現地採用者の人事管理に苦労しておられると推察する。これは日本人学校の宿命であると思う。

中国の歴史をどう見るか

日本と中国の歴史教科書を比較して

(第一部)

北京日本人学校

岡山市立加茂小学校 黒田 忠男

(はじめに)

中国の初中級学校(日本の中学校に当たる)で使用する「中国歴史」教科書を使用して、日本の教科書の記述内容と比較しながら、中国人が自国の歴史をどのように把握し、次世代に生きる子どもたちにどのように歴史を伝え教えているかについて考察することを試みたい。

日中戦争が日本による「進出」か「侵略」かで、アジア各国から激しい非難を受けたことはまた記憶に新しい。中国人は自分の国の歴史をどうとらえているのであろうか。

中国人による「中国歴史」を研究することは、中国人の世界観を知ることに通じ、それはまた現在の中国について理解を深める一つの鍵にもなるであろう。

私たち日本人は遠い昔から中国文化の影響を大きく受けてきた。中国の歴史は日本人の思想文化の形成に深くかか

わってきた。日本は中国を知ることによって世界につながっていた時代もあった。明治以後は急速に欧米文化に接触し摂取したことにより科学技術は飛躍的に発展したけれども、精神文化の面では東洋思想を深く受け継いできている。

日本人にとって中国の歴史と文化は、いわば精神的な故郷でもあるわけであるが、一方で中国人の思想はいつまでも元のままではない。中国は自分たちの民族の歴史を見直し再評価しながら、新しい時代に合った歴史観と価値観を位置づけるべく努めている。したがって私たちも、これまでに身につけてきた東洋史観を再構築しなければならなくなってきているのではなからうか。そういう意味で、日本で教えている中国の歴史と中国人の手になる中国の歴史を比較してみることは必要な作業であると思う。

使用するテキスト

「中国歴史」 人民歴史出版社

「詳説世界史」 山川出版社

日本の教科書として高校用世界史教科書「詳説世界史」を使用したのがこれは内容的に中国の中学校歴史教科書の記述に相当すると考えたためである。

(一) 先史時代をどうとらえるか

中国の初中級教科書「中国歴史」(以下「中国歴史」と

記す』は、「労働が人間を生み出した」というマルクス主義の歴史観で展開されている。

北京原人の骨格の研究から、「労働↓手の発達↓後足による直立と頭脳の発達↓道具の使用(人間と動物との区別)↓火の使用↓共同生活(原始人群)↓言語の発達」という流れを示し、「労働」こそが人類を発達させた原動力であると説いている。

日本の高校用教科書「世界史」山川出版社(以下「世界史」と記す)には、「猿人、原人、打製石器、火の使用、言語の発達、洞穴美術、祭司」などの発展の事実を列記して、文化的な価値に重点を置いているが、いわゆる労働価値説はとっていない。日本では一つの歴史観をもってることが教科書としては適切でないということであろうが、それはまた歴史を教授する教師の考えによって歴史に対する見方も違ってくるとも言えるであろう。

「中国歴史」では、氏族社会として「山頂洞人」(北京周口店)の社会が、労働経験の積み重ねによって、骨器・衣服・人工採火などの技術をもたらしたとしている。また、西安郊外で発見された半坡遺跡や浙江省で発見された河姆渡遺跡の研究から母系氏族社会が成立していたことを説明し、原始農業牧畜の起りや土器の使用、埋葬の状況から、これらの社会が差別のない平等社会であったことを説明し

ている。

ついで、大汶口文化を父系氏族社会の例としてとりあげ、ここでは副葬品の内容から私有財産、貧富の格差があったことを確認し、そのことから原始共産社会が崩壊していく過程を説明している。

堯・舜・禹の伝説については、黄河流域の部落連盟で首長の交代が民意に従って行われた点について述べ、この三人がいずれも私有財産を形成していたと推定されることから、原始社会が終焉を迎えたことを説いている。

「世界史」では、中国の農耕文化は、黄土地帯で村落生活をした住民たちの初期農耕文化に磨製石斧や彩文土器があることから、西方の文明が「草原の道」「オアシスの道」「海の道」を通過して伝わって来たと推定している。母系氏族社会、父系氏族社会という社会発展法則はとられていない。「中国歴史」の見方とは根本的な違いである。

(二) 奴隸制社会について

「中国歴史」によれば、氏族社会から奴隸制社会への移行は、生産力の発展と富の片寄りから、平等な氏族社会制度が存立し得なくなったためであるとし、奴隸制社会へ入ったことは社会の進歩であると述べている。そして夏王朝が奴隸制国家として前二十一世紀に成立し四百年の統治を

続けたこと、その間に奴隸たちが圧迫された生活を強いられたことを列挙し、とくに夏の桀王の暴虐政治に対して民衆の怒りが爆発して、商部落の首長に従って、夏王朝を倒したとしている。

「世界史」によれば、氏族社会の形成と奴隸制社会への移行についての記述は全く見られない。そして歴史的に確認できる商王朝の成立から記述を始め、それ以前の夏王朝は伝説として、歴史的価値を認めていない。商王朝（殷）時代の文化遺産として、殷墟から発見された甲骨文や副葬品の多様さから殷王の権力が強大であったことを確認しているが商王朝が奴隸制社会であったという記述はない。そして周一族が前十一世紀に商を倒して周を建国したと書いていただけである。

「中国歴史」では、殷墟出土の青銅器の名品について詳述し、これら奴隸制社会の富は奴隸の労働によるものであることを力説し、搾取に対する奴隸たちの反抗闘争で商王朝を倒したと記述している。また当時の奴隸は逃亡を防ぐために額に焼きこめて記号をつけられ、首に綱をつけられたまま労働させられたことや、先祖を祭るために「人性」と呼んで供え物として殺されたことなどが、甲骨文から解説された点を強調している。これらは、マルクス主義の社会発展法則に従って、氏族社会から奴隸制社会への移行を、

具体的に説明したものであろう。

(三) 西周の時代……奴隸制社会か封建制社会か

「世界史」によれば、周ははじめ殷に帰属していたが、前十一世紀に殷を滅ぼし華北を支配した。周は一族、功臣、土着の首長に封土を与えて世襲の諸侯とした。諸侯の下には卿、大夫、士などの世襲の家臣がいて領地を与えられるという氏族の性格の強い封建制度であった。

「中国歴史」によれば、商王朝の奴隸たちは周軍の側について戦い、商王朝は滅亡したが、周もまた奴隸制国家であり、土地は諸侯に分封したが固有であった。奴隸の価値は五人で馬一匹と引き換えであった。周の歴王のとき平民たちの「国人暴動」が起こり、奴隸もいっしょになって立ち上がり「周召共和国」が成立し、周王朝は追われて洛陽へ都を移し、東周と呼ばれた。

このように、同じ時代について、「中国歴史」では奴隸制国家と規定し、「世界史」では封建制度としていて、見解が違っている。統治の形態から見れば封建制度であるが、民衆の側からすれば奴隸制度は引き続いている。「中国歴史」では奴隸制度が崩壊するのは、次の春秋時代であり、各地で発生した奴隸たちの革命闘争の事例をあげている。

(四) 土地はどのようにして私有化されたか。

「世界史」によれば、春秋戦国の時代には、鉄製農具の発達や牛耕の普及により農業生産力が伸び、商業が発達し、このような状態の中で周代の古い制度が崩れ、土地は公有から私有に変わったとしている。

「中国歴史」によれば、西周のころには城郭都市の周囲の原野に用水路と道路をつくり、畦道によって井の字形の井田をつくって奴隸により集団耕作をさせていた。春秋の後期には鉄器の生産が普及し牛耕も始まり、奴隸主たちは井田(国有)以外に、荒地を耕して私田を増やし、奴隸の管理により耕作をさせた。こうして奴隸主は封建地主となり、奴隸は指定された土地を耕作する農民に変わっていった。奴隸に逃げられた田は荒れ果て、農民として定着した土地は作物が実る。農民はわずかながらでも自分の貯えができるようになり、こうして奴隸制度は次第に崩壊していった。

このように「中国歴史」では、土地の私有化と奴隸制度の崩壊とを結び付けて説明している点で説得力がある。

(五) 古典思想の評価……あまりにも大きな見解の違い

春秋戦国の時代に輩出した諸子百家の評価については両者の紹介のしかたには余りにも大きな違いがある。「中国

歴史」に見られる評価は、現代中国の思想を反映しているものであろう。

その他「世界史」ではこの時代の著作として、諸子百家以外に「書経」「詩経」「楚辞」を歴史的文学的作品としてあげている。

「書経」は伝説も含めて周王朝までの歴史を記したものの。

「詩経」は周代の詩歌を編集したもので中国最古の詩集。

「楚辞」は戦国時代の楚の屈原らの詩歌を中心に編集したものの。

と紹介している。

「中国歴史」によると、「詩経」は民間の民謡を集大成した中国最古の詩集で三百篇余りの作品が載せられている。中には働く人民の生活や労働の様子を描写が幾つかあり、奴隸たちの声や願いを反映しているのとべている。「楚辞」については、屈原の詩を高く評価し、とくに「離騷」という詩をとりあげて彼の人民にたいする熱愛の心を表現したものと称えている。また「中国歴史」は、各時代の科学技術の発展を大きく取り上げている。天文暦法では「甘石星経」が世界最も古い著作であり、その内容がきわめて進んだもので農業生産の発展のために貢献したことや、医学では「内経」が人体内部について正確に記述してあること、病理学にもとづく科学的な治療法をあげていることな

孔子	「世界史」	「中国歴史」	荀子	「世界史」	「中国歴史」
孟子	孔子は社会の秩序の基礎を「仁」に置き「孝、悌」という家族道徳と治国平天下という政治目標を関連させるといふ説をたてた。	孔子は統治者たちに向かつて、人民に対する「仁」を説いているが、それは結局、搾取階級の統治を維持するための思想である。孔子の「天命」思想は天の神が人々の生命、富貴を決定していると同じだ。すなわち「天命」は統治者の意志と一致しているといふもので、支配階級擁護の思想である。しかし、孔子の教育者としての教授方法はユニークなものとして評価している。弟子たちが田畑で肉體労働することを反対している点については批判している。	老子	老子・荘子の道家思想は、儒家の思想が人為的な無用の礼を説くものとして退け、無為自然を説いた。後に迷信的な民間信仰と結び付いて、中国思想界に大きな影響を与えた。	老子は「道德経」といふ書の中で、各種の事物はすべて対立する面をもっていて、それらは互いに転化しあうと説いたと記している。（老子の思想の中に、弁証法の考え方を見いだし評価しようとしていると思われる。）しかし、老子が社会変革の流れに直面して、自分の無力を痛感し、「無為」を主張し譲歩を称えたことは、奴隸制社会が崩壊する時代の支配階級の没落思想を反映したものであると批判している。
支配階級が搾取圧迫するのは理にかなっており、頭を使う者が肉體労働する者を統治するのは当然であると説いている。しかし、人民を尊ぶべしとも述べて「仁政」による租税の軽減を主張している点の評価している。	荘子	老子の思想をもっと消極的にした道家の代表として、「人間は自然に勝るものではない。」「役に立つものは役に立たないものの良さに			

「世界史」		法によって天下を治めようとする思想で、秦の統治に採用された。	墨子 墨子は儒家を批判する立場に立ち「兼愛」無差別の愛と「交利」相互扶助を説き、「非攻」戦争
「中国歴史」	は及ばない。「生きていくことは死んでしまうことの良きには及ばない。」と述べていることを紹介している。	法家の代表的人物。歴史は前に向いて進んでいて、現在の方が昔よりも優れている。古い伝統は守る必要はない。現在の必要に応じた政治改革を進めるべしと説いた。君主専制の中央集権国家をつくり国権を強め、法律を全国に公布し厳守させよう。人民の反抗は厳しい刑罰で鎮圧すべし。…この思想は秦の始皇帝によって採用された。	墨子は「兼愛」を主張し、略奪戦争に反対した。彼は奴隷の悲惨な境遇に深く同情し、奴隷主の死に多くの奴隷たちが殉葬されることに反対した。墨子は賢明で能力のある人が選ばれて国王や役人になることを主張し、地位の高い人
「世界史」	を否定し、平和を主張した。	兵家（孫子、呉子） 縦横家 外交策を説く。（蘇秦、張儀） 陰陽家 天体と人間の関係を説く。（鄒衍）	その他
「中国歴史」	達が親族関係に依存して富を手に入れることに反対した。これは奴隷主貴族の世襲専制に反対するものであった。 しかし墨子の「兼愛」思想は、階級対立と階級闘争を否定するものである。	墨家学派の人たちは質素でよく働き、数多くの道具を作った。「墨経」には多くの科学原理を記録し大きな貢献をした。	孫子は優れた軍事家で、自分の経験をもとめて世界的に有名な「孫子の兵法」を書いた。その中で戦略戦術について系統的に述べ、兵力を集中して敵を撃ち破ることの重要性を説いた。

などを紹介している。芸術の面では精巧な絵画表現のある青銅器や古代の楽器「編鐘」などをとりあげ、科学・芸術などのいろいろな方面で中国文化が早くから進歩していたことが書かれている。

(六) 春秋戦国時代に、農業商工業はなぜ発達したか。

「世界史」によれば、西周は異民族の侵入を受け、追われて洛陽に遷都して東周となり、諸侯が勢力を得てきて、春秋五霸、戦国の七雄が互いにしのぎを削る乱世となり、最後に秦が前二二一年に中国を統一したとしている。この時期、土地の公有は私有となり、世襲的な身分制や氏族制的な統制もゆるんできたこと、長江流域や四川方面、東北へと中国文化圏が拡大したことを述べている。

また戦国時代には鉄製農具の普及により農業生産が高まったことや、諸国の富国政策の成果として商工業の発達と貨幣経済をあげている。

「中国歴史」によれば、春秋戦国の五覇七雄はいずれも奴隸制国家であり、奴隸たちは家畜なみの扱いを受けながら戦争や強制労働にかりだされていた。秦が秦に滅ばされたのは奴隸たちの逃亡によるものであり、鄭でも奴隸の反乱が大規模に発生したという事例をあげている。

周の歴王が「国人暴動」で追われたのも平民と奴隸に対

する圧政が原因であった。公田から私田への移行は奴隸たちの反抗闘争の成果であったことを示唆している。そして戦国時代を封建社会の始まりと規定している点で「世界史」のとらえかたと相違していることは前述のとおりである。

奴隸の身分から、土地を貸しあたえられて農民となった人々は、意欲的に生産に取り組み社会生産を発展させた。

この時期には施肥の知識などの進歩とともに、灌漑水利工事が各国で行われた例として「都江堰」「鄭国渠」があげられている。また製鉄製塩や手工業、商業が発展し、封建都市ができたのも、この時代の特徴としている。

奴隸制度が崩壊したことが、この時代の産業発展のもとになったという説明は、学習者にとって理解しやすいと思われる。

(七) 秦の統治と滅亡

「世界史」には、秦は法治主義の中央集権国家として、全国的な郡県制の実施、貨幣・度量衡・文字の統一、焚書・坑儒による思想統制、地方都市の城壁の撤去、民間の兵器の没収、匈奴の征討、長城の修築などあまり急激な改革をしたので、保守的な人々の反感を高め、財政上の負担を人民にかけたため、各地に反乱が起って滅亡したと書かれている。

「中国歴史」でも、秦始皇帝の強固政治について同様な見方をしている。とくに始皇帝が政治軍事の経済の大権を自分一人の手中に収め、絶対君主として君臨し専制主義の中央集権政治を行ったことについて、湖北省出土の竹簡に記された「秦律」の内容によって証明し、「不律」は働く人民の反抗を厳しい刑罰で鎮圧するものであったとしている。また焚書坑儒が思想弾圧で文化を踏みじったと批判している。長城については古代労働人民の血と汗と知恵の結晶であると強調している。

秦が滅亡するまでの経過については、秦の苛酷な統治にたいして兵士であった陳勝・呉広の指導の下に農民兵士が反乱武装蜂起し、これに呼応して各地の農民が参加して秦を攻め、ついに「張楚」革命政権を樹立するにいたったことをくわしく述べている。陳勝呉広の軍は秦の反撃に敗れたが、地主階級に対する史上初の大規模な農民戦争として、二人の革命精神を永遠不滅と称賛している。その後、項羽・劉邦が協力して秦を滅亡させた戦いも農民の革命軍による勝利と評価している。

「世界史」では、このような戦いを、戦国時代以来の個人の勢力を第一とする世情であったことによるものとしている。

秦末の農民戦争を個人の勢力第一主義と見るか、民衆の

革命エネルギーの爆発と見るか、見解の分かれるところである。

(八) 前漢の政治

漢の高祖(劉邦) ははじめ一族、功臣に土地を与えて諸侯国の王としたが、諸侯たちの勢力が大きくなり中央政権を脅かすようになったので諸侯の土地をとりあげ権力を奪っていった。そのため「七国の乱」が起こったがこれを平定して諸侯の弱体化に成功し、中央政権を強固なものにしていった。この過程については「世界史」も「中国歴史」もほぼ同様の記述をしている。

「中国歴史」が特に強調しているのは、漢の初期六十〜七十年間に農民に対して休養生長政策をとったので社会の生産力が伸び豊かな社会になったことである。租税の軽減、農民に農地を回復する、兵士を帰農させる、労役の免除、刑罰の軽減などで、文帝景帝も引き続いてこの政策をとったので生産力が伸び農民の生活が安定した。また「六補渠」「白渠」などの水利工事や黄河の治水にも力を注いだので生産力が伸びた。このような農民優遇政策を肯定的に評価している点特徴的である。

しかし、やがて漢の政府は戸籍制度を採用し、それにもとづいて、田租、算賦と口賦、徭役、兵役の四項目を義務

付けた。農民は国家に対する義務以外に、地主からも搾取されきびしい生活を強いられたこと、一方で貴族達が贅沢な生活をしていたことが、貴族王族の墓地から発掘された出土品によって明らかになってきたことを詳しく述べている。

「世界史」でも、漢の内政について述べているが、初期の農民優遇策についての記述はない。遠征による出費で財政が苦しくなって「均輸」「平準」の物価安定策をとり、塩・鉄・酒などを専売としたこと、民衆に重税をかけ売位売官などをおこなったので社会が不安定になったことを述べている。

(九) 後漢の再統一と滅亡

「世界史」では、前漢の末に財政難解決のために「均輸」「平準」などの物価調節策をとるとともに民衆に重税を課し売位売官などを行ったために社会が不安定になり、宮廷内でも官宦や外戚の権力争いで皇帝の権威が低下し、外戚の王莽によって帝位が覆えされたと述べている。しかし王莽は社会の実情を無視したため「新」政権は農民の「赤眉の乱」や地方豪族の反抗を招いて倒れたとしている。

「中国歴史」では、前漢の末には地主階級が広大な土地を占有し農民は土地を失って流民となり奴隷化して階級間

の矛盾が先鋭化していたと述べている。また王莽の政治改革については奴隷の売買を許さず土地の独占を制限し再配分しようとしたが大地主や貴族たちに反対されて実施できず農民の不満があったこと、貨幣制度を改めて大銀を鋳造し交換レートを不当に高くして多くの破産者を出したこと、辺境の少数民族を馬鹿にして戦争をしかけたことなどをあげて批判している。

「緑林赤眉の農民決起」については、秦末の陳勝呉広が指導した農民の武装蜂起と同様に悪政に対する農民エネルギーの爆発として高く評価している。後漢の光武帝となった劉秀も野心を抱いて緑林軍に参加して自分の勢力を拡大していき最後には同じ立場の赤眉軍を倒して後漢の政権を確立した。

さらに後漢の末には大地主の搾取により餓死者やも出てついに全国的な規模の「黄巾の大決起」が爆発したいきさつを詳しく述べている。

「世界史」でも「黄巾の乱」として張角が指導した農民戦争によって後漢が滅び群雄割居の世になったと書いていてる。

「中国歴史」の記述によれば、農民戦争は「乱」ではなく「起義」または「農民革命」と記している。「中国歴史」では、その時代の階級間の矛盾対立と農民の力の結集が歴

史を推し進める力となっていることを強調しているところに大きな特徴がある。

(十) 『匈奴』に対する見解のちがひ

漢民族にとって匈奴が北部辺境で人畜を略奪し農地を荒らしまわるとは長い間の頭痛の種であったことは容易に理解できる。「中国史」では、秦代における單于の率いる匈奴の貴族を侵略略奪者として描いている。秦は將軍蒙恬の率いる三十万の軍で匈奴を追い、始皇帝は長城の修築に膨大な労働力と経費をつぎ込んだ。

前漢の初期に、匈奴の貴族が略奪を繰り返し人命財産農作物に害を与えたので、高祖は三十二万の軍をもって迎撃したが、匈奴に包囲され危うく脱出した。その後は和親政策をとり、皇帝の娘を匈奴の王に嫁し、毎年絹や食糧を贈っていたがそれでも匈奴の略奪は止まらなかった。

漢はその後には休養成長政策をとりその間に蓄えてきた国力を背景にして、武帝の時代になって匈奴に戦いを挑み、数十万の大軍を出して蒙古の砂漠に進撃して大勝利を得た後、百万人以上の農民をオルドス地方や河西回廊一帯に移住屯田させて砂漠を開発させ緑の農地にした。

武帝の出撃について「中国歴史」では、長い間の匈奴の侵略に対する反撃によって大勝利を得て、国土を守りぬく

ことができたというニュアンスの記述をしている。漢民族にとって匈奴は確かに手を焼く存在であったが、匈奴族全体を非難することはせず、侵略略奪は匈奴の貴族によって起こされたとしている。その後、匈奴の一部は定住農耕生活に入って中国人の一部となっているのであるから、侵略者は匈奴一般ではなく匈奴の貴族であるとしてその汚名を貴族にさせていかなければならない現在の国家的立場からすれば当然のことであろうか。

「世界史」では、武帝が領土の拡大を図り大遠征を行ったと記述している。漢民族の利益を守る見地から武帝の立場を擁護するような記述と比べて大きな見解の相違がある。平和な遊牧民の居住地であった内陸アジアの草原地帯に騎馬文化が伝わり、生活が不安定であった遊牧民が機動力戦闘力を持つようになったと述べ、匈奴・烏孫・月氏などを挙げている。匈奴が古くからの遊牧民であったことを考慮すれば土地についての考え方は農業民族とは異なったものであっただろう。いずれの側にも支配地域拡大の意図があったことは肯定できる。

前漢の武帝は匈奴に征服されていた西域の多くの少数民族国家を匈奴の支配から解放するために大月氏と挾撃しようと考え、張騫を使者として大月氏に向かわせたが張騫は

目的を果たすことが出来なかった。しかし西域の事情を知ることが出来たことは大きな収穫であった。西域への張騫の派遣は漢政府の力による支配のあらわれと見るべきであろうか。

後漢になっても北匈奴は北方地域を攻撃侵略し、西域各民族の交通を遮断し支配していた。後漢は出兵して匈奴を撃ち西域都護を設置している。さらに班超を派遣しローマとの交流があったことは「中国歴史」と「世界史」のいずれも述べている。シルクロードによる交易が東西の文化の交流を促進したことは、両著に共通するところであるが、「中国歴史」ではこの地域の少数民族について、漢民族と同化できたかどうかによってその存在を評価しているようである。

(十一) 「中国歴史」の特徴

以上、先史時代から漢代までの歴史記述を「中国歴史」と「世界史」で比較してみた。それ以後の時代の比較は継続して研究することにして、ひとまずこれまでの比較検討をもとにして若干の考察を試みたい。

① 「中国歴史」教科書の性格

「中国歴史」は中国の初中級学校（日本の中学校にあたる）における歴史教育の中心である。そして、これは今後

の中国人の歴史観を形成する基本になるものである。日本が中国と文化交流をすすめる上で、相手の中国人が自分の国の歴史をどう把握しているかを知っておくことは相互理解のためには必要な要素であると考えられる。中国が共産党の指導によっているかぎり、このような歴史観は続くと思われるべきである。文化大革命のような変革により若干の価値観の変動はあったかも知れないが、基本的にはこの歴史観は変わっていない。そしてまた、これは十億人を超える中国人の思想として定着してきていると見るべきであろう。

② 唯物史観の中国史

マルクス主義の歴史観の正否は別として、唯物史観に立って歴史の発展法則を適用した中国史の解釈が「中国歴史」の中心になっている。

猿から人間へ、北京原人がどのような能力を備えたヒトになってきたか、科学的な根拠のある説明をしている。

先史時代の社会が母系社会から父系社会へ移行していく実例を、最近の遺跡の発掘調査研究の成果を踏まえて説明していることや、奴隸制社会が成立する経過、さらに、広大な農地を所有する大地主階級が荘園の生産を維持していく上で農民の労働に頼らざるを得なかったという条件下で奴隸制社会が崩壊し封建制社会へと発展していった経過など、マルクス主義の社会発展法則をきちんと適用している

のが特徴である。

一つの時代から次の時代へと社会が発展していくのは、その社会のもつ内部矛盾が蓄積された結果、エネルギーの爆発的な変化によるものであるという理論を奴隸たちの闘争や農民の決起闘争として描いている。これもマルクス主義理論によるものと言える。そのため奴隸や農民の革命闘争をさわめて高く評価しているのが特徴的である。

春秋時代の反奴隸主闘争、秦末の陳勝と呉広の指導する農民蜂起、劉邦と項羽の軍も農民革命軍であったし、「緑林赤眉の決起」も前漢末の王莽の政治改革に不満を抱いた農民たちの革命闘争であったとしていることや、更に、後漢の末の張角が指導した「黄巾の大決起」も宗教的組織の運動が発展したものであったが、やはり漢時代を終結させた農民の革命闘争として高く評価している。

中国が共産党の指導下にあることや農民が国民の大部分を占めている現在の中国の現状からすれば、このような評価がされているのも当然であろう。

③ 中華思想の「中国歴史」

科学的な社会発展法則を適用した歴史観とは別に、漢民族の伝統的な中国中心の思想も随所に見られる。世界の中心は中国であり中華であるという根底の思想はどうしても捨て切れないようである。

中国へ侵入する勢力はすべて憎むべき侵略者であり、匈奴は侵略勢力であるという認識は時代が変わっても不変である。西域各地の少数民族のうち、中国と友好関係を保ち漢民族と融合するものは同胞であり、刃向かうものは侵略者である。中国は周辺各民族友好の中心であり、漢が各地へ進出して都護府を設置して支配したのは侵略とは見ない。文化の面でも中国が世界の中で先進的であったことを誇り高く記述している。天文、数学、医学、薬学などの成果、地動儀・紙の発明などが世界最初であったことなどは事実の記述であるが、自分達の民族の優秀性を誇示しているのも中華思想のあらわれとみてよいのではなからうか。

(十二) 国際理解のために

二つの歴史教科書を読み比べてみることによって、歴史の事実の一つである筈なのに、立場によって受けとめ方はこれほど異なるものであるということを確認できた。いずれを選択するかは各人の考えによるであろうが、国際理解を進めるうえで必要なことは、その国の国民が自分の国の歴史をどう認識しているかを知ることである。またその国家の歴史教育の理念について理解することが第一歩である。教科書は国民教育の基礎になるものであり、国民的な共通思想を形成する上で国家がとくに重要視しているのは日

本の場合も同様である。特に中国のような共産主義国家では歴史教育は思想教育の中核になるものであるから、歴史をいかに教えるかは歴史教育に携わっている人々にとって重要な課題である。

北京在任のころNHKの特派員を通じて、ある歴史教育者から懇談を申し込まれたことがあった。日本の学校での歴史教育について聞かせてほしいという要請であった。いろいろな質問に答えたあと、

「歴史教育によってどういう思想を持たせようとしているのか。」

と尋ねられ返答に窮した。

「歴史上の事実をありのままに伝えることが大切なのではないか。その価値や評価はやがて子どもたちが自分で考えるのに任せるしかないのではないか。」

私は自信のない返事しかできなかった。歴史を思想教育の一環として考えている中国人の歴史教育者にはどう受けとめられたであろうか。それでも彼は私の言葉をうなずきながらメモしていた。

国際理解をすすめるという立場から考えれば、互いに歴史の事実があるがままに受けとめるということが共通の理解の場であろう。日本の軍隊が中国で行ってきた事実をありのままに見るならば、これが「侵略行為」であった

ことをおおい隠すことはできない。

歴史観のちがいは思想のちがいである。歴史の事実をどう解釈するかはそれぞれの国によって差があるし、一人一人の考え方によっても変わってくる。そのことを踏まえて相手の国家や国民の立場を尊重していくことが必要なことは言うまでもない。しかし基本的には歴史研究の成果の上に立ってすべての事実をそのまま受けとめることが最も必要なことであろう。自分の立場から都合のよい事実だけを取り上げるような歴史の見方は慎まなければならない。それでもなお歴史観の差は生じてくるであろうが、それ以上は相手の立場を理解しながら交流を進めていくという心がまえで臨まなければならぬ。

“Bathala and the rainbow” を題材としての授業

テヘラン日本人学校

備前市立備前中学校 根 葉 健 児

本誌の「子供のための世界の国ぐに」シリーズの中から、1988年版第5号、Favourite Stories from Asia, “Bathala and the rainbow”、井関繁孝先生著を題材として授業を行った。

中学3年生のヒアリング教材として使用した。時期は2月後半で、教科書も終わり、中学で学んだ英語の総まとめという形で、この題材を使用した。

授業の流れは以下の通りである。

1. 教師が全文を読んで聞かせる。
2. 単語や熟語で習っていないもの、難しいと思われるものを選び、その意味を板書する。選んだ語は、rainbow、Bathala、goddess、join、used to、forest、kingdom、servant、so that、ribbon、appear、Philippinoであった。
3. 再び教師が全文を読んで聞かせ、生徒に大意を把させる。
4. 生徒にQuestionのプリントしたものを配布し、解答を考えさせる。
5. 教師が全文を読み、生徒はプリントのQuestionに答えを記入する。
6. 全文をプリントしたものを生徒に配布し、正答を伝えると同時に、全文の要約を伝える。

ヒアリング教材としては、やや難易度が高いものであるが、ゆっくりと読んで聞かせ、単語・熟語の意味を伝えてからは、かなりの生徒が大意をつかんでいた様子であった。

Questionの正答は60%～70%位であった。

生徒達は、教科書とは異なった教材であることや、Philippineの“Rainbow”のいわれを知ること、興味を示していた。

反省として、この教材はAETとの協力のもとで行うべきだったと考える。影絵か紙しばい形式で、視覚に働きかければ、より多くの生徒が、はやく理解し、単語などの意味も板書する必要はなかったのではないかと思われる。次のチャンスを利用して再び行ってみたい。

最後に、使用した題材を以下に載せておきます。

2 BATHALA AND THE RAINBOW

THE PHILIPPINES

In the beginning there was no rainbow. Bathala was king of the gods and goddesses. He used the rainbow as a bridge to join the earth and sky.

In those days, Bathala and the gods and goddesses used to live on earth. They taught people how to catch animals in the forest, how to grow fruit, and how to make war.

One day, Bathala decided to visit his kingdom in the sky. He got ready his strong fine horse which could jump over mountains and run as fast as the wind. He sat on a gold seat. He rode on his horse. He called out to his servants in the sky and told them to build a bridge so that he could pass over it. All at once, beautiful, many colored ribbon appeared joining the earth to the sky. Bathala rode over this bridge on his horse to the kingdom.

Since that time, a rainbow has been called BAHAGHARI in the Filipino language. It means "way-bridge of the king". Today, when people see a rainbow in the sky, they know that Bathala is again making a trip from earth to the sky on his strong horse.

Q 1 適当なことばを選んで、○をしなさい。

- (a) Bathala taught people
- 1 how to make war.
 - 2 how to ride a horse.
 - 3 how to make a rainbow.

- (b) One day, Bathala decided to visit
- 1 his wife in the sky.
 - 2 his kingdom in the sky.
 - 3 the people in the sky.

Q 2 適当な答を選んで、○をください。

(a) Did Bathala live alone on the earth ?

- 1 Yes, he does.
- 2 No, he wasn't.
- 3 Yes, he did.
- 4 No, he didn't.

(b) Where did Bathala go ?

- 1 He went to the earth.
- 2 He went to the God.
- 3 He went to the mountain.
- 4 He went to the kingdom.

(c) Why did Bathala want to build a rainbow ?

- 1 Because he wanted to make a ribbon.
- 2 Because he wanted to make a gold seat.
- 3 Because he wanted to stop the war.
- 4 Because he wanted to pass over the sea.